

第4章 若者意識調査の結果

I. 回答者のプロフィール

1 居住区 [問3]

■回答者の居住区は、「城東区」が7.3%で最も多く、次いで「住吉区」が6.8%、「淀川区」が6.4%、「平野区」が6.3%となっている。

・居住区

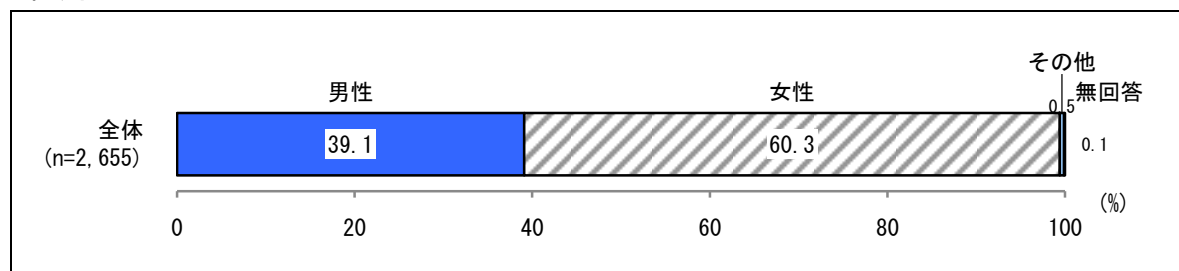
		全体		男性		女性		15～29 歳		30～39 歳	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
1	北区	139	5.2	63	6.1	74	4.6	55	4.4	82	6.0
2	都島区	109	4.1	32	3.1	75	4.7	45	3.6	64	4.7
3	福島区	82	3.1	36	3.5	46	2.9	34	2.7	47	3.4
4	此花区	47	1.8	19	1.8	28	1.7	21	1.7	25	1.8
5	中央区	103	3.9	32	3.1	71	4.4	43	3.4	60	4.4
6	西区	93	3.5	32	3.1	61	3.8	33	2.6	59	4.3
7	港区	69	2.6	37	3.6	32	2.0	33	2.6	36	2.6
8	大正区	54	2.0	23	2.2	31	1.9	31	2.5	23	1.7
9	天王寺区	98	3.7	40	3.8	57	3.6	42	3.3	54	3.9
10	浪速区	41	1.5	14	1.3	27	1.7	21	1.7	19	1.4
11	西淀川区	97	3.7	39	3.8	58	3.6	46	3.7	50	3.6
12	淀川区	171	6.4	72	6.9	98	6.1	91	7.2	79	5.8
13	東淀川区	151	5.7	59	5.7	92	5.7	82	6.5	69	5.0
14	東成区	72	2.7	31	3.0	41	2.6	36	2.9	36	2.6
15	生野区	81	3.1	34	3.3	47	2.9	42	3.3	38	2.8
16	旭区	88	3.3	29	2.8	59	3.7	44	3.5	44	3.2
17	城東区	194	7.3	73	7.0	120	7.5	86	6.8	107	7.8
18	鶴見区	140	5.3	52	5.0	87	5.4	68	5.4	69	5.0
19	阿倍野区	133	5.0	40	3.8	91	5.7	59	4.7	73	5.3
20	住之江区	127	4.8	57	5.5	67	4.2	57	4.5	67	4.9
21	住吉区	180	6.8	69	6.6	111	6.9	88	7.0	88	6.4
22	東住吉区	140	5.3	55	5.3	85	5.3	71	5.6	68	5.0
23	平野区	168	6.3	75	7.2	92	5.7	93	7.4	75	5.5
24	西成区	73	2.7	26	2.5	47	2.9	36	2.9	37	2.7
	無回答	5	0.2	—	—	4	0.2	—	—	2	0.1
n(回答者数)/ 構成比(%)の合計		2,655	100.0	1,039	100.0	1,601	100.0	1,257	100.0	1,371	100.0

※性別・年齢が未回答を除く

2 性別 [問 1]

■回答者の性別は、「男性」が39.1%、「女性」が60.3%となっている。

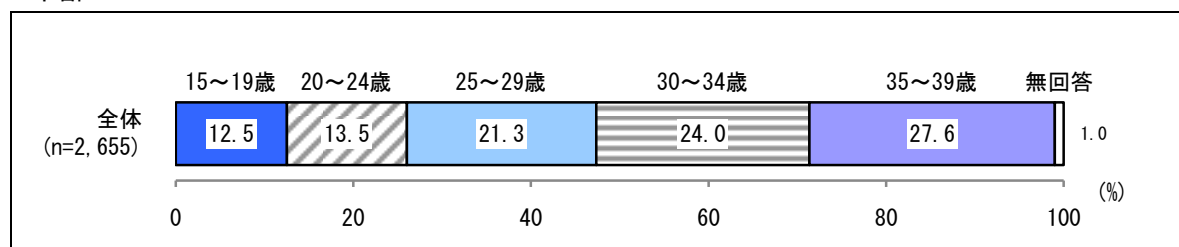
・性別



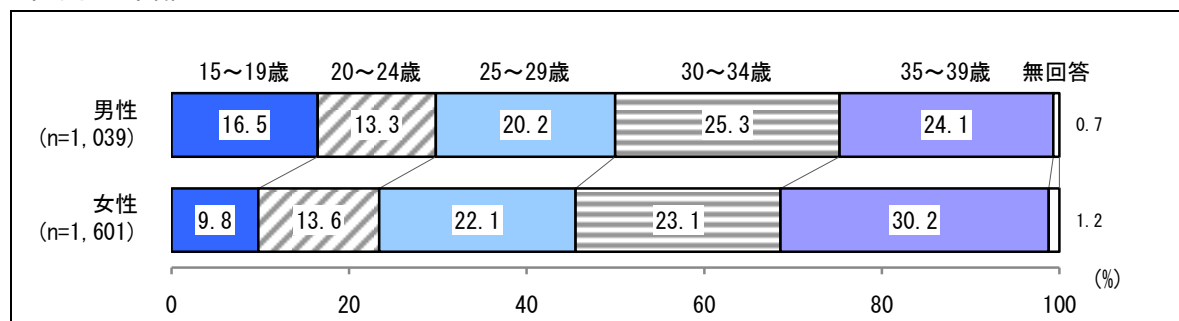
3 年齢 [問 2]

■回答者の年齢は、「35～39歳」が27.6%で最も多く、次いで「30～34歳」が24.0%、「25～29歳」が21.3%となっている。

・年齢



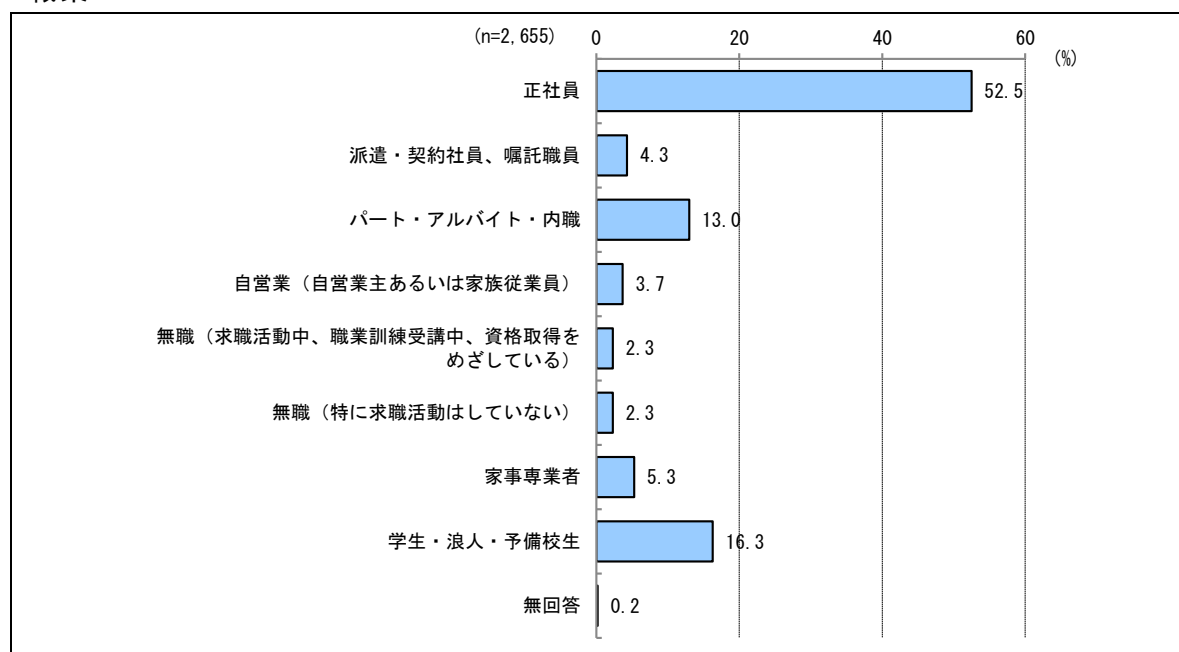
・性別 年齢



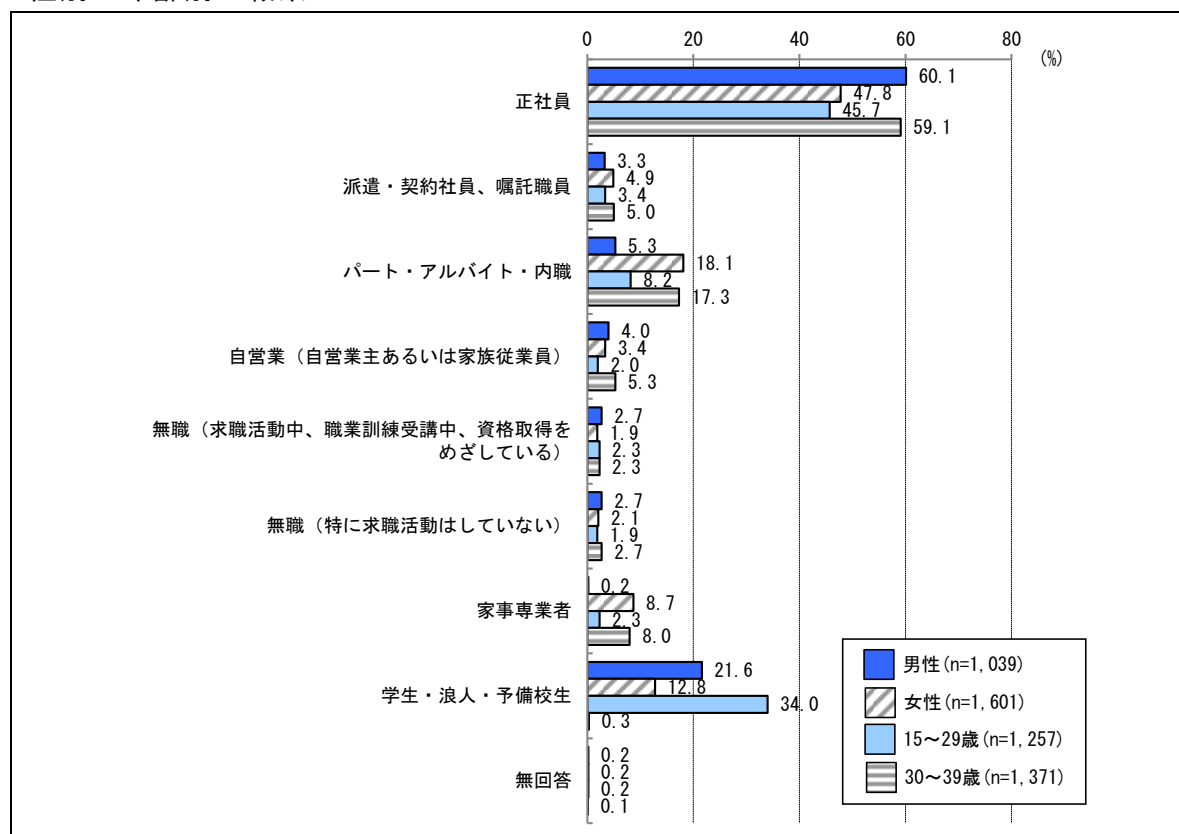
4 職業 [問 4]

- 回答者の職業は、「正社員」が52.5%で最も多く、次いで「学生・浪人・予備校生」が16.3%、「パート・アルバイト・内職」が13.0%となっている。
- 性別でみると、男女とも「正社員」が最も多く、男性は60.1%、女性は47.8%となっている。
- 年齢別でみると、「正社員」が、15～29歳で45.7%、30～39歳で59.1%と最も多くなっている。

・ 職業



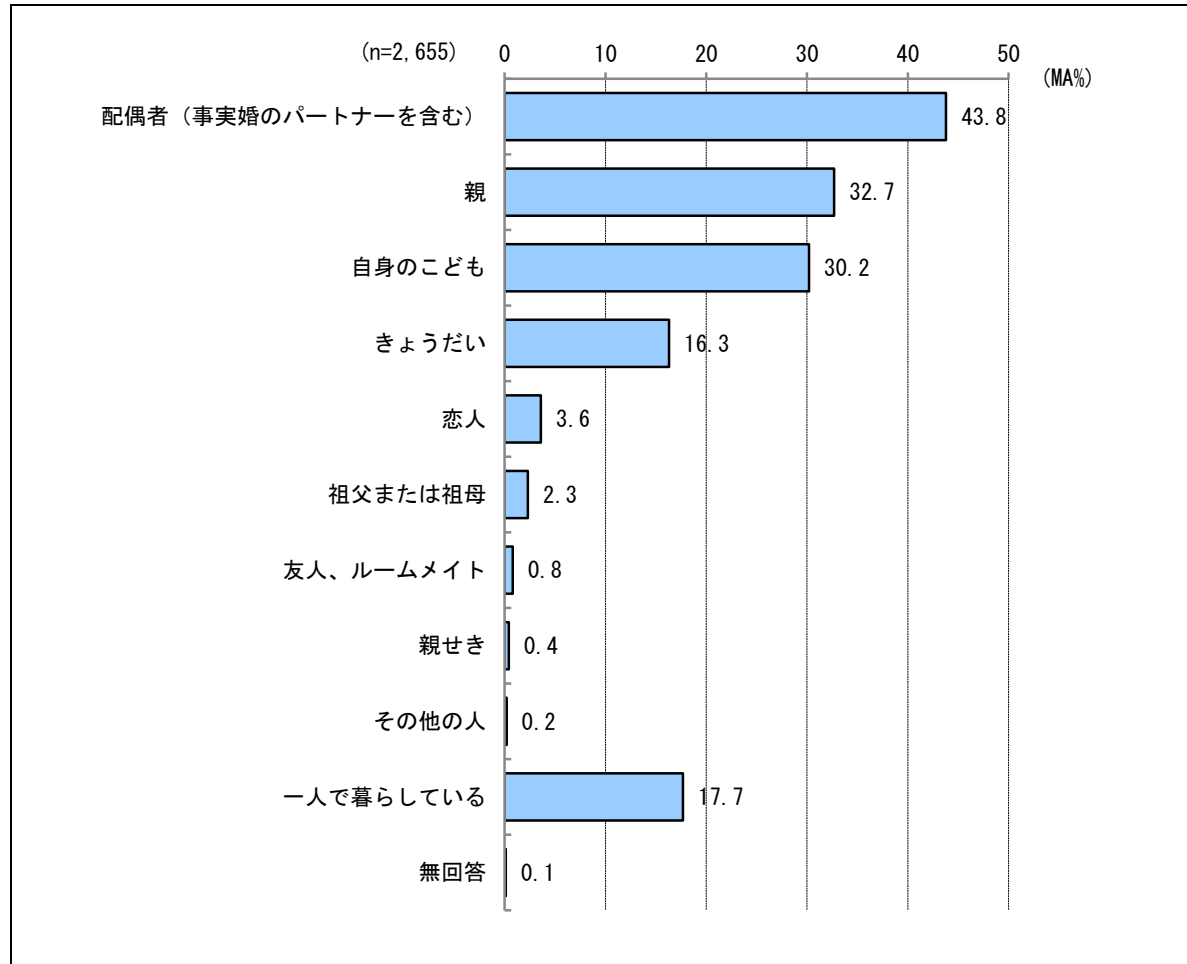
・ 性別・年齢別 職業



5 同居者 [問5]

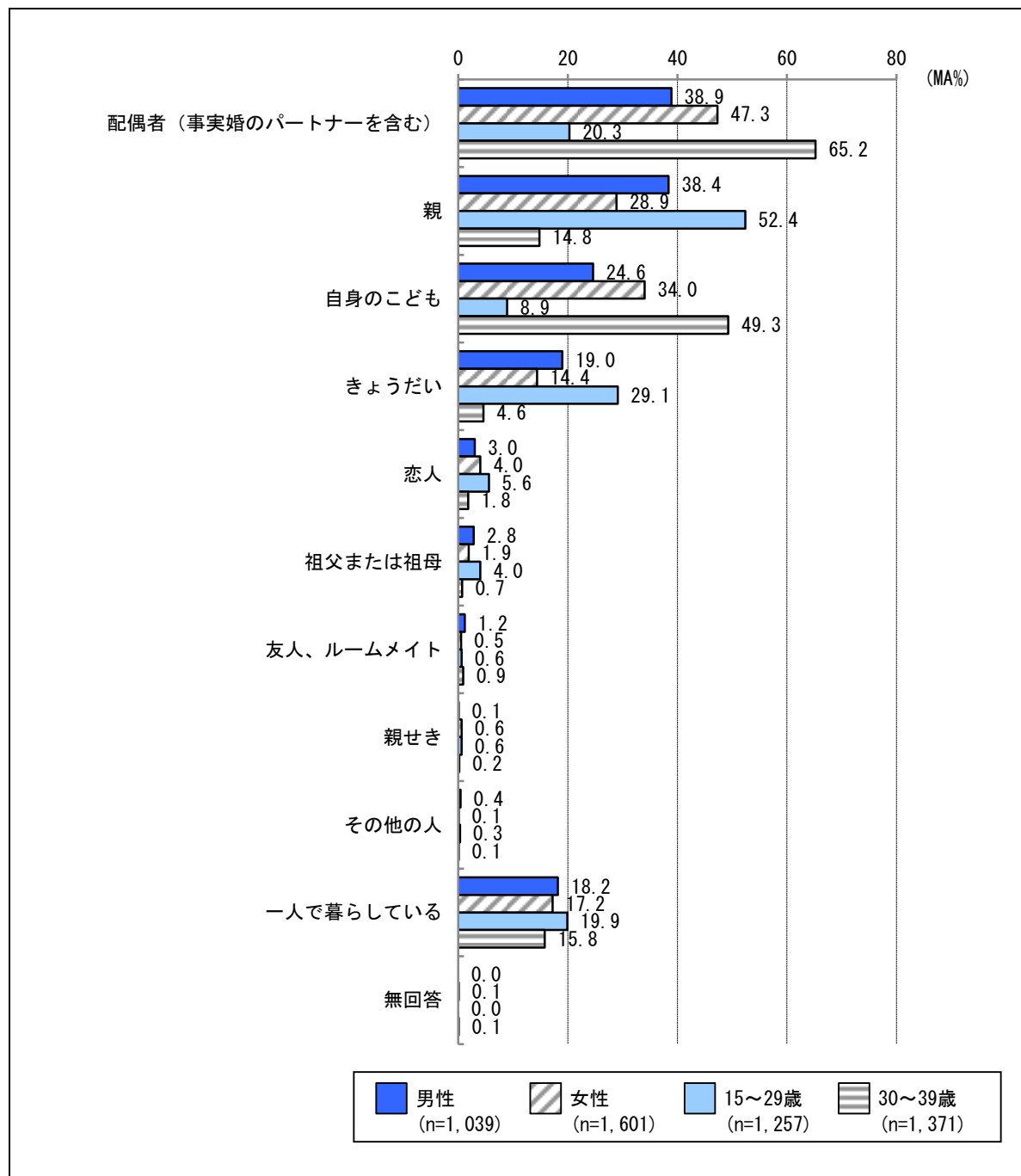
■回答者の同居者は、「配偶者（事実婚のパートナーを含む）」が43.8%で最も多く、次いで「親」が32.7%、「自身のこども」が30.2%、「一人で暮らしている」が17.7%となっている。

・同居者



- 性別でみると、男女とも「配偶者（事実婚のパートナーを含む）」が最も多く、男性は38.9%、女性は47.3%となっている。これに次いで、男性は「親」が38.4%、女性は「自身のこども」が34.0%となっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「親」が52.4%で最も多く、次いで「きょうだい」が29.1%となっている。30～39歳は「配偶者（事実婚のパートナーを含む）」が65.2%で最も多く、次いで「自身のこども」が49.3%となっている。

・性別・年齢別 同居者



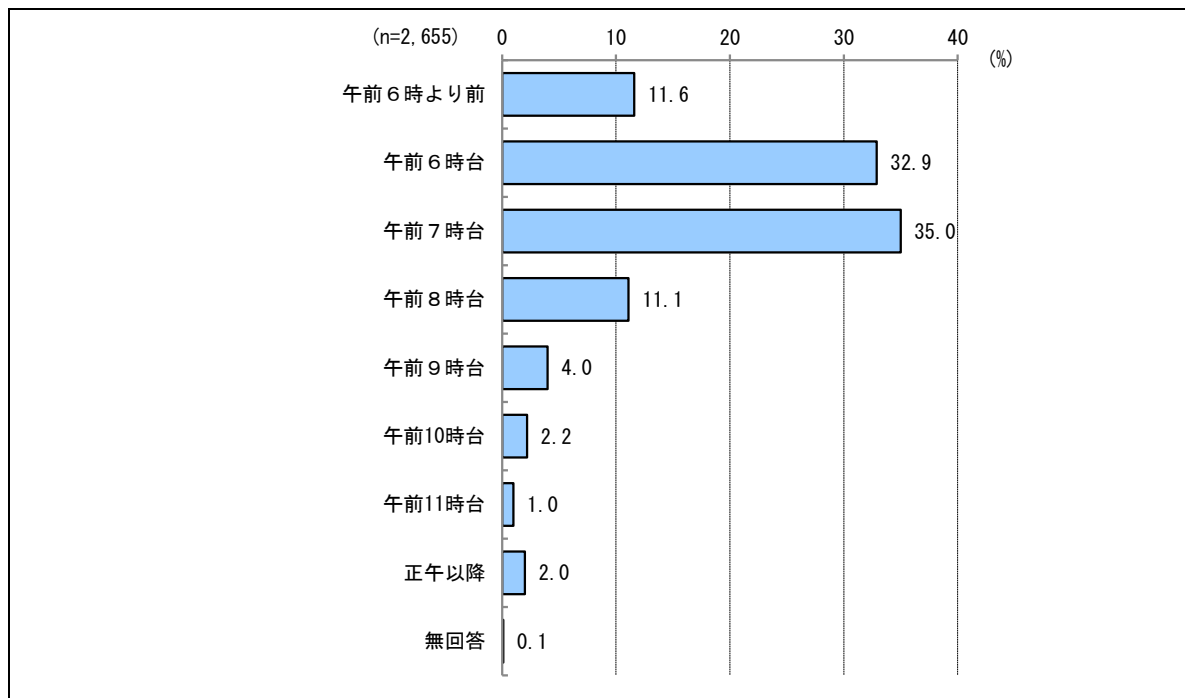
Ⅱ. 毎日の生活について

1 起床時間

問 6 あなたはふだん（平日）何時ごろ起きますか。（もっとも近い時間の番号に○は1つ）

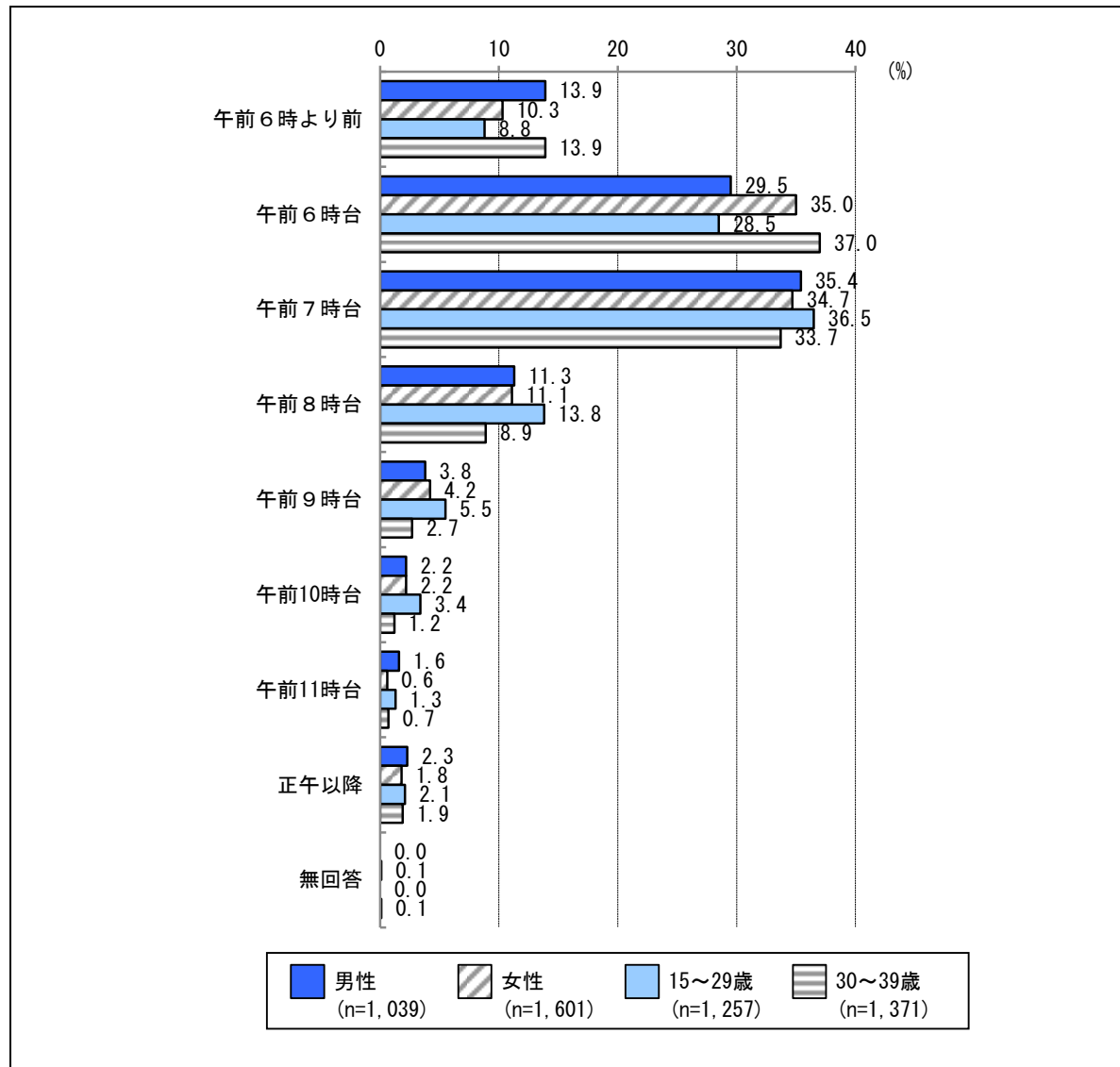
■ 平日の起床時間は、「午前7時台」が35.0%で最も多く、次いで「午前6時台」が32.9%、「午前6時より前」が11.6%、「午前8時台」が11.1%となっている。

・ 起床時間



- 性別でみると、男性は「午前7時台」が35.4%、女性は「午前6時台」が35.0%で、それぞれ最も多くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「午前7時台」が36.5%、30～39歳は「午前6時台」が37.0%で、それぞれ最も多くなっている。

・性別・年齢別 起床時間

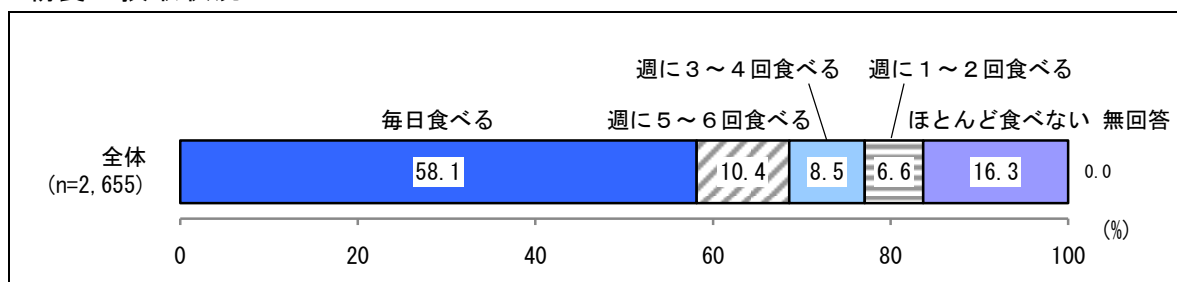


2 朝食の摂取状況

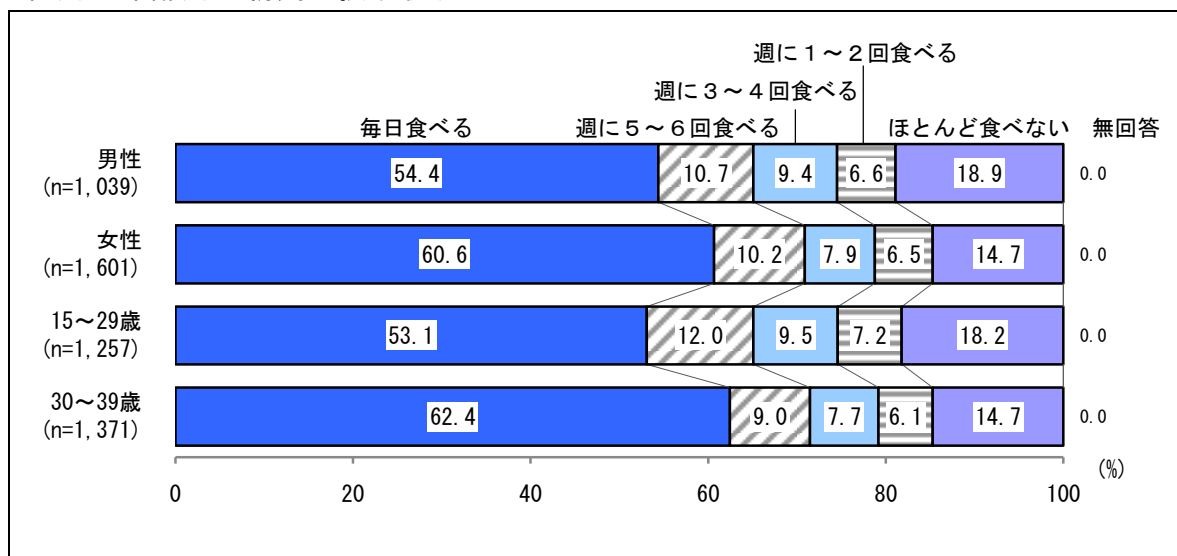
問7 あなたはふだん朝食を食べますか。（○は1つ）

- 朝食の摂取状況は、「毎日食べる」が58.1%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が16.3%、「週に5～6回食べる」が10.4%となっている。
- 性別でみると、「毎日食べる」は男性（54.4%）より女性（60.6%）のほうが6.2ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「毎日食べる」は15～29歳（53.1%）より30～39歳（62.4%）のほうが9.3ポイント高くなっている。

・朝食の摂取状況



・性別・年齢別 朝食の摂取状況

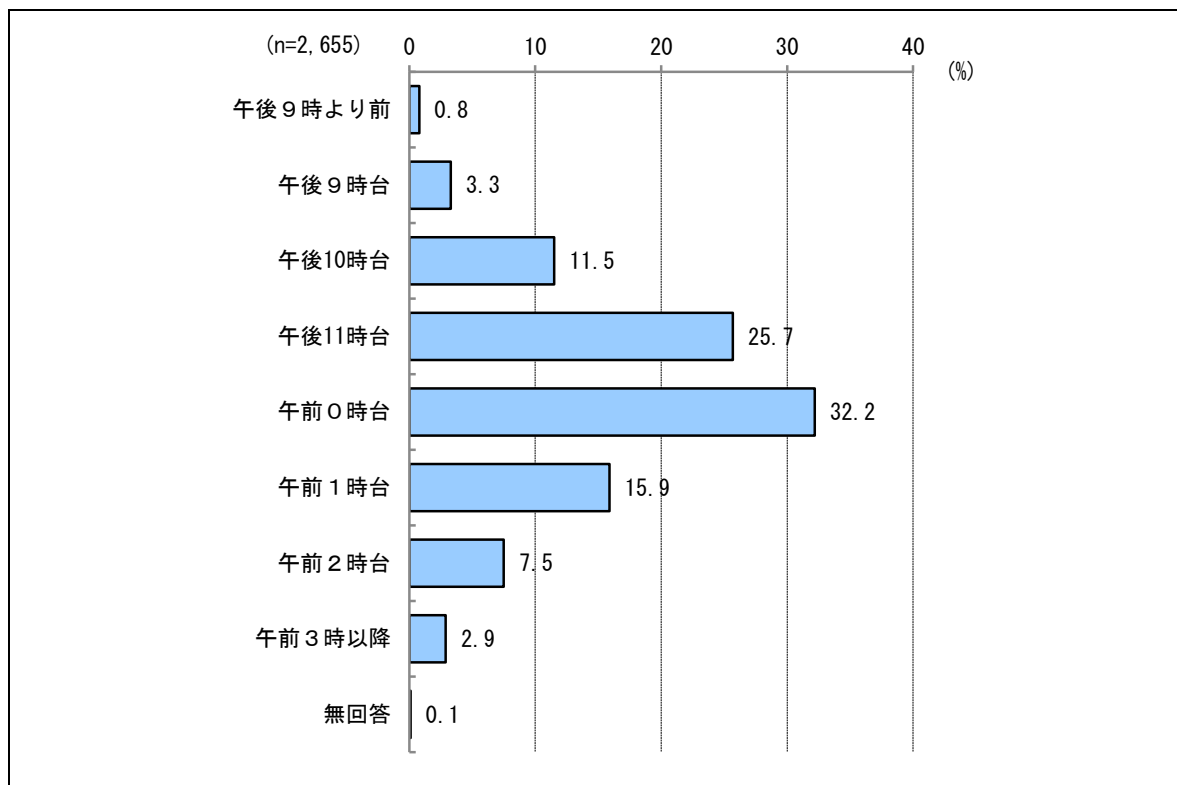


3 就寝時間

問 8 あなたはふだん（平日）何時ごろ寝ますか。（もっとも近い時間の番号に○は1つ）

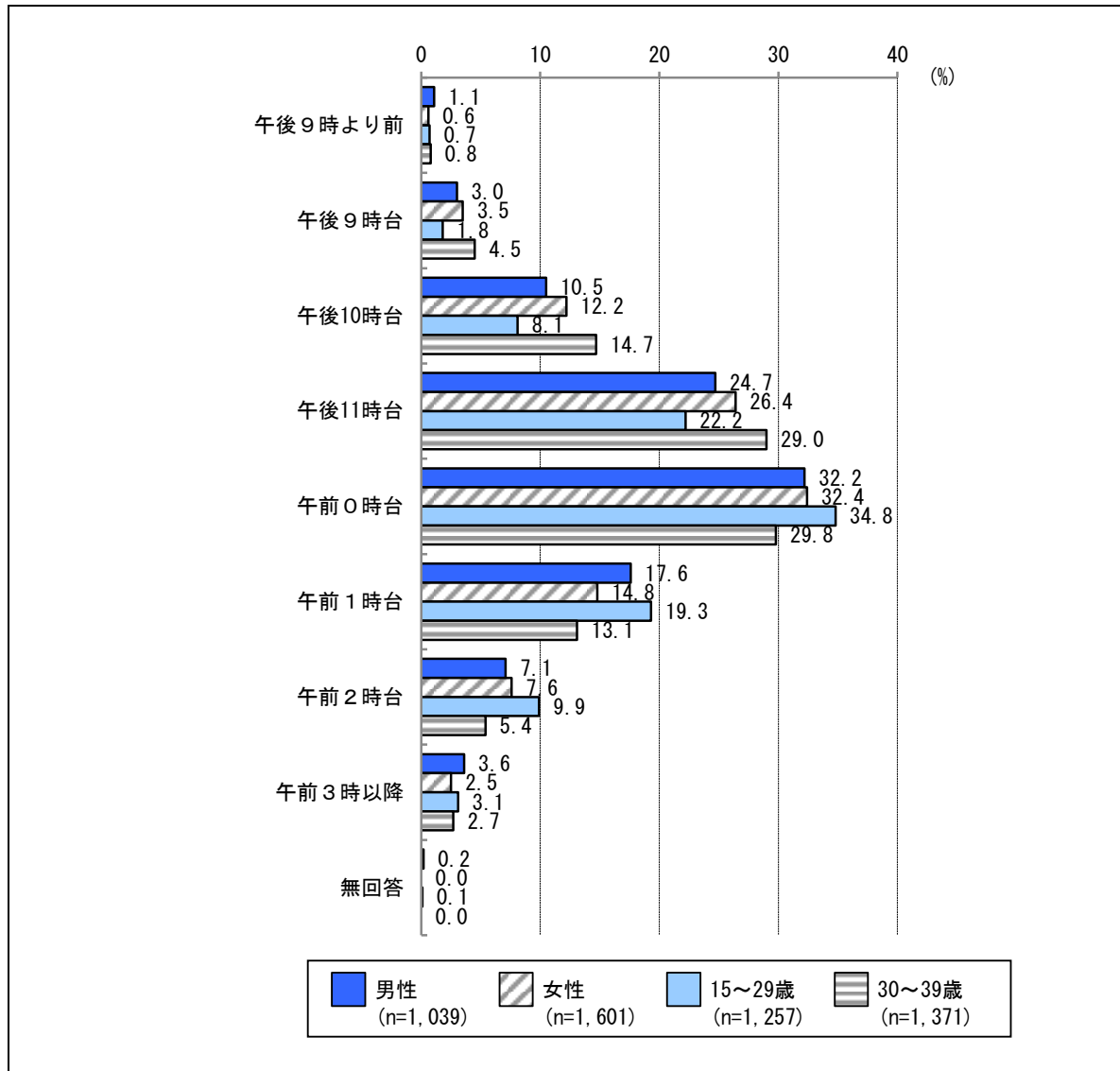
■ 平日の就寝時間は、「午前0時台」が32.2%で最も多く、次いで「午後11時台」が25.7%、「午前1時台」が15.9%となっている。

・ 就寝時間



- 性別でみると、男女とも「午前0時台」が最も多く、男性は32.2%、女性は32.4%となっている。
- 年齢別でみると、いずれの年齢も「午前0時台」が最も多く、15～29歳は34.8%、30～39歳は29.8%となっている。

・性別・年齢別 就寝時間

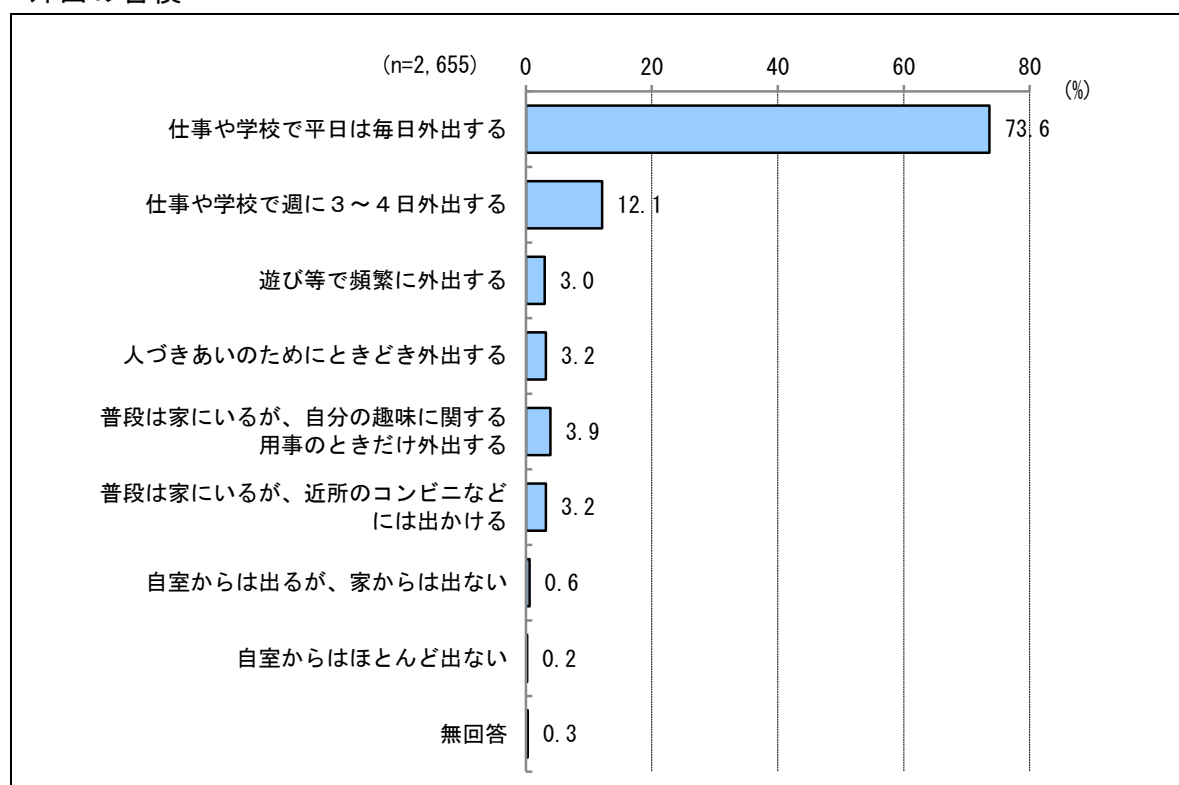


4 外出の習慣

問9 あなたはふだんどのくらい外出しますか。最もあてはまるものに○をつけてください。（○は1つ）

■ふだんの外出については、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が73.6%で最も多く、次いで「仕事や学校で週に3～4日外出する」が12.1%となっている。また、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」（3.9%）、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」（3.2%）、「自室からは出るが、家からは出ない」（0.6%）、「自室からはほとんど出ない」（0.2%）をあわせた『普段は家にいる』は7.9%となっている。

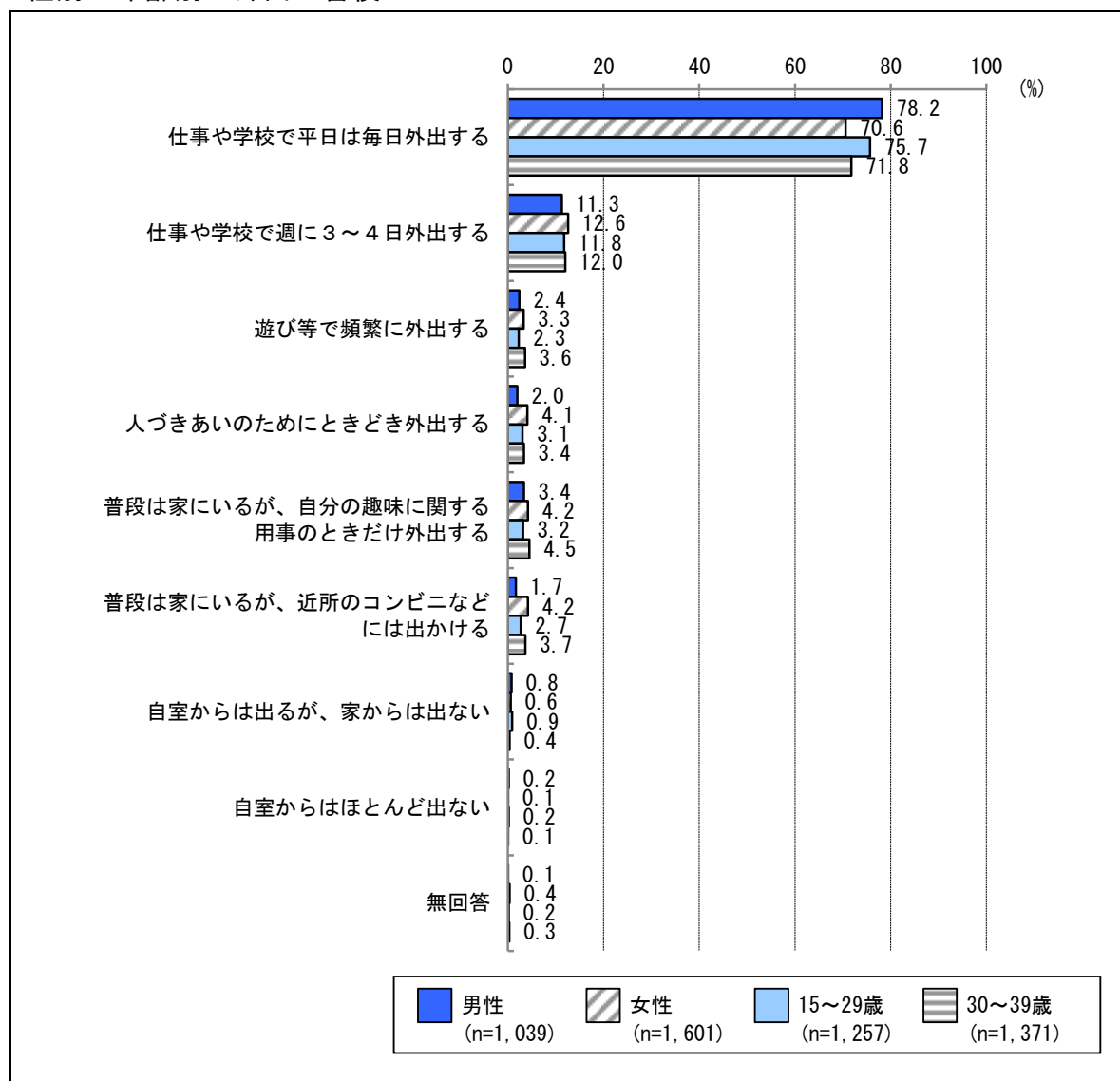
・外出の習慣



■性別でみると、「仕事や学校で平日は毎日外出する」は、男性（78.2%）より女性（70.6%）のほうが7.6ポイント低くなっている。また、『普段は家にいる』では、男性が6.1%に対し、女性は9.1%で、女性のほうが3.0ポイント高くなっている。

■年齢別でみると、「仕事や学校で平日は毎日外出する」は、15～29歳（75.7%）より30～39歳（71.8%）のほうが3.9ポイント低くなっている。また、『普段は家にいる』では、15～29歳が7.0%に対し、30～39歳は8.7%で、30～39歳のほうが1.7ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 外出の習慣



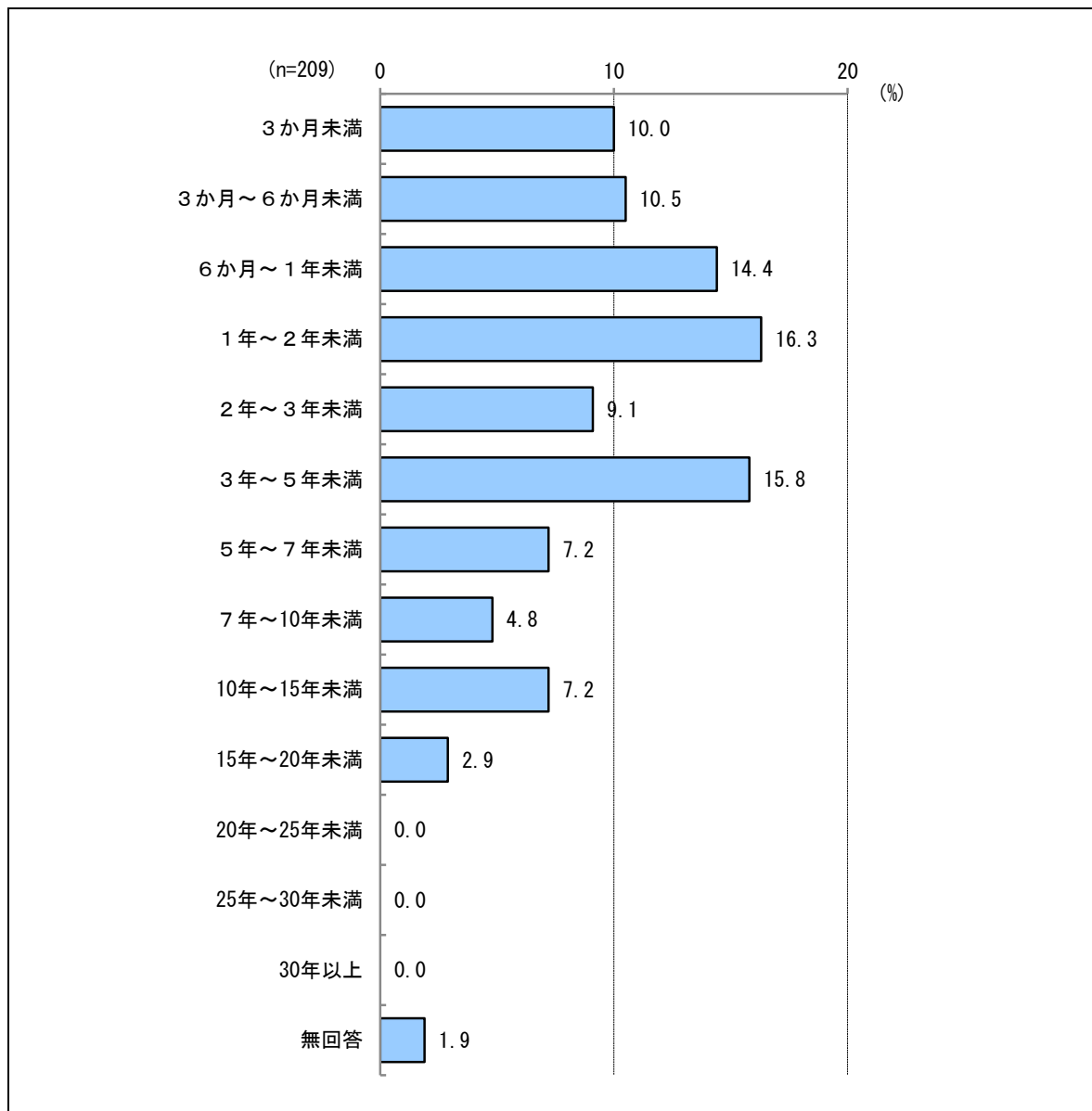
5 ふだんから家にいる状態となった年数

問9で『普段は家にいる』を選んだ方におうかがいします。

問9-1 あなたが現在の状態となってどのくらい経ちますか。（○は1つ）

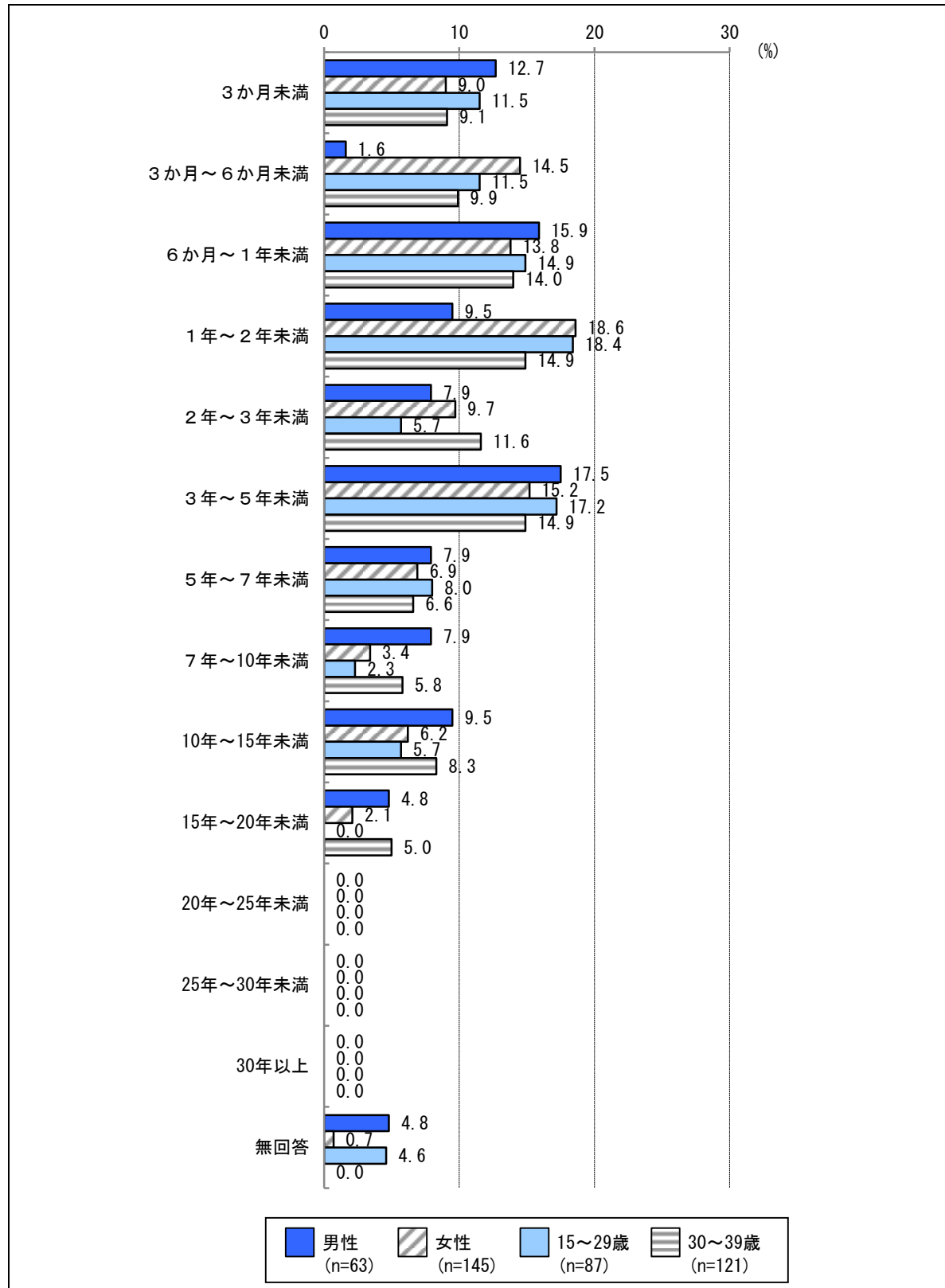
- 「普段は家にいる」と回答した人に、その状態になった年数をたずねると、「1年～2年未満」が16.3%で最も多く、次いで「3年～5年未満」が15.8%、「6か月～1年未満」が14.4%となっている。また、6か月以上続いている人は77.7%となっている。

・ふだんから家にいる状態となった年数



- 性別でみると、男性は「3年～5年未満」が17.5%、女性は「1～2年未満」が18.6%で、それぞれ最も多くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「1年～2年未満」が18.4%、30～39歳は「1年～2年未満」と「3年～5年未満」がともに14.9%で、それぞれ最も多くなっている。

・性別・年齢別 ふだんから家にいる状態となった年数



6 ふだんから家にいる状態が続くようになった年齢

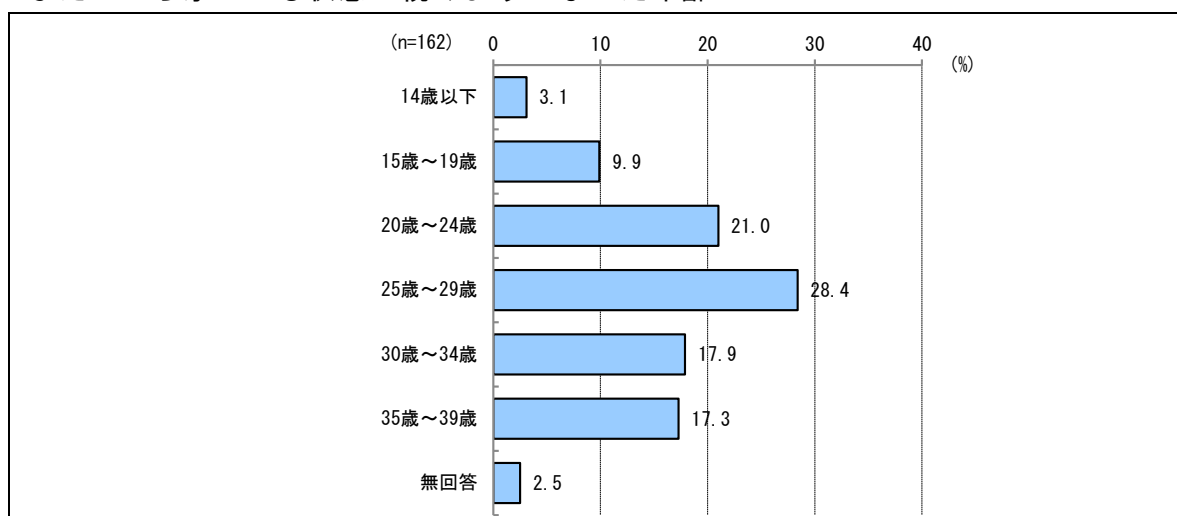
問9-1で『6か月以上』を選んだ方におうかがいします。

問9-2 あなたの外出の状況が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。

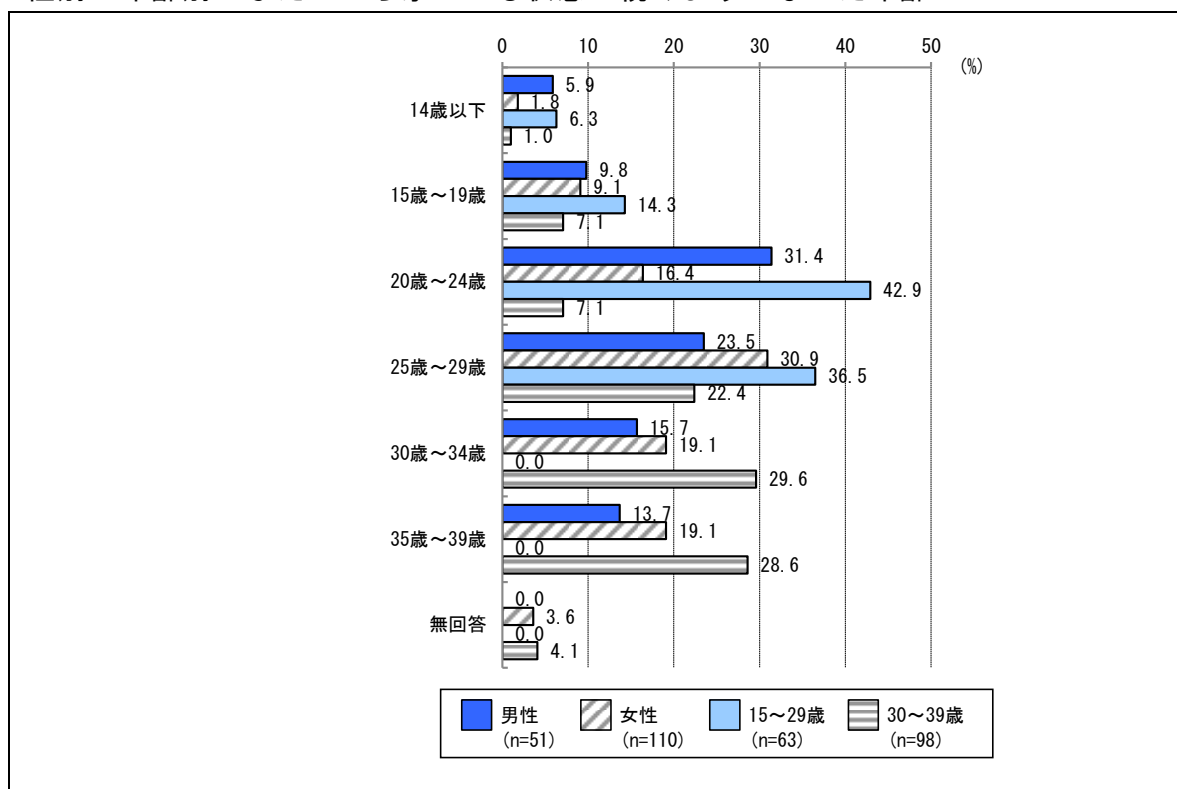
(〇は1つ)

- 「現在の状況が6か月以上続いている」と回答した人に、そうなった頃の年齢をたずねると、「25歳～29歳」が28.4%で最も多く、次いで「20歳～24歳」が21.0%、「30歳～34歳」が17.9%、「35歳～39歳」が17.3%となっている。
- 性別でみると、男性は「20歳～24歳」が31.4%、女性は「25歳～29歳」が30.9%で、それぞれ最も多くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「20歳～24歳」が42.9%、30～39歳は「30歳～34歳」が29.6%で、それぞれ最も多くなっている。

・ ふだんから家にいる状態が続くようになった年齢



・ 性別・年齢別 ふだんから家にいる状態が続くようになった年齢



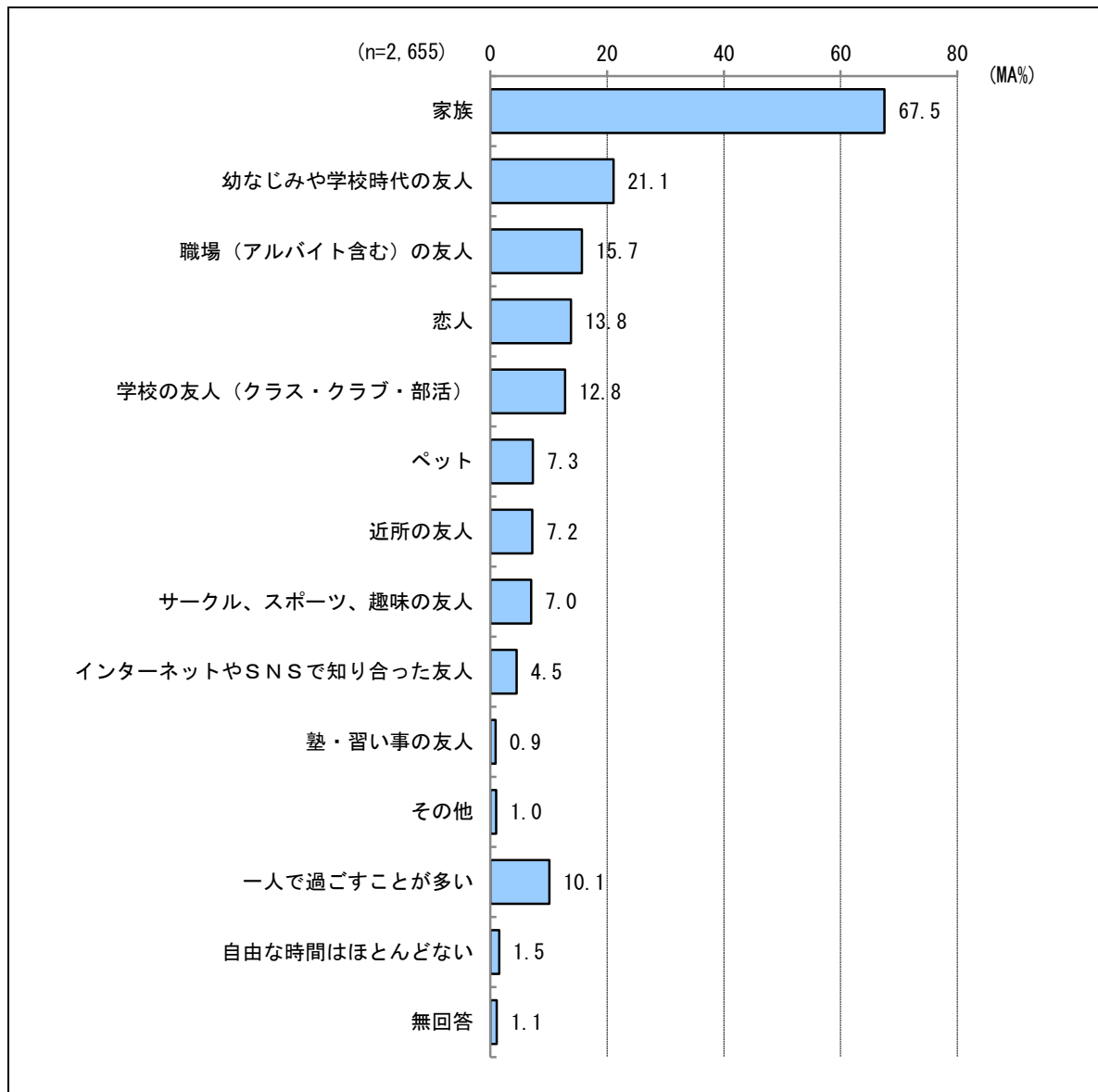
Ⅲ. 余暇活動について

1 自由な時間を一緒に過ごす相手

問10 あなたは、仕事や学校、家事などのほかに自由な時間を過ごす場合に誰といっしょに過ごすことが多いですか。（〇はいくつでも）

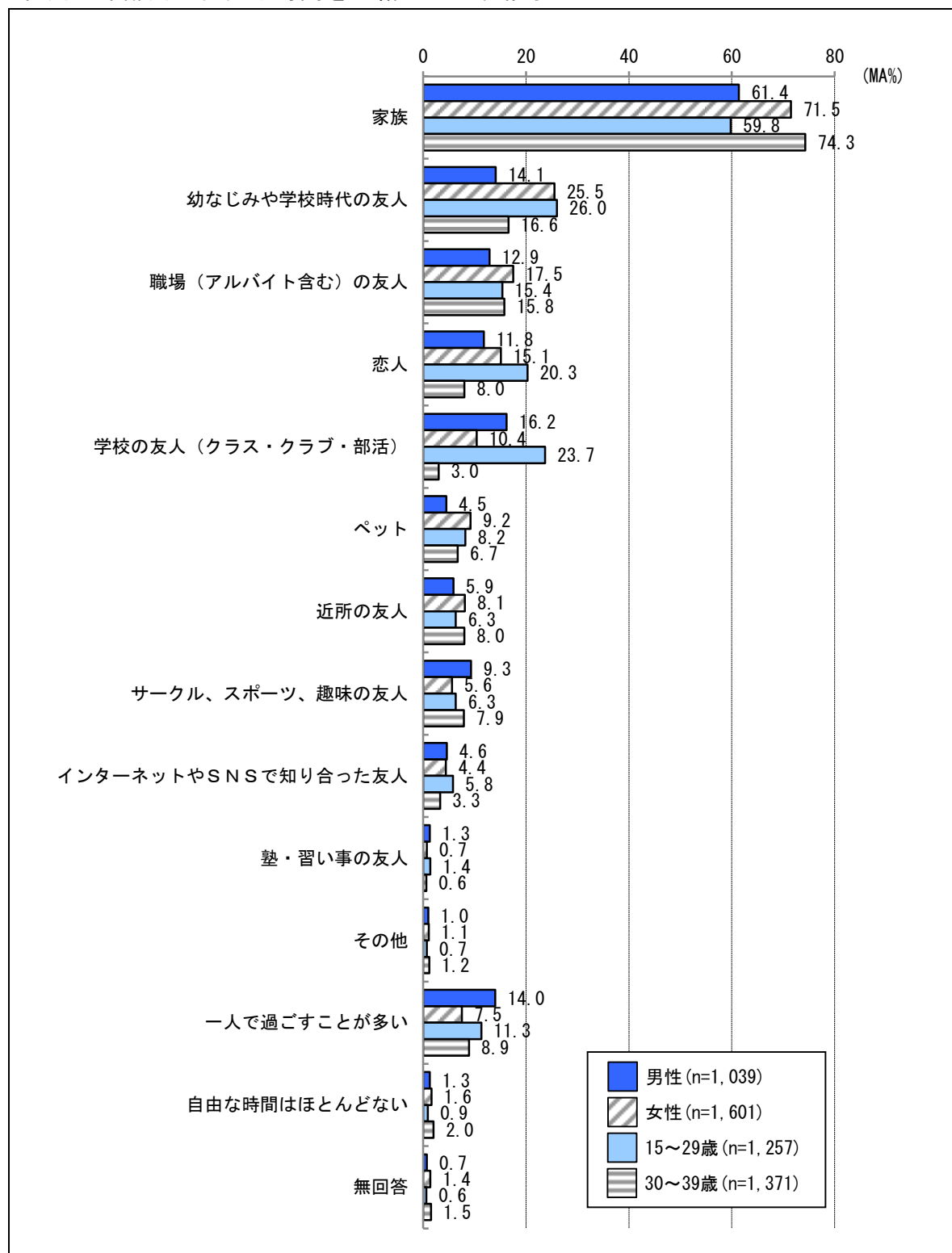
- 自由な時間を一緒に過ごす相手については、「家族」が67.5%で最も多く、次いで「幼なじみや学校時代の友人」が21.1%、「職場（アルバイト含む）の友人」が15.7%、「恋人」が13.8%、「学校の友人（クラス・クラブ・部活）」が12.8%となっている。一方、「一人で過ごすことが多い」は10.1%となっている。

・自由な時間を一緒に過ごす相手



- 性別でみると、男女とも「家族」が最も多く、男性は61.4%、女性は71.5%となっており、女性のほうが10.1ポイント高くなっている。また、「一人で過ごすことが多い」では、男性が14.0%で、女性（7.5%）より6.5ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、いずれの年齢も「家族」が最も多く、15～29歳は59.8%、30～39歳は74.3%となっており、30～39歳のほうが14.5ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 自由な時間を一緒に過ごす相手

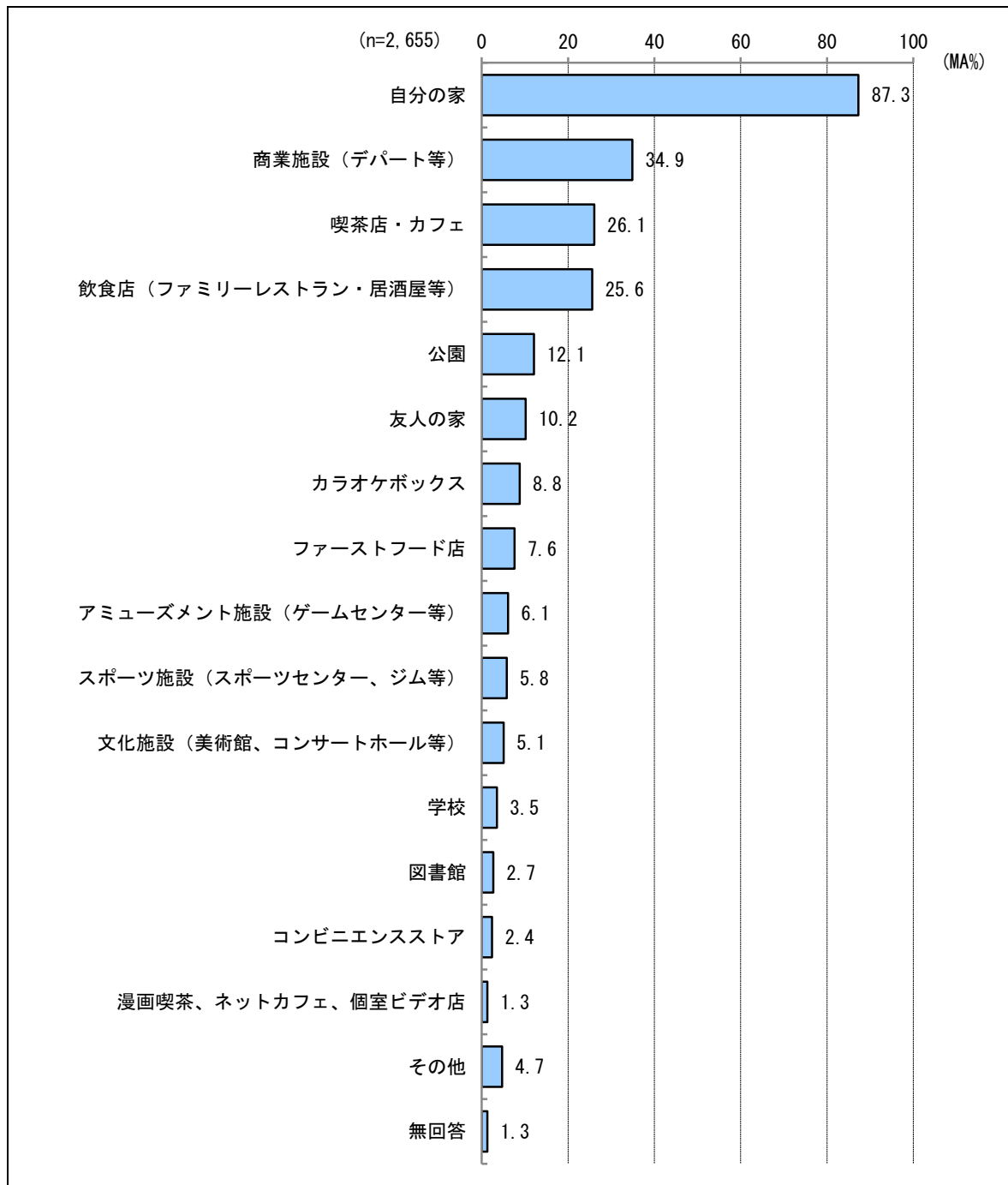


2 自由な時間を過ごす場所

問11 あなたは、仕事や学校、家事などの他に、自由な時間を過ごす場合は、どのような場所で過ごすことが多いですか。（〇はいくつでも）

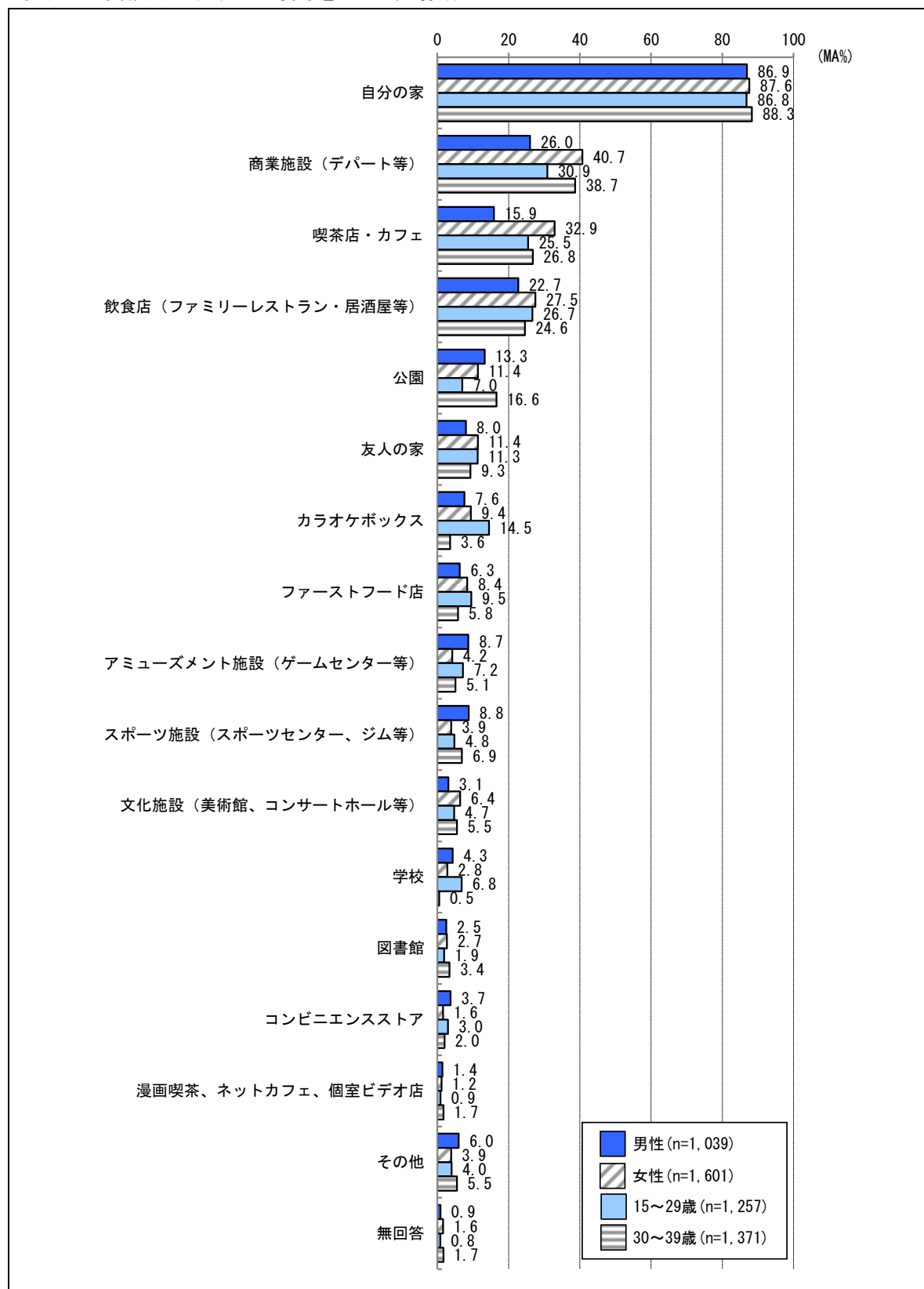
■自由な時間を過ごす場所については、「自分の家」が87.3%で最も多く、次いで「商業施設（デパート等）」が34.9%、「喫茶店・カフェ」が26.1%、「飲食店（ファミリーレストラン・居酒屋等）」が25.6%となっている。

・自由な時間を過ごす場所



- 性別でみると、女性は「商業施設（デパート等）」が40.7%、「喫茶店・カフェ」が32.9%と多く、両項目とも男性より10ポイント以上高くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「カラオケボックス」が14.5%で、30～39歳（3.6%）より10.9ポイント高くなっている。一方、30～39歳は「公園」が16.6%で、15～29歳（7.0%）より9.6ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 自由な時間を過ごす場所

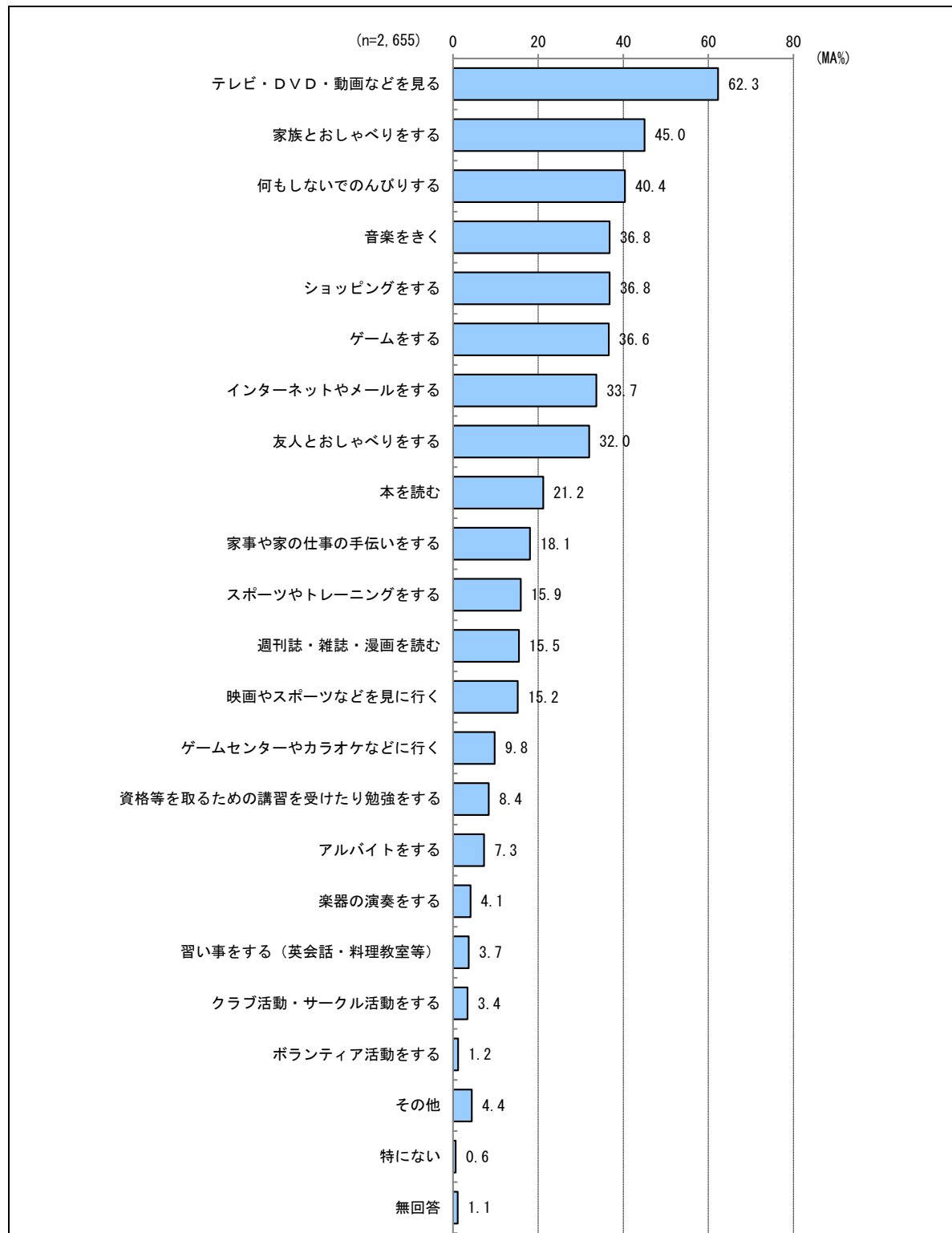


3 自由な時間の過ごし方

問12 あなたは、仕事や学校、家事などの他に、自由な時間をどのように過ごしていますか。（〇はいくつでも）

■自由な時間の過ごし方については、「テレビ・DVD・動画などを見る」が62.3%で最も多く、次いで「家族とおしゃべりをする」が45.0%、「何もしないでのんびりする」が40.4%となっている。

・自由な時間の過ごし方



■性別でみると、男女とも「テレビ・DVD・動画などを見る」が最も多く、男性は57.5%、女性は65.5%となっている。これに次いで、男性は「ゲーム」が51.0%、女性は「家族とおしゃべりをする」が48.8%となっている。

■年齢別でみると、いずれの年齢も「テレビ・DVD・動画などを見る」が最も多く、15～29歳は63.2%、30～39歳は61.8%となっている。これに次いで、15～29歳は「音楽をきく」が45.9%、30～39歳は「家族とおしゃべりをする」が48.6%となっている。

・性別・年齢別 自由な時間の過ごし方

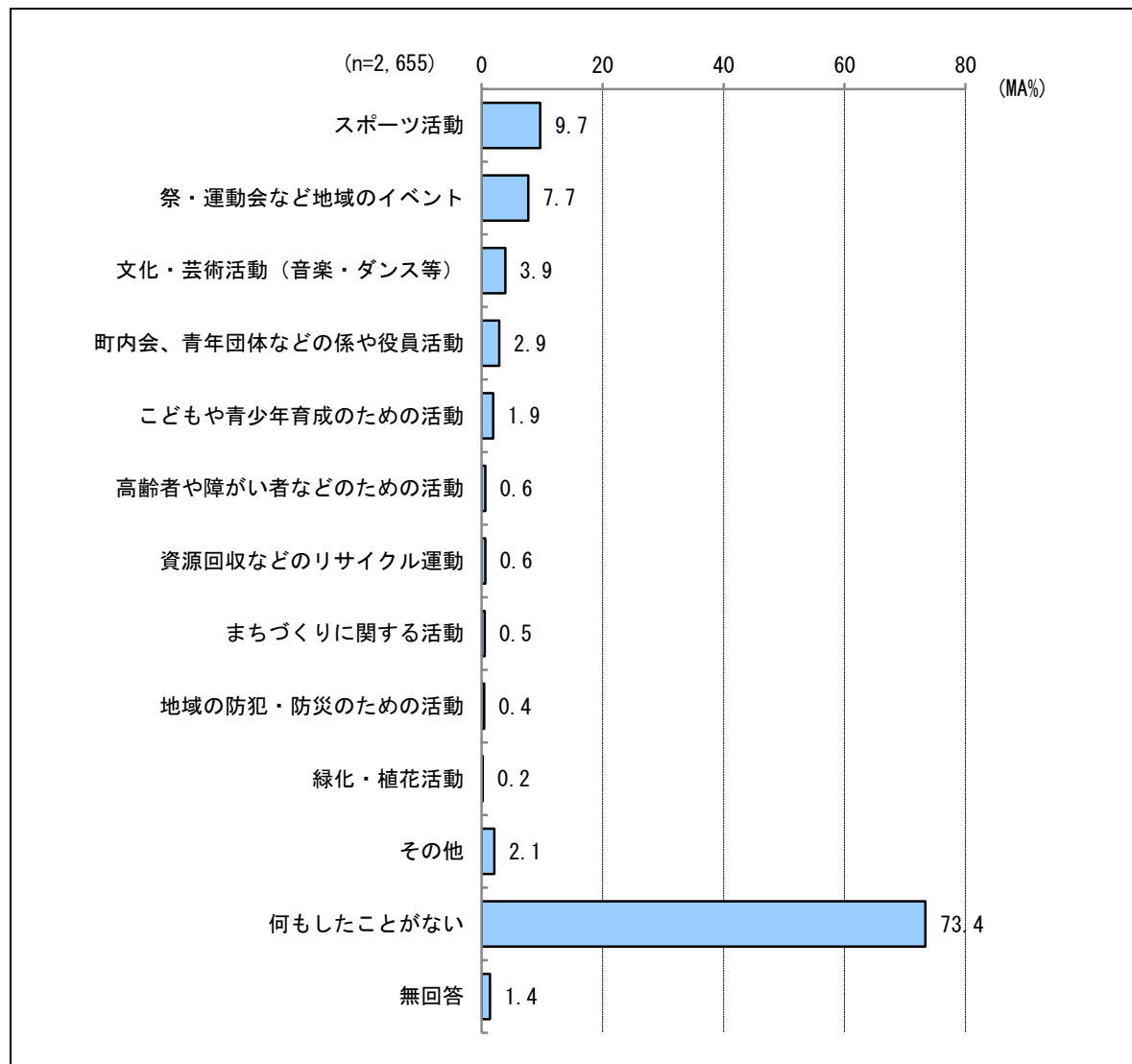
n	(MA%)			
	男性 (1,039)	女性 (1,601)	15～29歳 (1,257)	30～39歳 (1,371)
テレビ・DVD・動画などを見る	57.5	65.5	63.2	61.8
家族とおしゃべりをする	39.3	48.8	41.1	48.6
何もしないでのんびりする	35.5	43.3	41.9	39.0
音楽をきく	33.8	38.5	45.9	28.9
ショッピングをする	23.2	45.5	34.7	38.7
ゲームをする	51.0	27.2	43.6	30.6
インターネットやメールをする	30.1	35.9	31.2	36.2
友人とおしゃべりをする	22.5	38.0	37.5	27.1
本を読む	23.7	19.6	20.0	22.7
家事や家の仕事の手伝いをする	16.4	19.1	15.5	20.4
スポーツやトレーニングをする	24.8	9.9	15.4	16.5
週刊誌・雑誌・漫画を読む	15.2	15.7	15.5	15.8
映画やスポーツなどを見に行く	17.7	13.4	15.8	14.6
ゲームセンターやカラオケなどに行く	11.5	8.4	14.3	5.6
資格等を取るための講習を受けたり勉強をする	9.7	7.4	9.1	7.8
アルバイトをする	7.1	7.4	13.5	1.5
楽器の演奏をする	4.7	3.4	5.5	2.8
習い事をする（英会話・料理教室等）	2.6	4.5	3.7	3.8
クラブ活動・サークル活動をする	4.9	2.4	6.4	0.8
ボランティア活動をする	1.6	0.9	1.1	1.3
その他	4.1	4.7	4.4	4.6
特にない	0.8	0.4	0.4	0.7
無回答	0.7	1.4	0.6	1.5

4 参加している活動

問13 あなたは、学校や仕事以外の活動に参加していますか。現在参加している活動、この1年以内に参加した活動をお答えください。（〇はいくつでも）

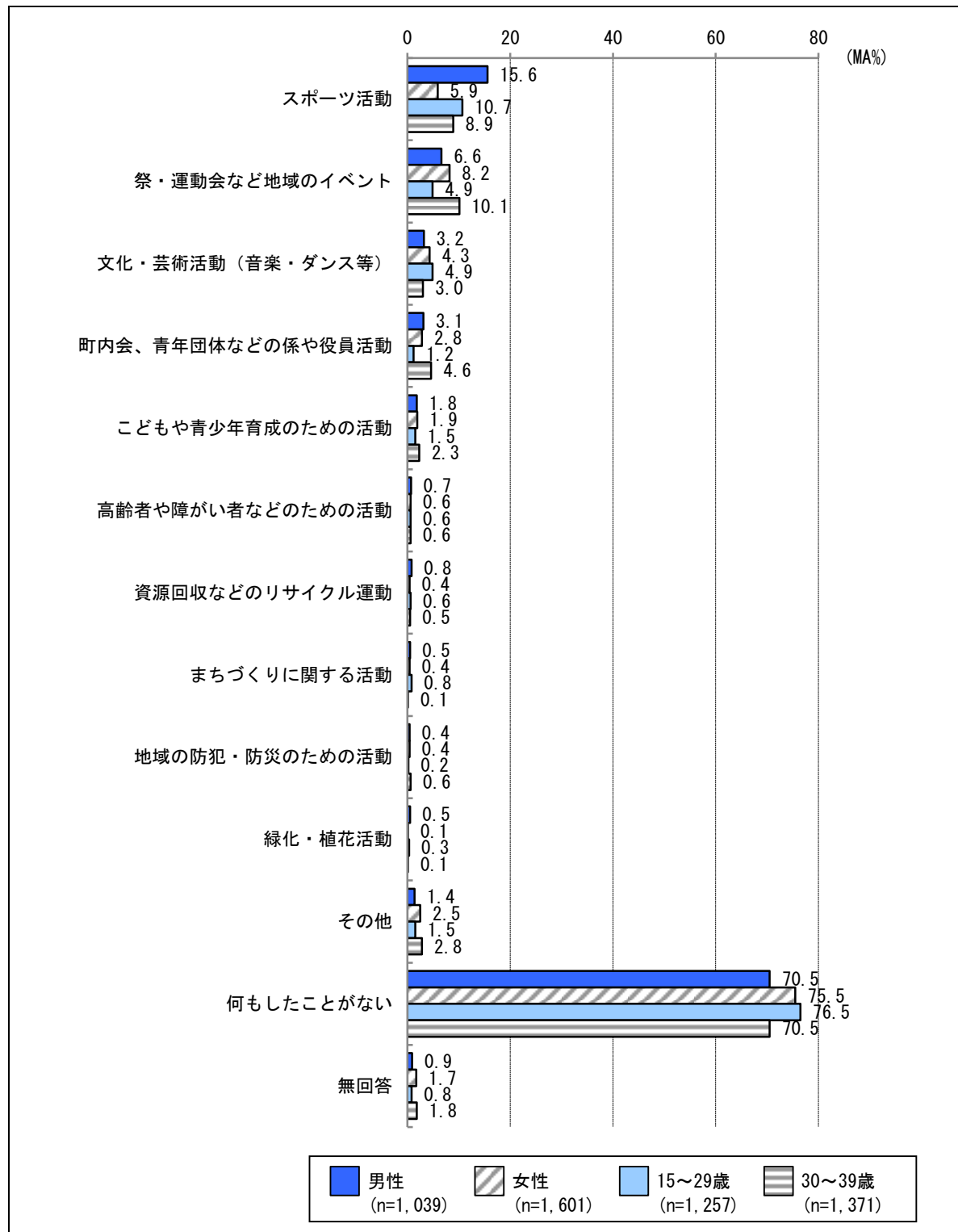
■現在参加している、またはこの1年以内に参加した活動については、「何もしたことがない」が73.4%で最も多くなっている。参加している（参加した）人では、「スポーツ活動」が9.7%で最も多く、次いで「祭・運動会など地域のイベント」が7.7%、「文化・芸術活動（音楽・ダンス等）」が3.9%、「町内会、青年団体などの係や役員活動」が2.9%、「こどもや青少年育成のための活動」が1.9%となっている。

・参加している活動



- 性別でみると、男性は「スポーツ活動」が15.6%、女性は「祭・運動会など地域のイベント」が8.2%で、それぞれ最も多くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「スポーツ活動」が10.7%、30～39歳は「祭・運動会など地域のイベント」が10.1%で、それぞれ最も多くなっている。

・性別・年齢別 参加している活動



5 活動の参加頻度

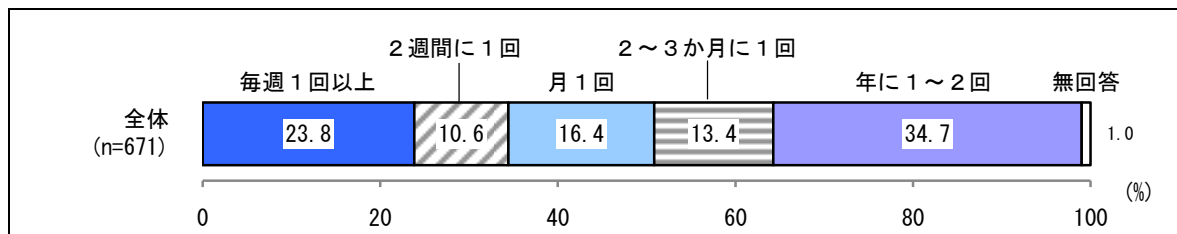
問13で「現在参加している、またはこの1年以内に参加した活動がある」を選んだ方
におうかがいします。

問13-1 それらの活動に参加する回数は、すべてあわせてどのくらいですか。

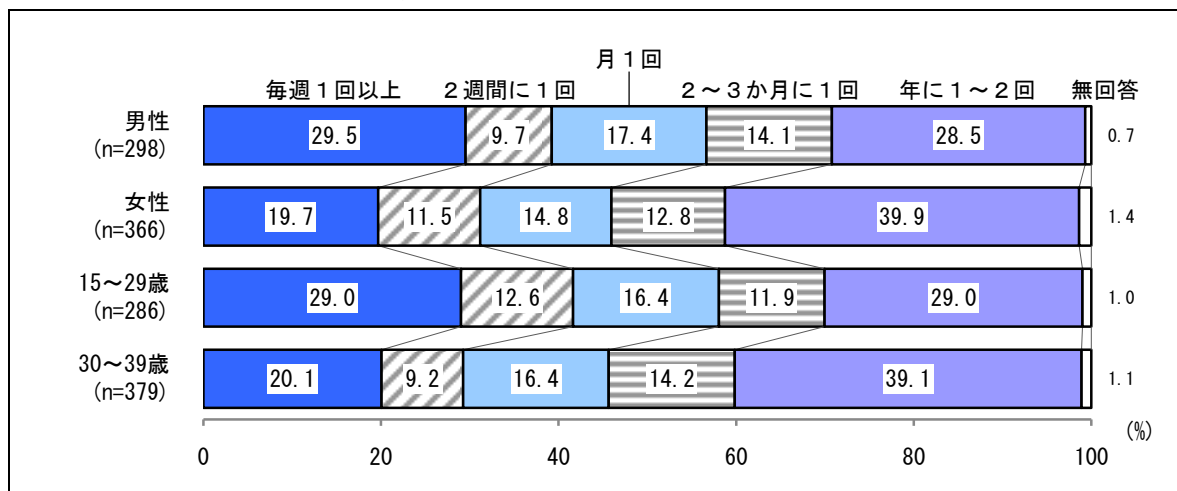
(○は1つ)

- 「現在参加している、またはこの1年以内に参加した活動がある」と回答した人に、活動の参加頻度をたずねると、「年に1～2回」が34.7%で最も多く、次いで「毎週1回以上」が23.8%、「月1回」が16.4%となっている。
- 性別でみると、男性は「毎週1回以上」が29.5%、女性は「年に1～2回」が39.9%で、それぞれ最も多くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「毎週1回以上」と「年に1～2回」がともに29.0%、30～39歳は「年に1～2回」が39.1%で、それぞれ最も多くなっている。

・活動の参加頻度



・性別・年齢別 活動の参加頻度



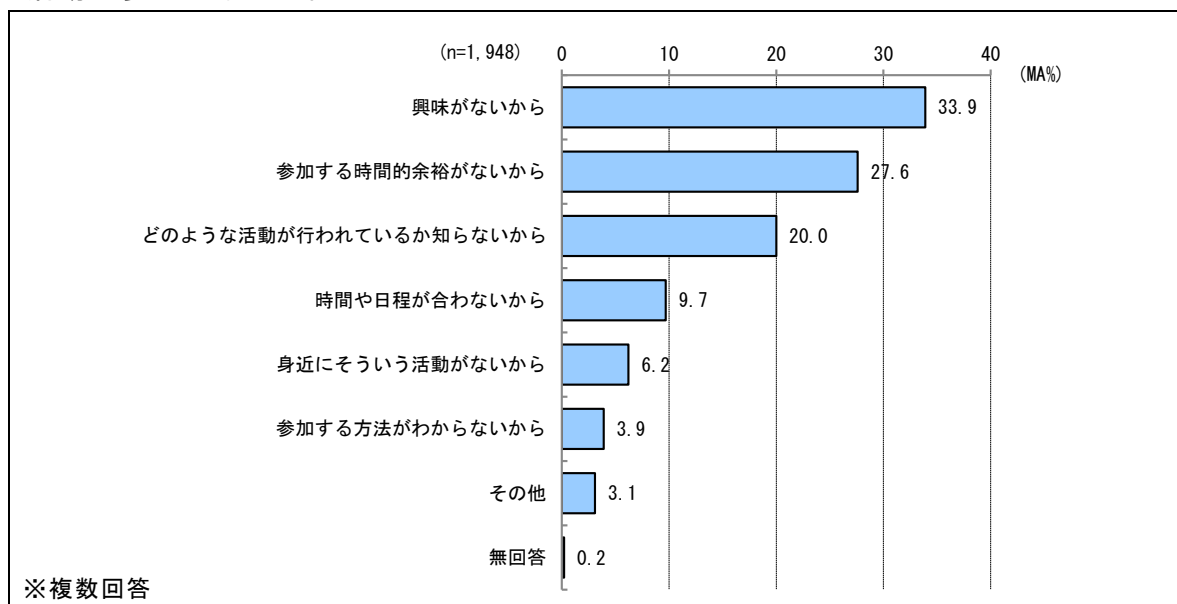
6 活動に参加しない理由

問13で「何もしたことがない」を選んだ方におうかがいします。

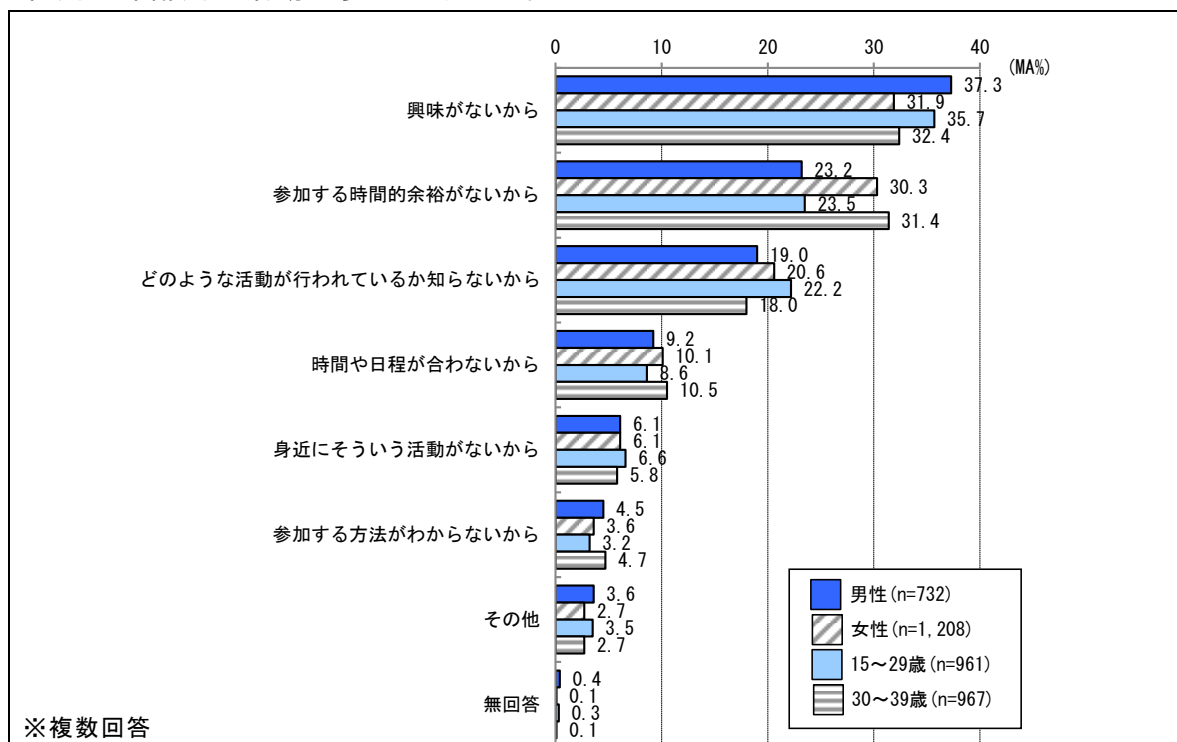
問13-2 それはなぜですか。（○は1つ）

- 「何もしたことがない」と回答した人に、その理由をたずねると、「興味がないから」が33.9%で最も多く、次いで「参加する時間的余裕がないから」が27.6%、「どのような活動が行われているか知らないから」が20.0%となっている。
- 性別でみると、「参加する時間的余裕がないから」は、女性が30.3%で、男性（23.2%）より7.1ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「参加する時間的余裕がないから」は、30～39歳が31.4%で、15～29歳（23.5%）より7.9ポイント高くなっている。

・活動に参加しない理由



・性別・年齢別 活動に参加しない理由

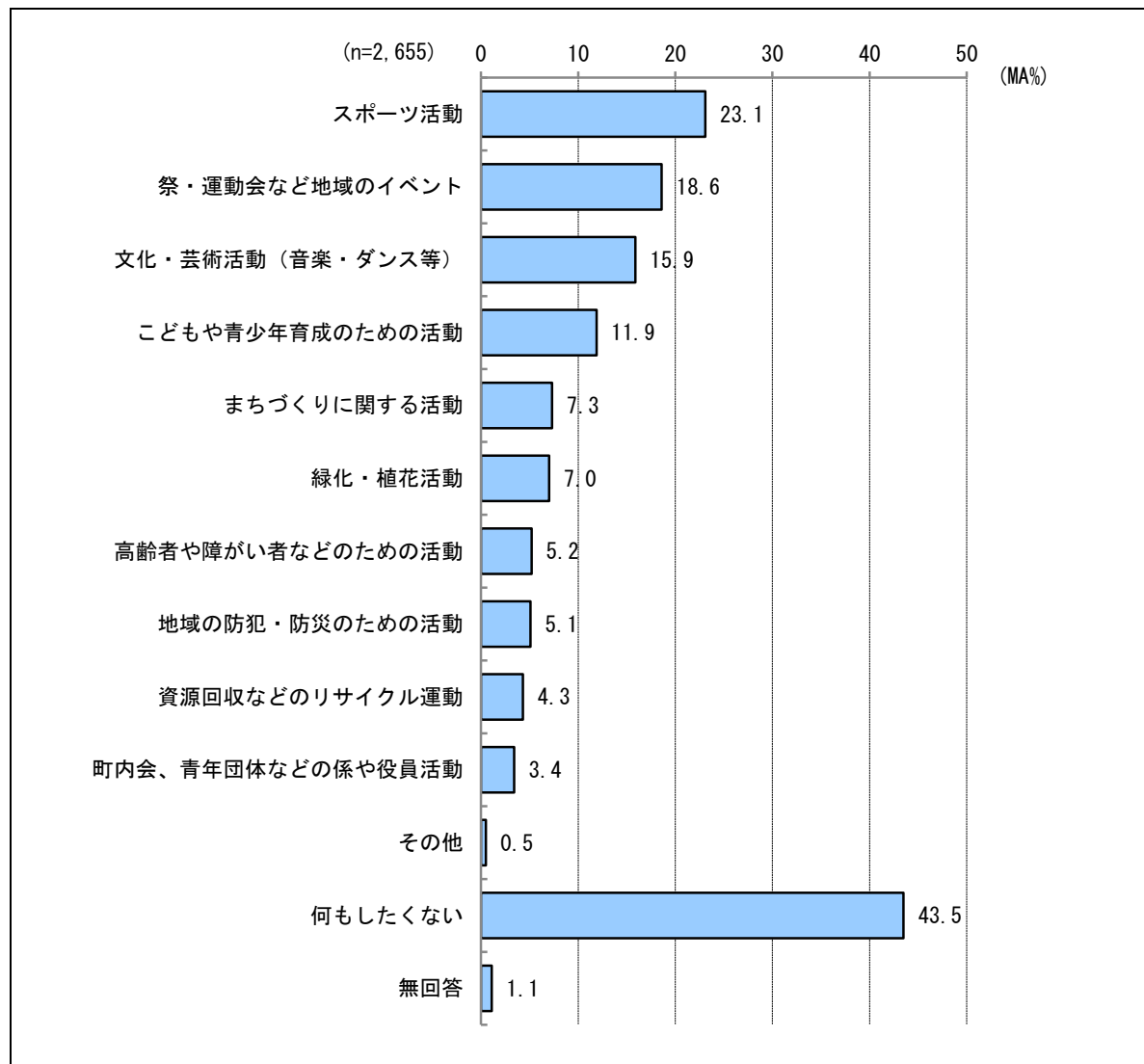


7 今後参加したい活動

問14 あなたは今後、学校や仕事以外の活動に参加したいと思いますか。参加したい活動をお答えください。（〇はいくつでも）

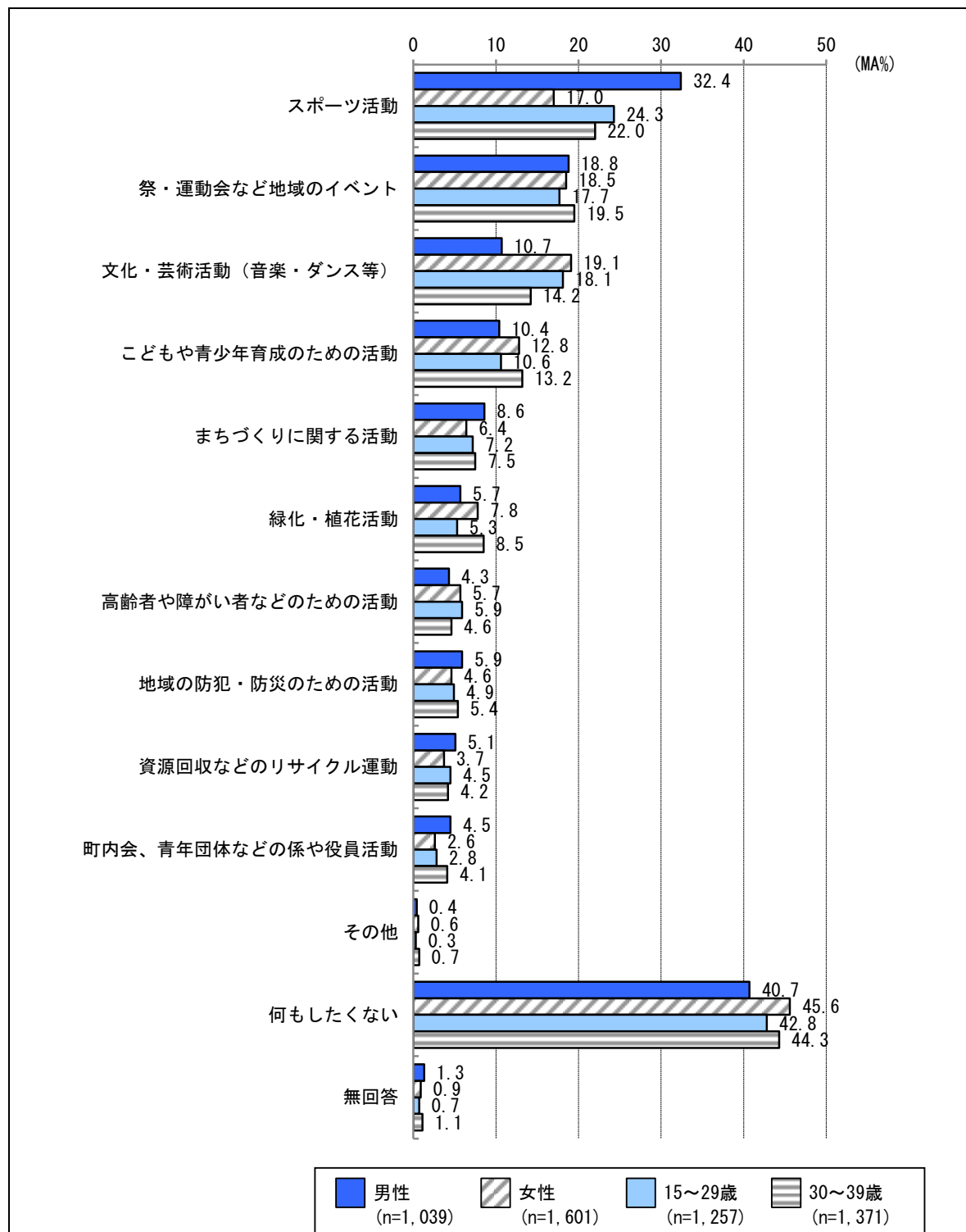
■ 今後参加したい活動については、「何もしたくない」が43.5%で最も多くなっている。参加意向のある人では、「スポーツ活動」が23.1%で最も多く、次いで「祭・運動会など地域のイベント」が18.6%、「文化・芸術活動（音楽・ダンス等）」が15.9%、「子どもや青少年育成のための活動」が11.9%となっている。

・ 今後参加したい活動



- 性別でみると、男性は「スポーツ活動」が32.4%、女性は「文化・芸術活動（音楽・ダンス等）」が19.1%で、それぞれ最も多くなっている。
- 年齢別でみると、いずれの年齢も「スポーツ活動」が最も多く、15～29歳は24.3%、30～39歳は22.0%となっている。

・性別・年齢別 今後参加したい活動



8 体験したことのある活動とプラスになったと感じる活動

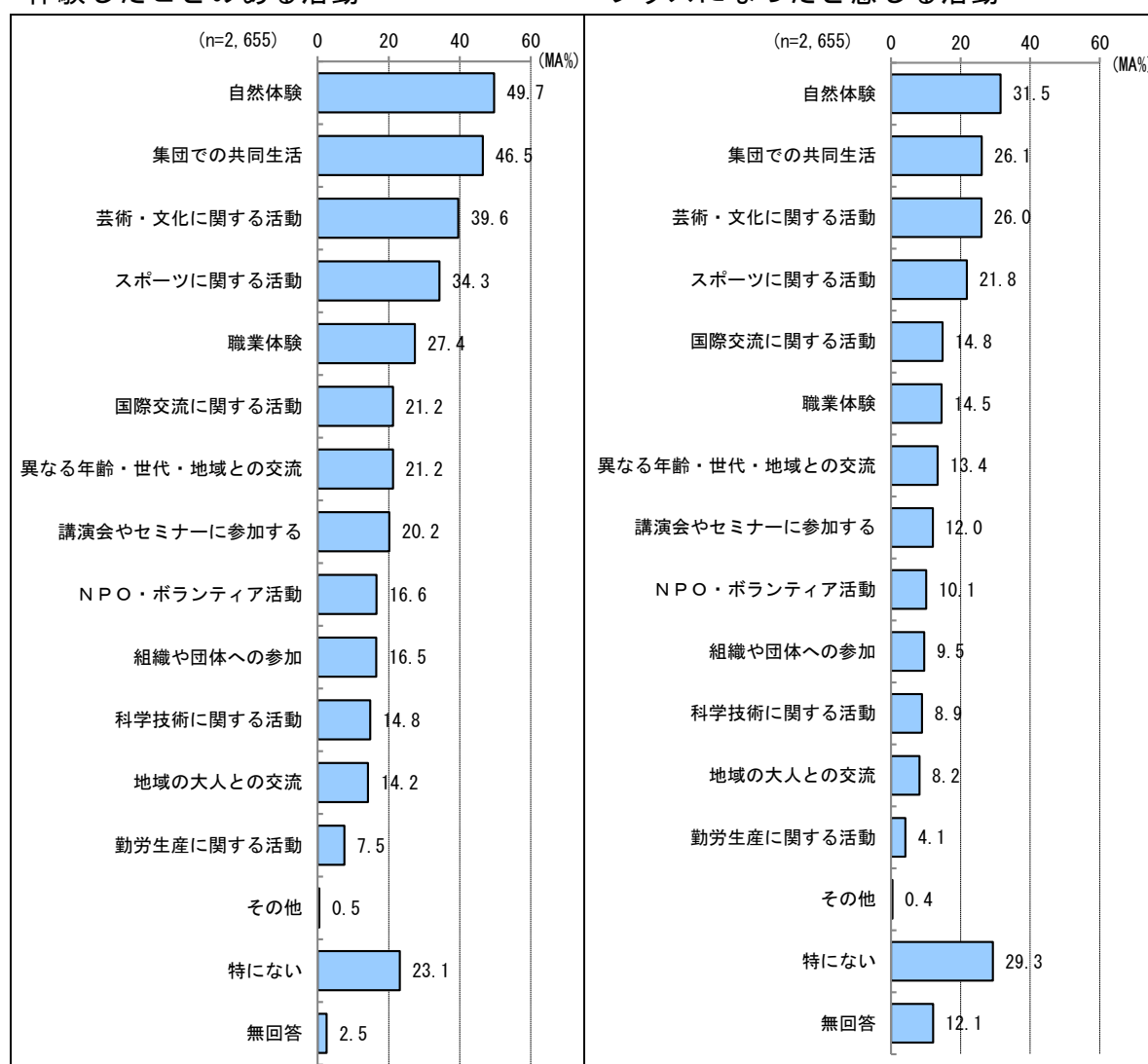
問15 あなたが学校の授業及び行事以外で体験したことのある活動はありますか。
（学校のクラブ活動も含む）また、その中で今の自分の行動や考え方にプラスになったと感じる活動はありますか。（それぞれ〇はいくつでも）

■ 体験したことのある活動については、「自然体験」が49.7%で最も多く、次いで「集団での共同生活」が46.5%、「芸術・文化に関する活動」が39.6%、「スポーツに関する活動」が34.3%、「職業体験」が27.4%となっている。

■ プラスになったと感じる活動は、「自然体験」が31.5%で最も多く、次いで「集団での共同生活」が26.1%、「芸術・文化に関する活動」が26.0%、「スポーツに関する活動」が21.8%、「国際交流に関する活動」が14.8%となっている。

・ 体験したことのある活動

・ プラスになったと感じる活動



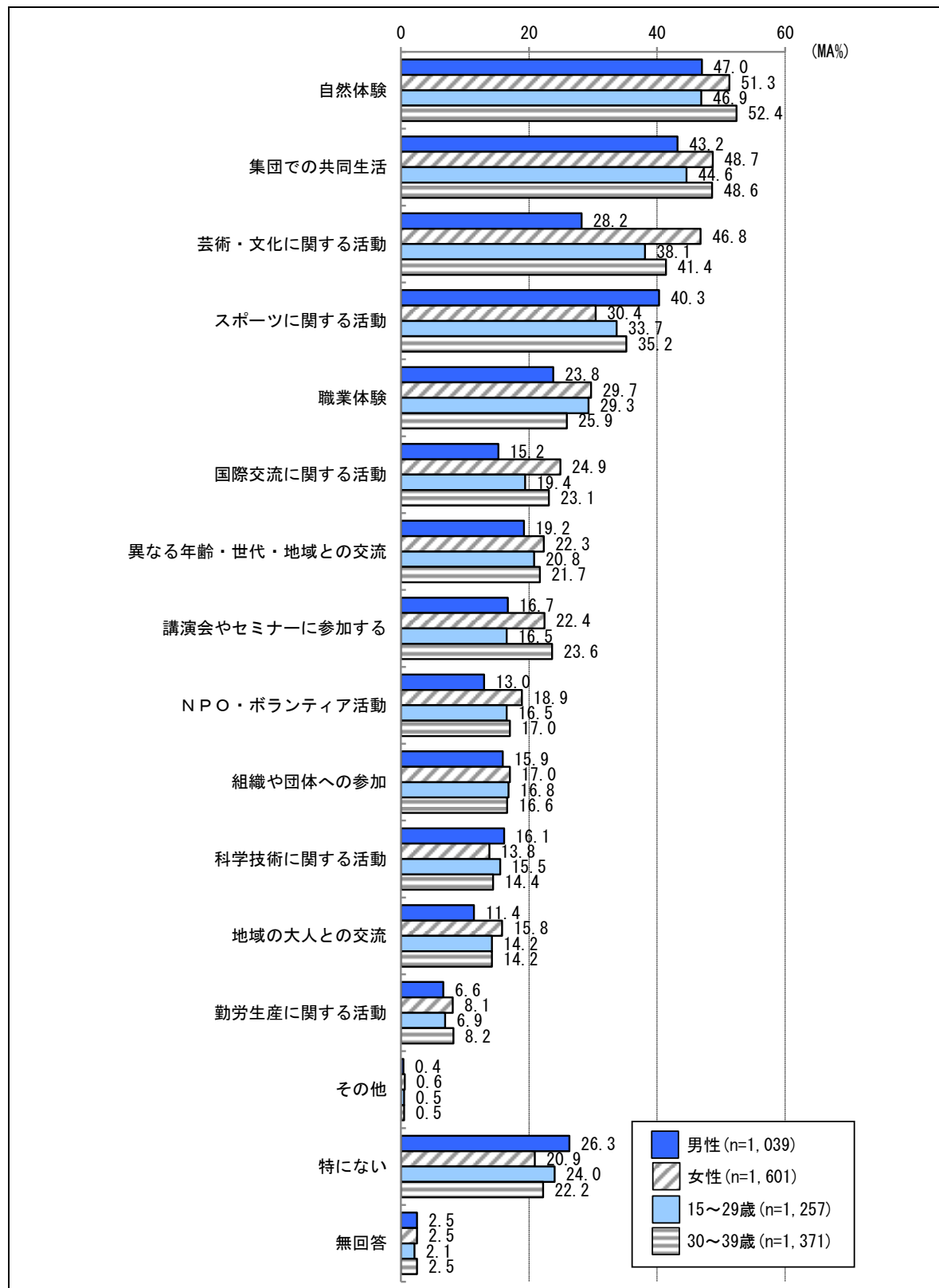
◆特に印象に残っている活動の具体的な活動内容と、プラスになった内容（上位3項目）

■ 具体的な活動内容として、「アウトドア（キャンプ、自然体験など）」が最も多く、次いで「学校のクラブ活動・部活動」、「異文化交流（英会話など）」となっている。

■ プラスになった内容として、「コミュニケーション能力や協調性、チームワークの向上」が最も多く、次いで「知識が深まった」、「視野が広がった」となっている。

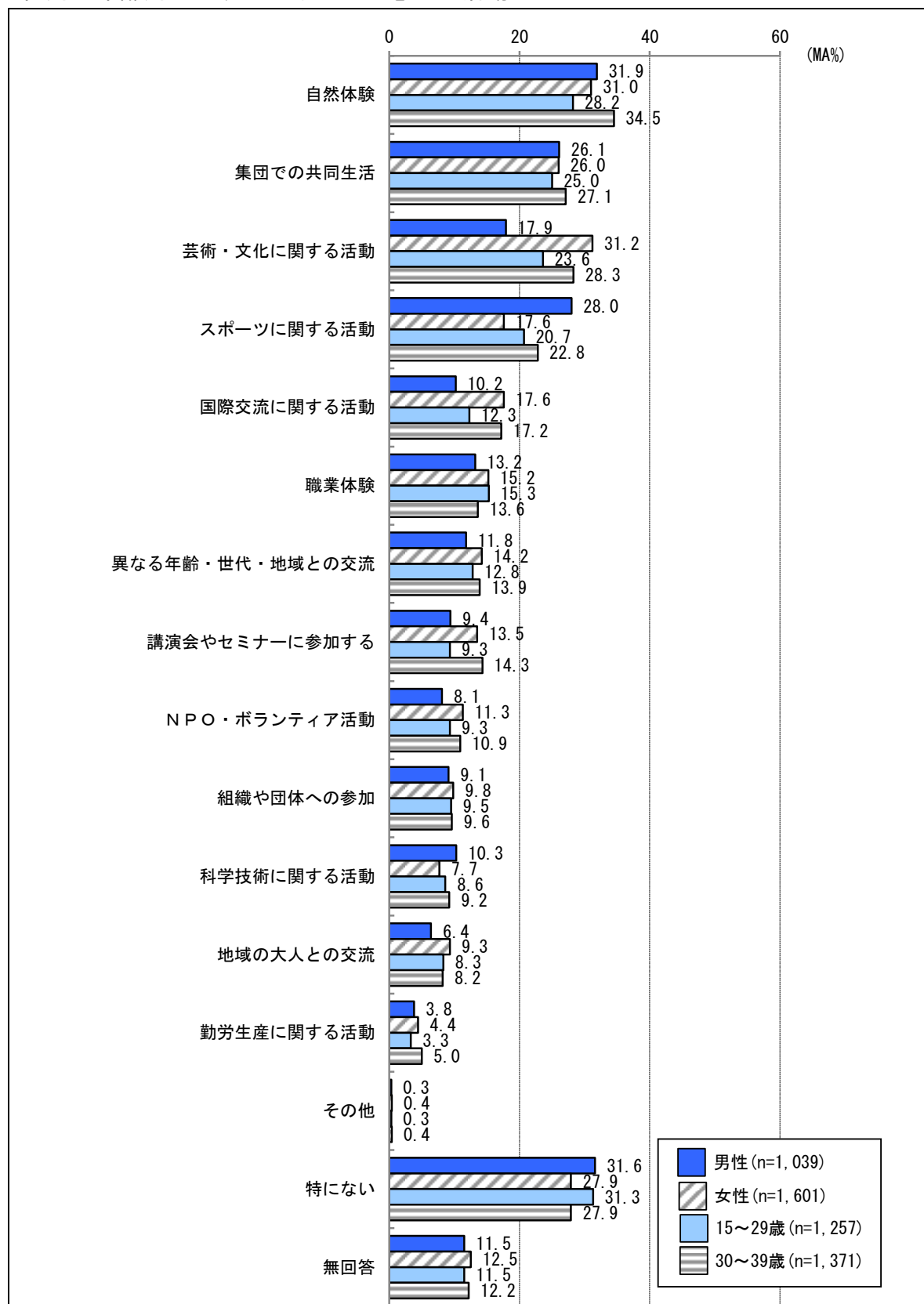
- 性別でみると、男性は「スポーツに関する活動」が40.3%で、女性（30.4%）より9.9ポイント高くなっている。女性は「芸術・文化に関する活動」が46.8%で、男性（28.2%）より18.6ポイント高く、「国際交流に関する活動」は24.9%で、男性（15.2%）より9.7ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「講演会やセミナーに参加する」は、15～29歳が16.5%に対し、30～39歳は23.6%で、30～39歳のほうが7.1ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 体験したことのある活動



- 性別でみると、男性は「スポーツに関する活動」が28.0%で、女性（17.6%）より10.4ポイント高くなっている。一方、女性は「芸術・文化に関する活動」が31.2%で、男性（17.9%）より13.3ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、いずれの年齢も「自然体験」が最も多く、15～29歳は28.2%、30～39歳は34.5%で、30～39歳のほうが6.3ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 プラスになったと感じる活動

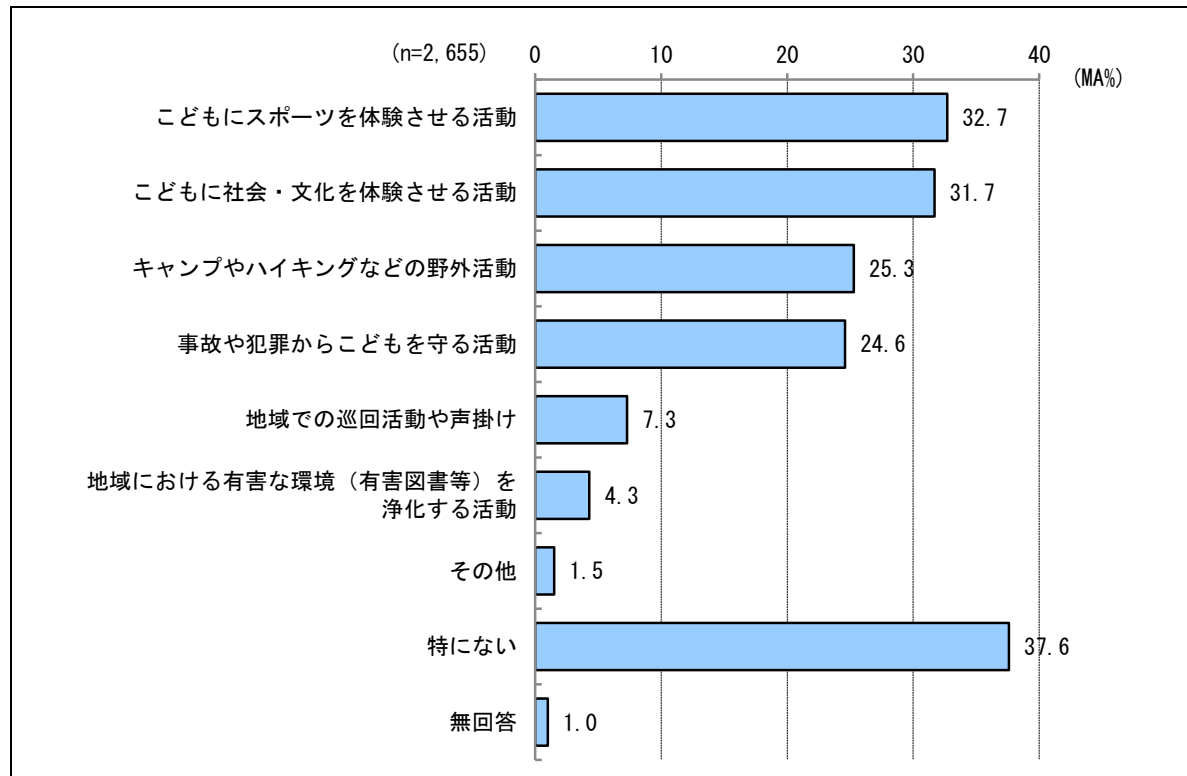


9 今後参加してみたいこどもの健全育成のための活動

問16 こどもの健全育成のための活動について、今後参加してみたい活動はありますか。（〇はいくつでも）

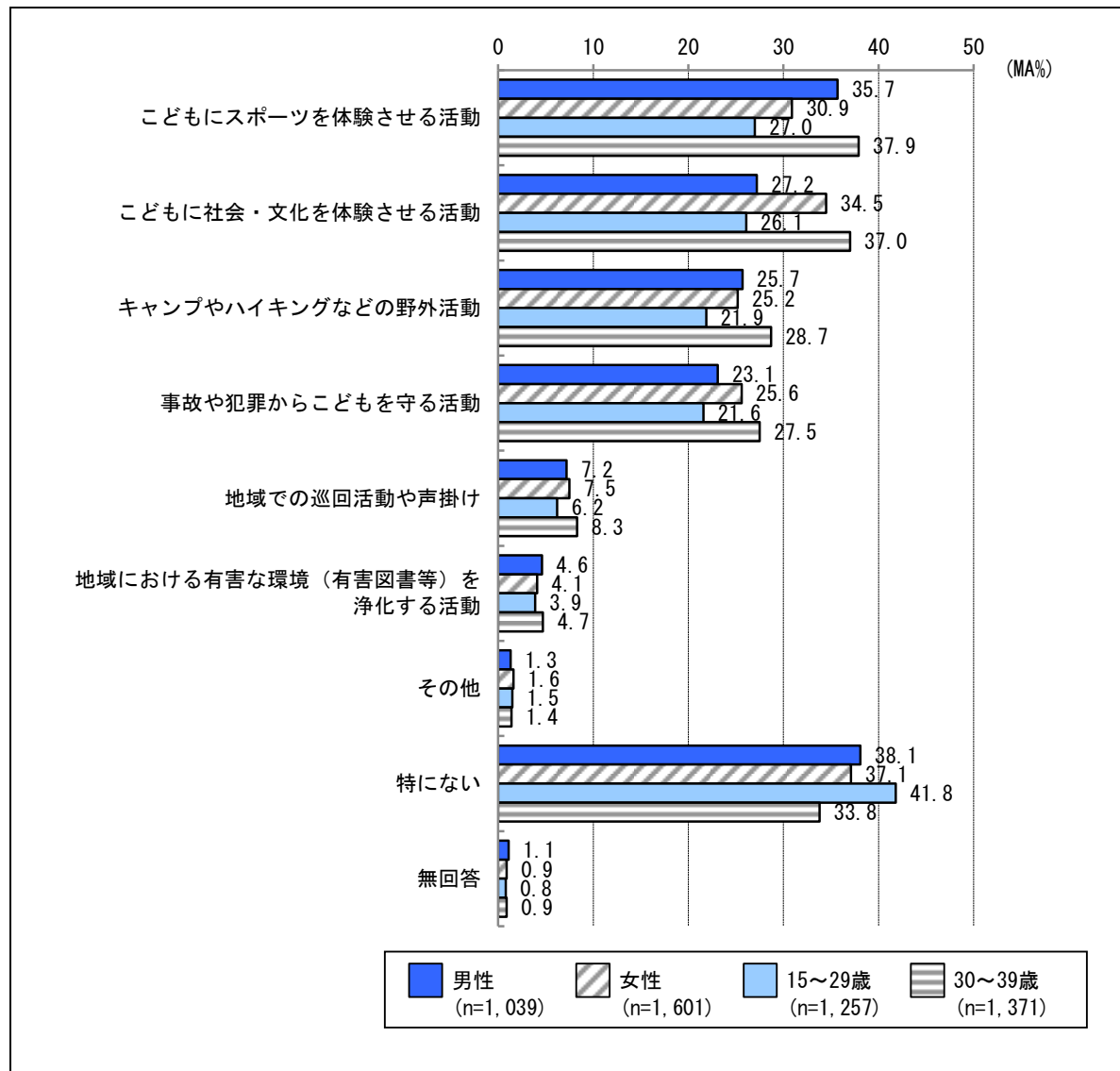
■ 今後参加してみたいこどもの健全育成のための活動については、「特にない」が37.6%で最も多くなっている。参加意向のある人では、「こどもにスポーツを体験させる活動」が32.7%で最も多く、次いで「こどもに社会・文化を体験させる活動」が31.7%、「キャンプやハイキングなどの野外活動」が25.3%、「事故や犯罪からこどもを守る活動」が24.6%となっている。

・ 今後参加してみたいこどもの健全育成のための活動



- 性別でみると、男性は「こどもにスポーツを体験させる活動」が35.7%、女性は「こどもに社会・文化を体験させる活動」が34.5%で、それぞれ最も多くなっている。
- 年齢別でみると、いずれの年齢も「こどもにスポーツを体験させる活動」が最も多く、15～29歳は27.0%、30～39歳は37.9%となっている。

・性別・年齢別 今後参加してみたいこどもの健全育成のための活動



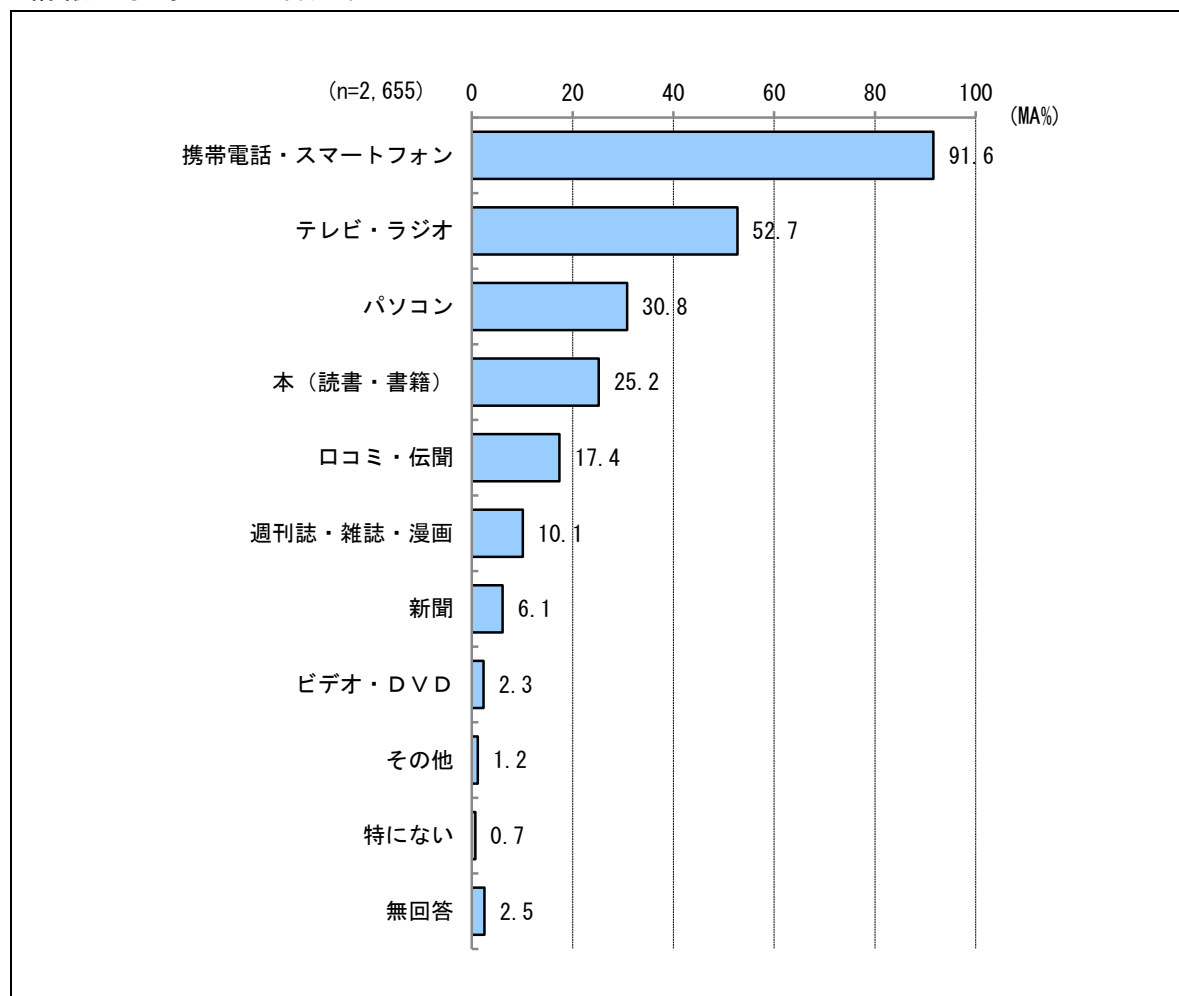
Ⅳ. メディア利用について

1 情報入手時によく利用するもの

問17 あなたが新しい知識や情報を入手するときに、よく利用するものをお答えください。（〇はいくつでも）

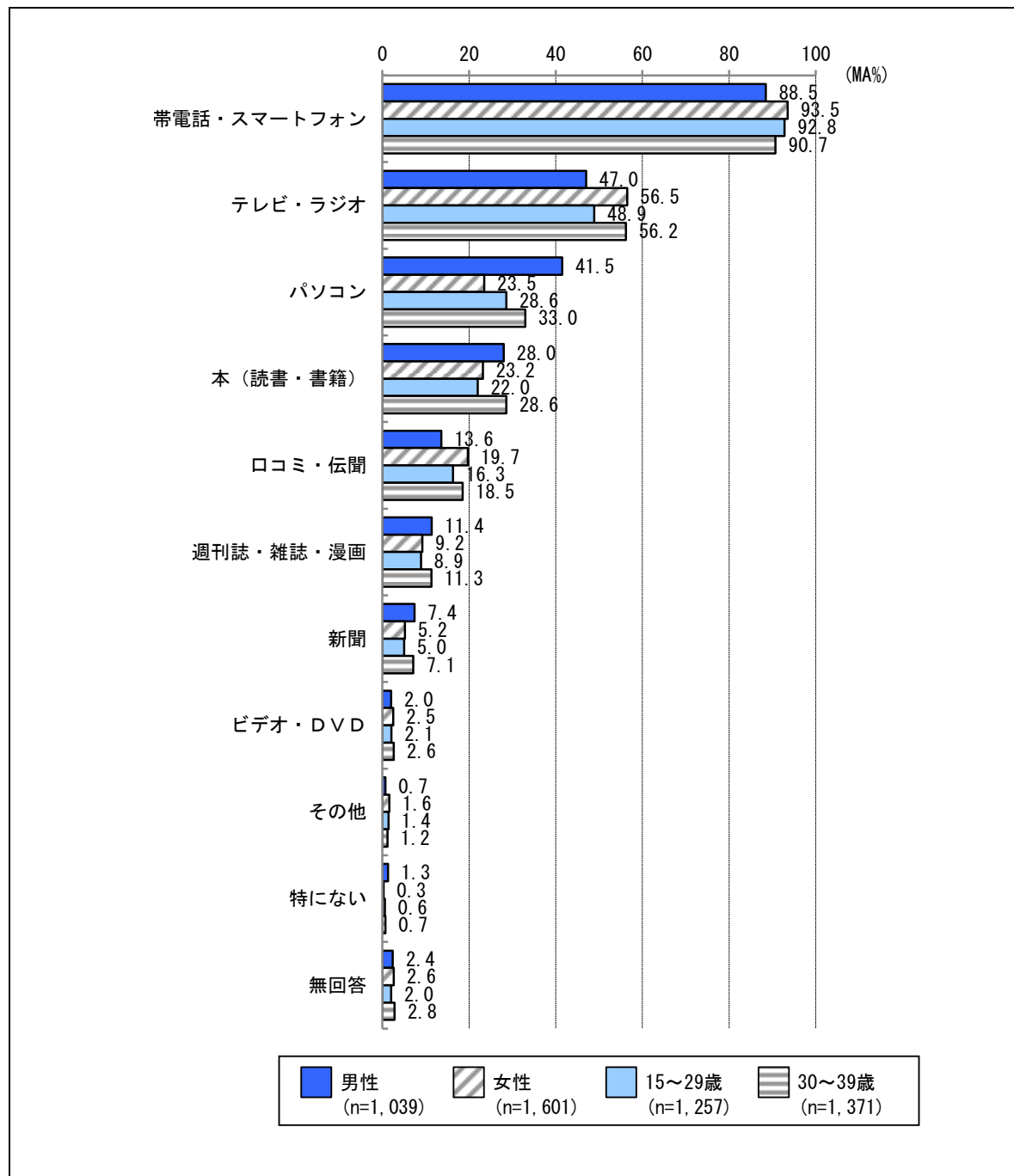
■情報入手時によく利用するものについては、「携帯電話・スマートフォン」が91.6%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が52.7%、「パソコン」が30.8%、「本（読書・書籍）」が25.2%となっている。

・情報入手時によく利用するもの



- 性別でみると、男性は「パソコン」が41.5%で、女性（23.5%）より18.0ポイント高くなっている。一方、女性は「テレビ・ラジオ」が56.5%で、男性（47.0%）より9.5ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「テレビ・ラジオ」は30～39歳が56.2%で、15～29歳（48.9%）より7.3ポイント高くなっている。また、「本（読書・書籍）」は30～39歳が28.6%で、15～29歳（22.0%）より6.6ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 情報入手時によく利用するもの

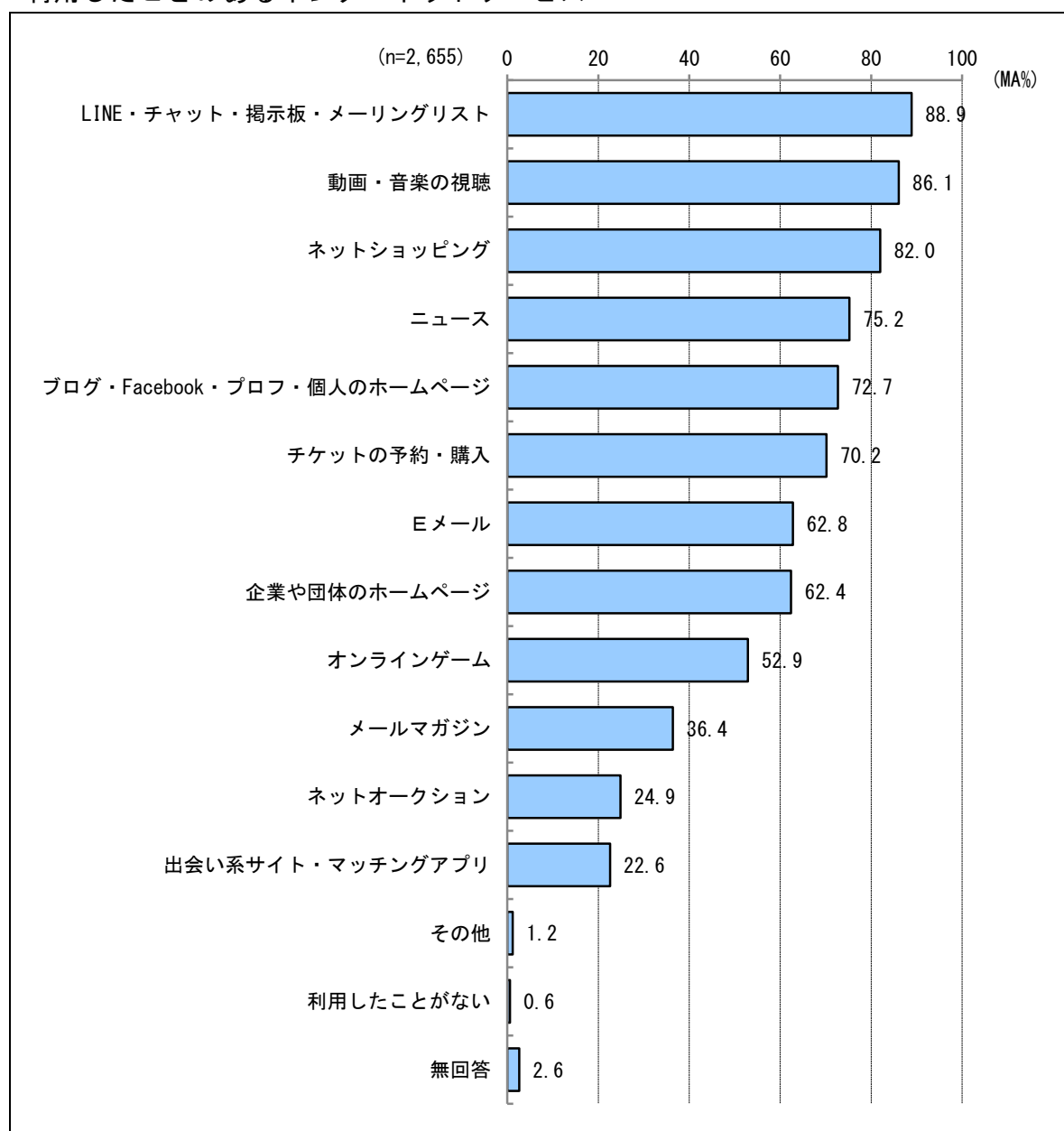


2 利用したことのあるインターネットサービス

問18 あなたはこれまでパソコンや携帯電話・スマートフォンでインターネットを利用したことがありますか。利用したことのある内容をお答えください。
(〇はいくつでも)

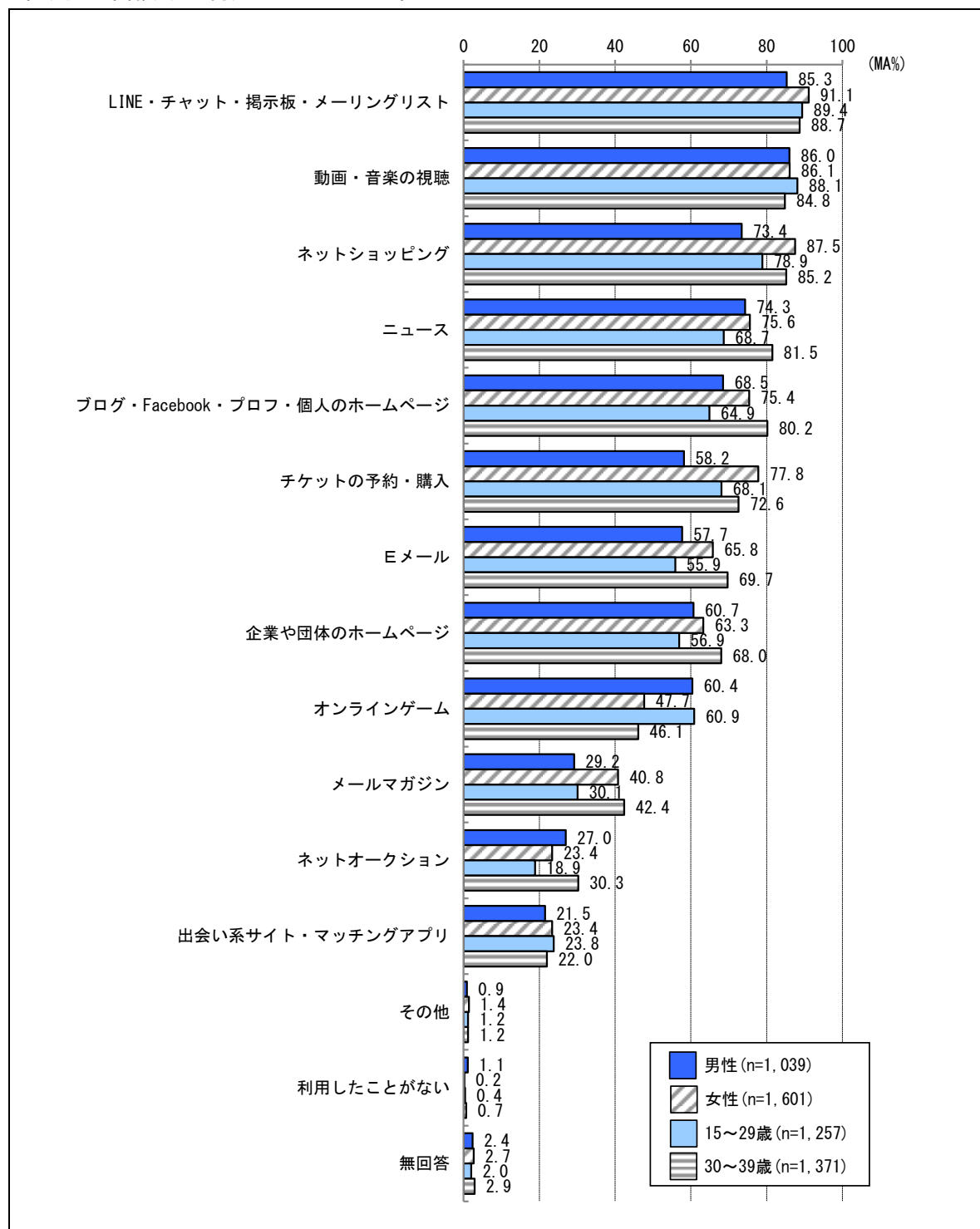
■利用したことのあるインターネットサービスについては、「LINE・チャット・掲示板・メーリングリスト」が88.9%で最も多く、次いで「動画・音楽の視聴」が86.1%、「ネットショッピング」が82.0%、「ニュース」が75.2%、「ブログ・Facebook・プロフ・個人のホームページ」が72.7%、「チケットの予約・購入」が70.2%となっている。

・利用したことのあるインターネットサービス



- 性別でみると、男性は「動画・音楽の視聴」が86.0%、女性は「LINE・チャット・掲示板・メールマガジン」が91.1%で、それぞれ最も多くなっている。また、男性は「オンラインゲーム」が60.4%で、女性（47.7%）より12.7ポイント高くなっている。一方、女性は「チケットの予約・購入」や「ネットショッピング」、「メールマガジン」で、男性より10ポイント以上高くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「オンラインゲーム」が60.9%で、30～39歳（46.1%）より14.8ポイント高くなっている。一方、30～39歳は「ブログ・Facebook・プロフィール・個人のホームページ」や「ニュース」、「メールマガジン」、「ネットオークション」、「企業や団体のホームページ」で、15～29歳より10ポイント以上高くなっている。

・性別・年齢別 利用したことのあるインターネットサービス



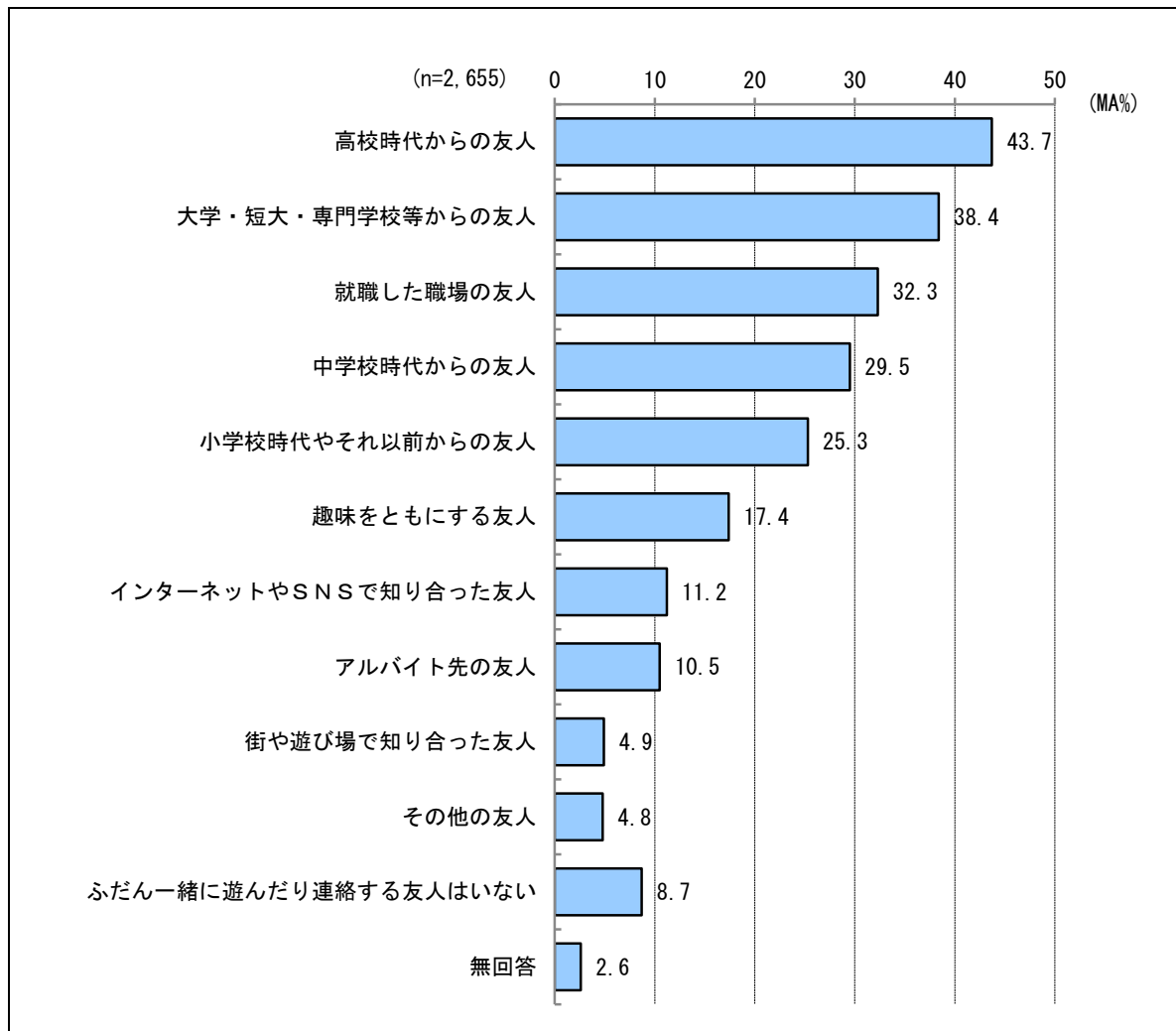
V. 友人関係について

1 ふだん一緒に遊んだり連絡することが多い人

問19 あなたがふだん一緒に遊んだり連絡したりすることが多い友人（のグループ）は次のどれですか。（〇はいくつでも）

■ふだん一緒に遊んだり連絡することが多い人については、「高校時代からの友人」が43.7%で最も多く、次いで「大学・短大・専門学校等からの友人」が38.4%、「就職した職場の友人」が32.3%、「中学校時代からの友人」が29.5%、「小学校時代やそれ以前からの友人」が25.3%となっている。

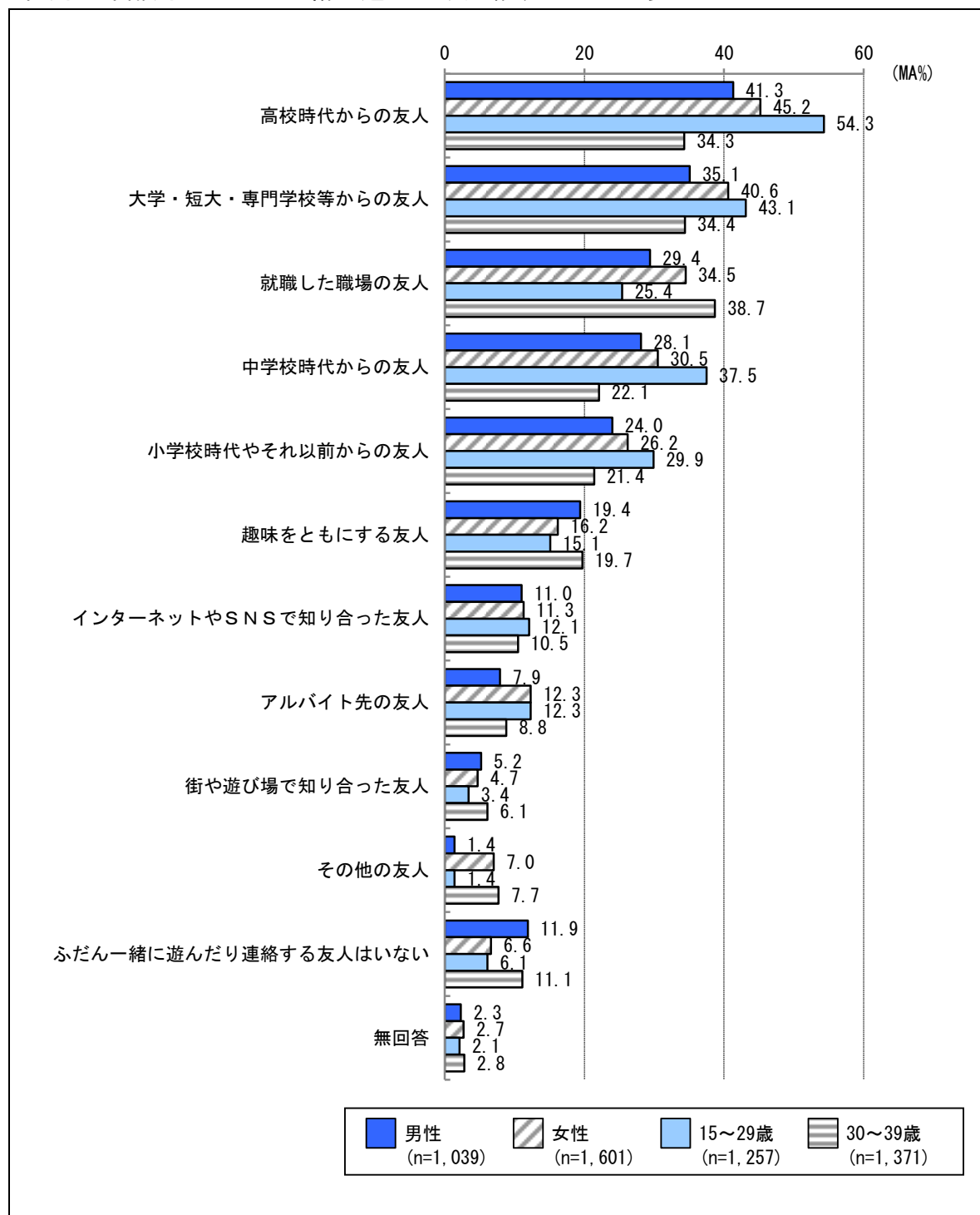
・ふだん一緒に遊んだり連絡することが多い人



■性別でみると、学生時代からの友人や職場の友人は、男性より女性のほうが高い割合になっている。また、男性は「ふだん一緒に遊んだり連絡する友人はいない」が11.9%で、女性（6.6%）より5.3ポイント高くなっている。

■年齢別でみると、「ふだん一緒に遊んだり連絡する友人はいない」は、15～29歳が6.1%、30～39歳が11.1%で、30～39歳のほうが5.0ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 ふだん一緒に遊んだり連絡することが多い人

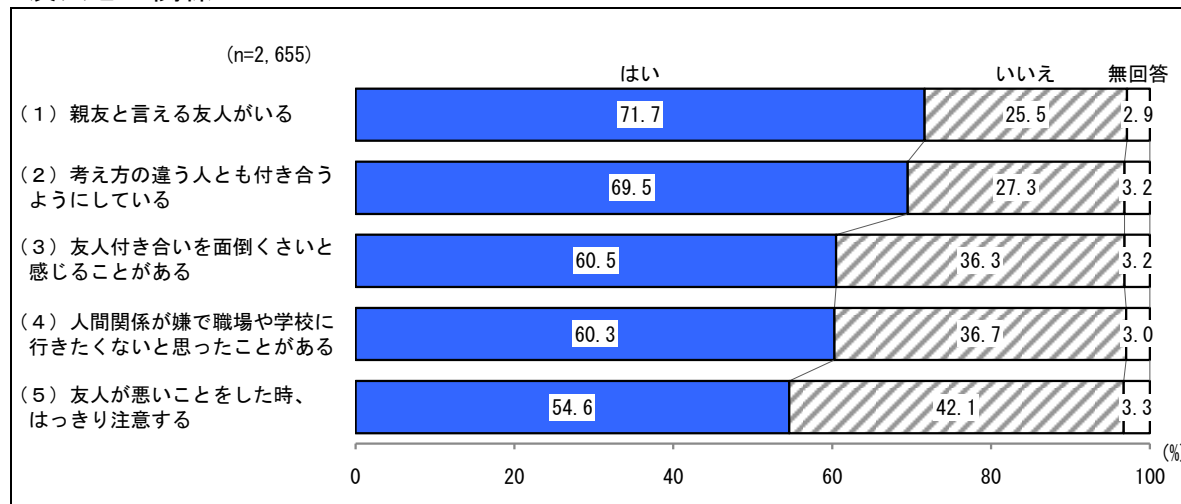


2 友人との関係

問20 あなたと友人との関係についておうかがいします。(1)から(5)のそれぞれについてあてはまる番号に○をつけてください。

■友人との関係については、「親友と言える友人がいる」は71.7%、「考え方の違う人とも付き合うようにしている」は69.5%、「友人が悪いことをした時、はっきり注意する」は54.6%となっている。一方で、「友人付き合いを面倒くさいと感じることがある」は60.5%、「人間関係が嫌で職場や学校に行きたくないと思ったことがある」は60.3%となっている。

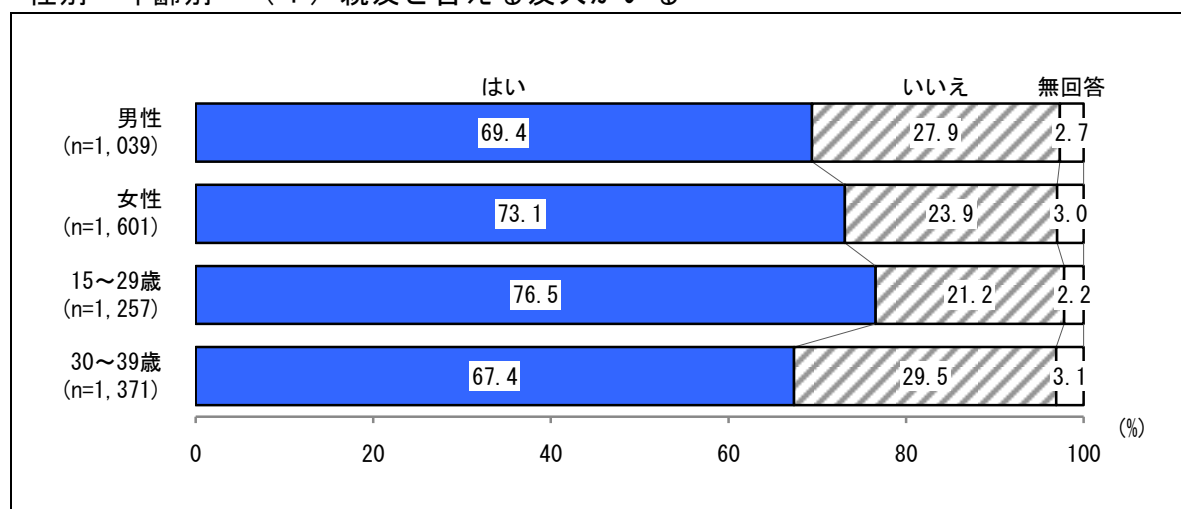
・友人との関係



■親友と言える友人がいるかについて、性別でみると、「はい」は、男性（69.4%）より、女性（73.1%）のほうが3.7ポイント高くなっている。

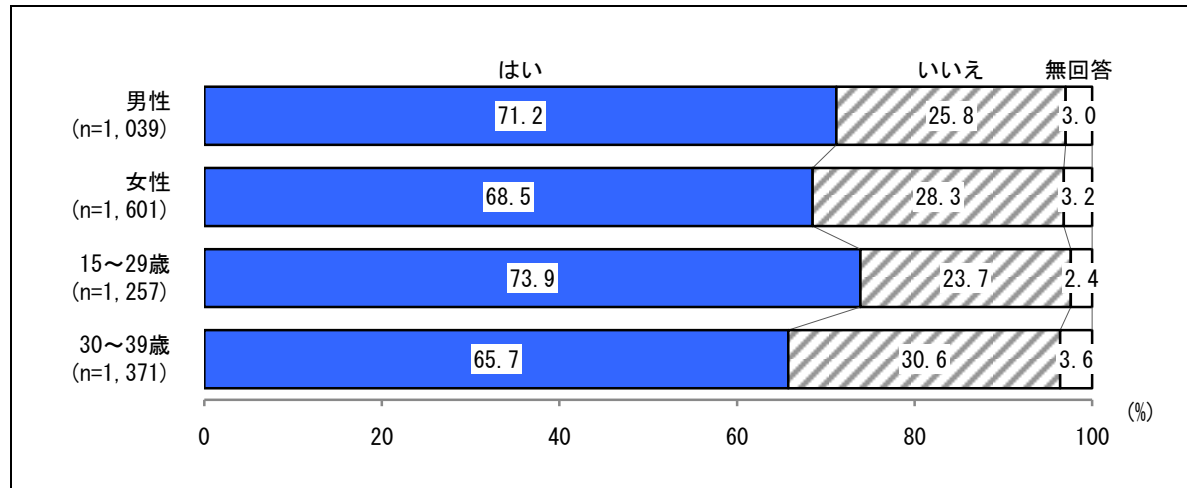
■年齢別でみると、「はい」は、15～29歳（76.5%）より、30～39歳（67.4%）のほうが9.1ポイント低くなっている。

・性別・年齢別 (1) 親友と言える友人がいる



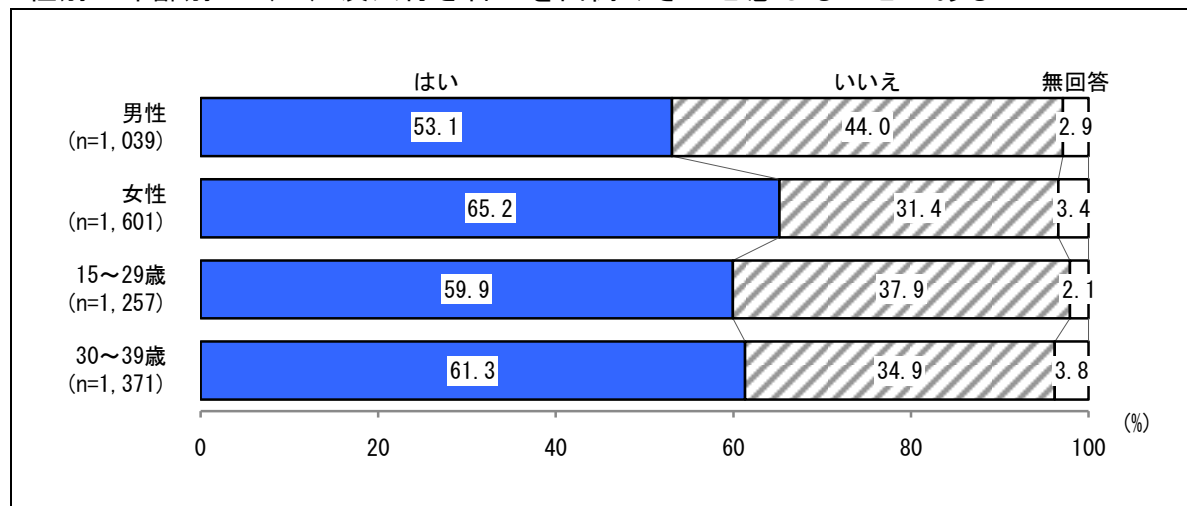
- 考え方の違う人とも付き合うことにしているかについて、性別でみると、「はい」は、男性（71.2%）より、女性（68.5%）のほうが2.7ポイント低くなっている。
- 年齢別でみると、「はい」は、15～29歳（73.9%）より、30～39歳（65.7%）のほうが8.2ポイント低くなっている。

・ 性別・年齢別 （2）考え方の違う人とも付き合うようにしている



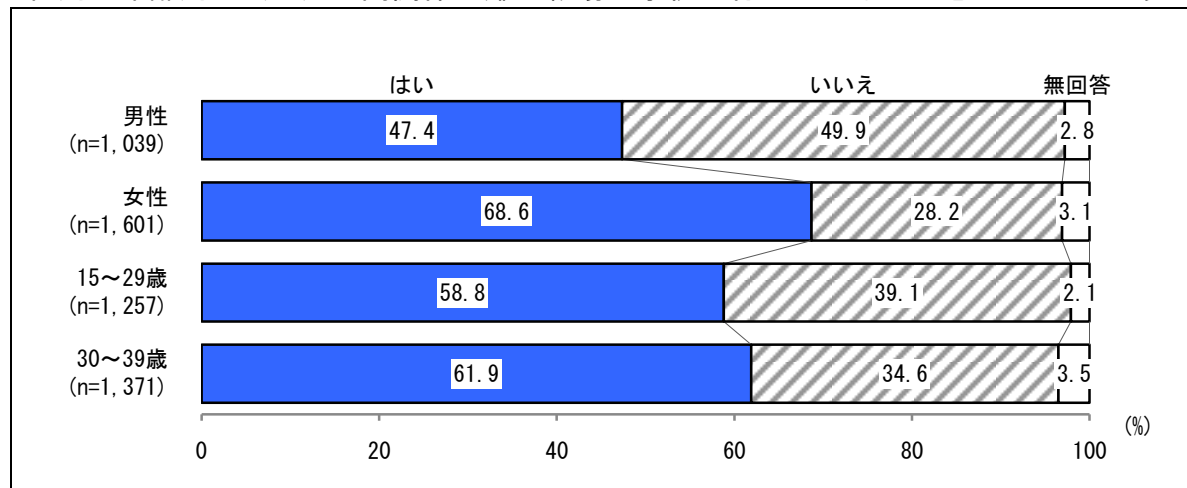
- 友人付き合いを面倒くさいと感じることがあるかについて、性別でみると、「はい」は、男性（53.1%）より、女性（65.2%）のほうが12.1ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「はい」は、15～29歳（59.9%）より、30～39歳（61.3%）のほうが1.4ポイント高くなっている。

・ 性別・年齢別 （3）友人付き合いを面倒くさいと感じることがある



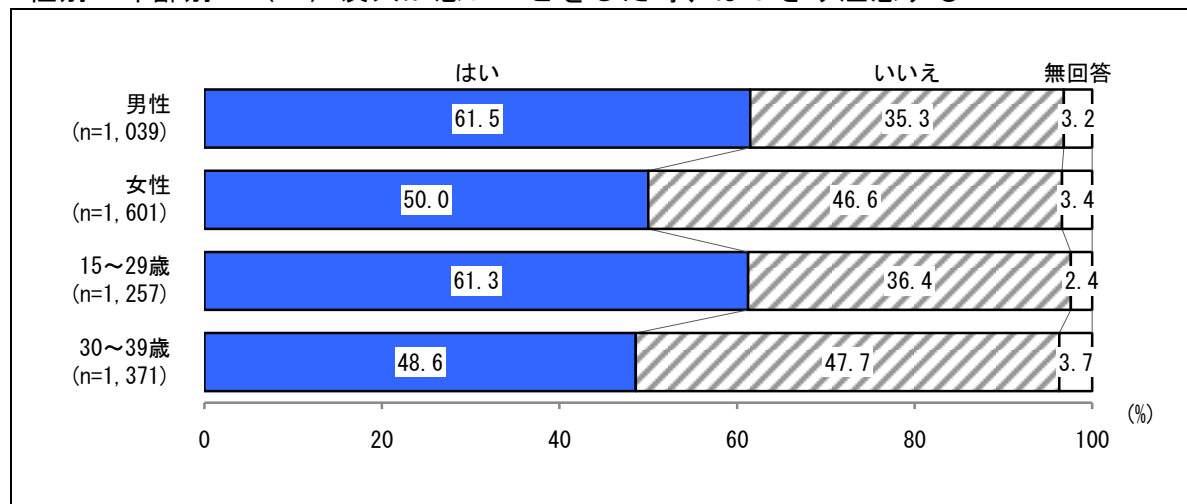
- 人間関係が嫌で職場や学校に行きたくないと思ったことがあるかについて、性別でみると、「はい」は、男性（47.4%）より、女性（68.6%）のほうが21.2ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「はい」は、15～29歳（58.8%）より、30～39歳（61.9%）のほうが3.1ポイント高くなっている。

・ 性別・年齢別 （４）人間関係が嫌で職場や学校に行きたくないと思ったことがある



- 友人が悪いことをした時、はっきり注意するかについて、性別でみると、「はい」は、男性（61.5%）より、女性（50.0%）のほうが11.5ポイント低くなっている。
- 年齢別でみると、「はい」は、15～29歳（61.3%）より、30～39歳（48.6%）のほうが12.7ポイント低くなっている。

・ 性別・年齢別 （５）友人が悪いことをした時、はっきり注意する



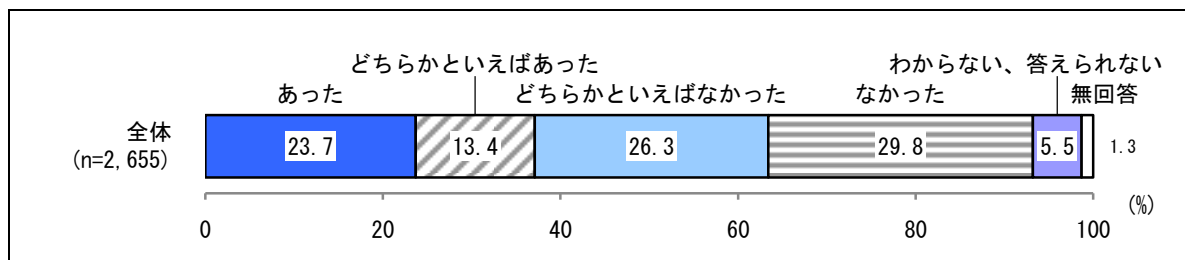
VI. 回答者自身について

1 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験

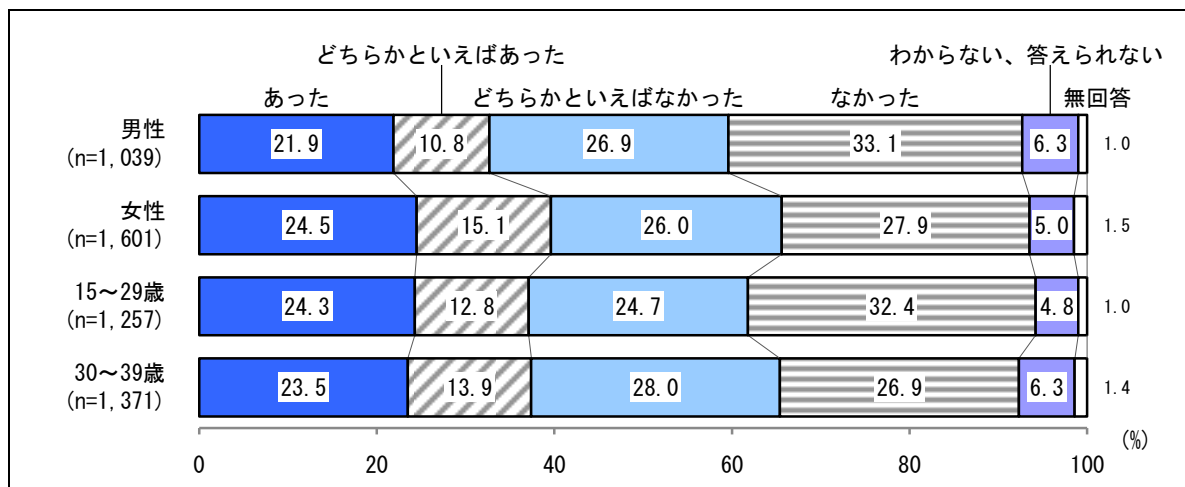
問21 あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験がありましたか。（もっともあてはまる番号に○は1つ）

- 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験については、「なかった」が29.8%で最も多く、次いで「どちらかといえばなかった」が26.3%、「あった」が23.7%となっている。なお、「あった」（23.7%）と「どちらかといえばあった」（13.4%）をあわせた37.1%の人は経験があったと回答している。
- 性別でみると、経験があった人は、男性が32.7%、女性が39.6%で、女性のほうが6.9ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、経験があった人に、大きな差はみられない。

・ 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験



・ 性別・年齢別 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験



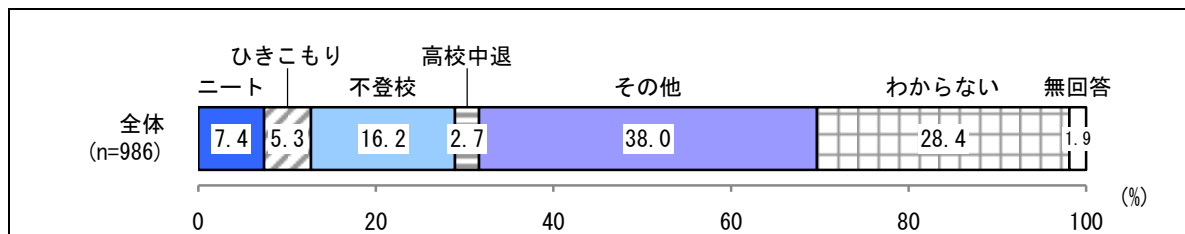
2 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった最大の原因

問21で『経験があった』を選んだ方におうかがいします。（社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験があると認識している場合）

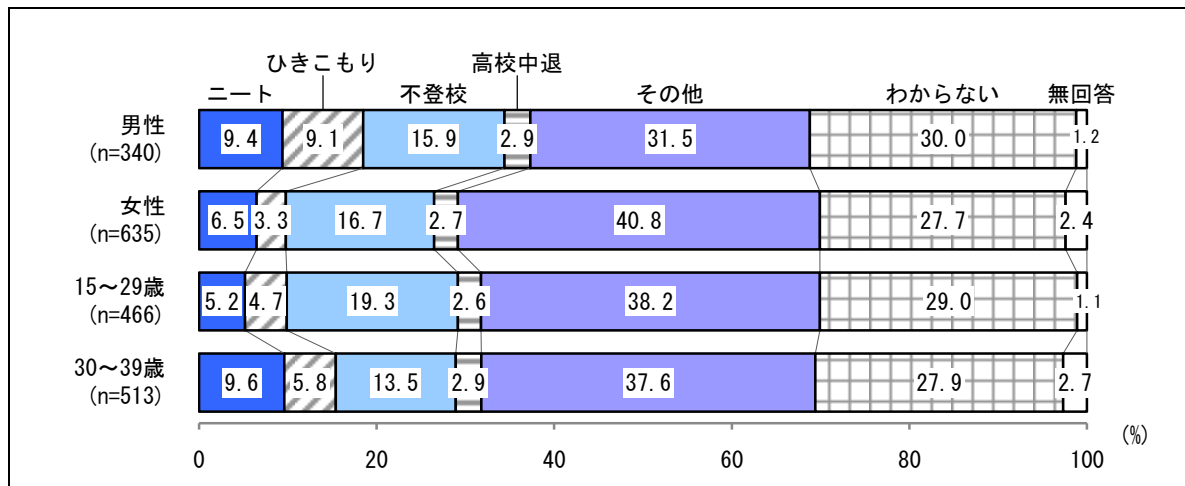
問21-1 そのように思う上で一番大きな原因となっているのはどういう経験ですか。
（○は1つ）

- 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験があると回答した人に、その最大の原因をたずねると、「不登校」が16.2%で最も多く、次いで「ニート」が7.4%、「ひきこもり」が5.3%となっている。また、「わからない」が28.4%を占めている。
- 性別でみると、男性は女性と比べて「ひきこもり」が5.8ポイント、「ニート」が2.9ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「不登校」が19.3%で、30～39歳（13.5%）より5.8ポイント高くなっている。一方、30～39歳は「ニート」が9.6%で、15～29歳（5.2%）より4.4ポイント高くなっている。

・ 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった最大の原因



・ 性別・年齢別 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった最大の原因



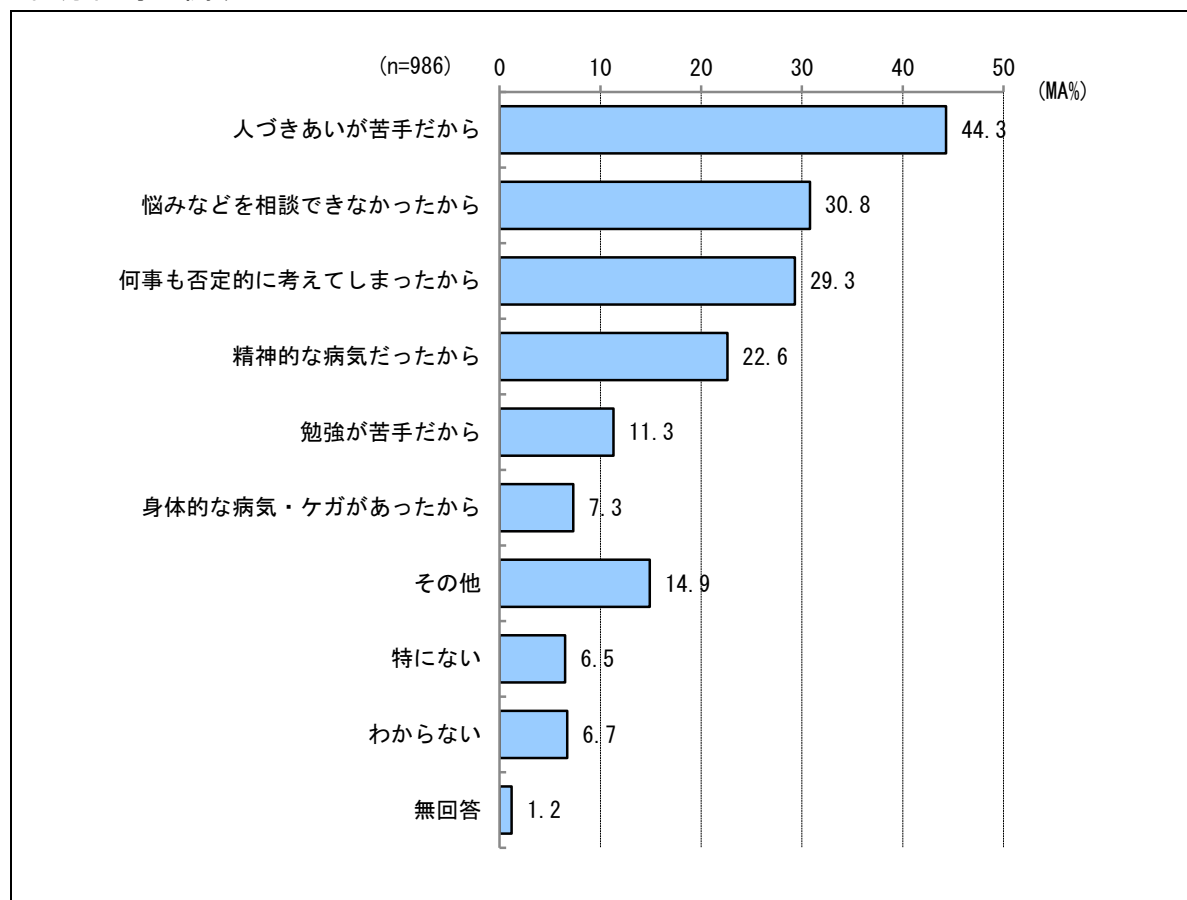
3 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった理由

問21-2 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験をした主な理由は何ですか。（〇はいくつでも）

（1）自分自身に関すること

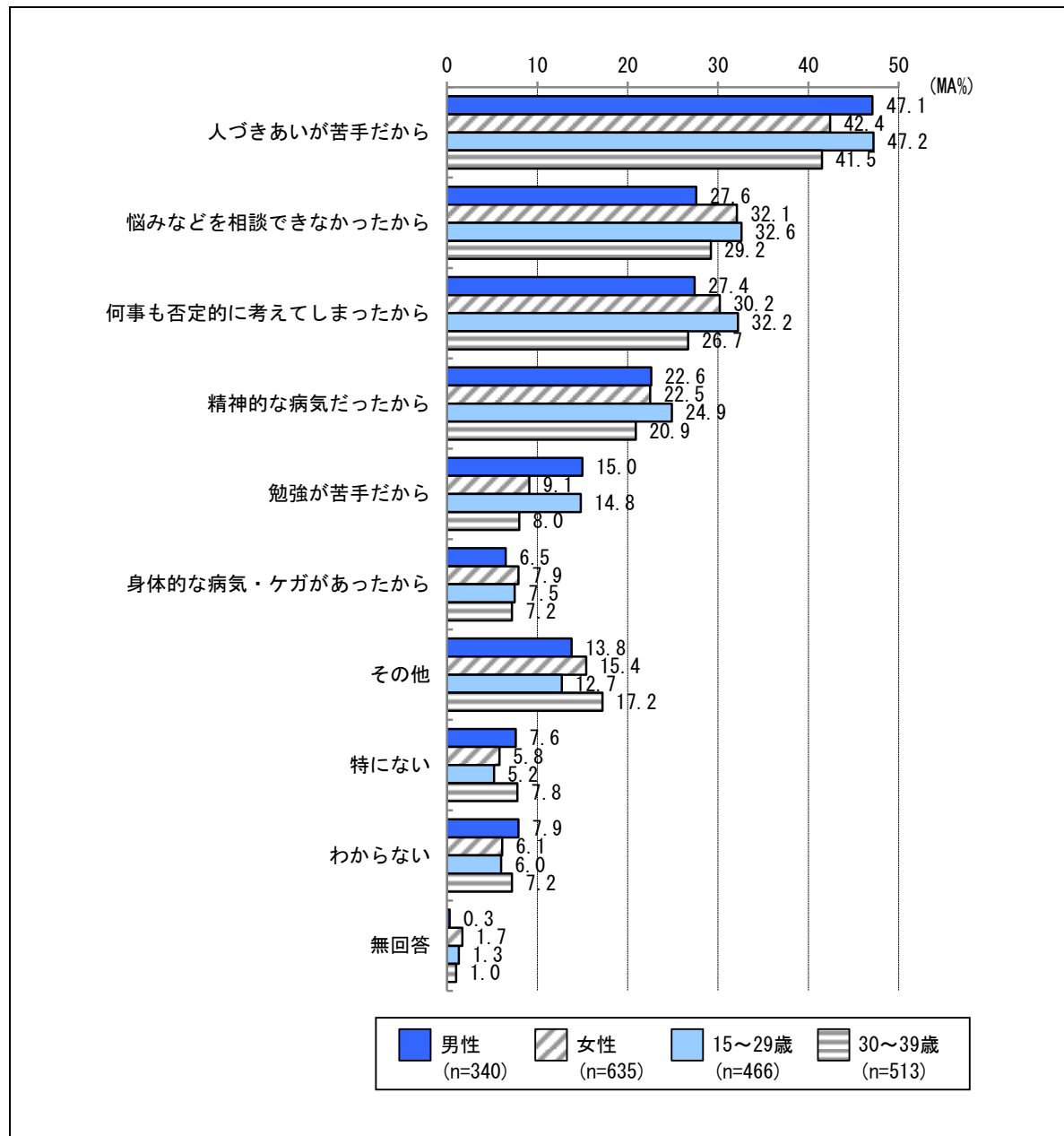
■ 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験があると回答した人に、その理由をたずねると、自分自身に関することでは、「人づきあいが苦手だから」が44.3%で最も多く、次いで「悩みなどを相談できなかったから」が30.8%、「何事も否定的に考えてしまったから」が29.3%、「精神的な病気だったから」が22.6%となっている。

・ 自分自身に関すること



- 性別でみると、男女とも「人づきあいが苦手だから」が最も多く、男性は47.1%、女性は42.4%で、男性のほうが4.7ポイント高くなっている。また、男性は「勉強が苦手だから」が15.0%で、女性（9.1%）より5.9ポイント高くなっている。一方、女性は「悩みなどを相談できなかったから」が32.1%で、男性（27.6%）より4.5ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「その他」を除いたいずれの項目も、15～29歳は30～39歳と比べて割合が高く、特に「勉強が苦手だから」や「人づきあいが苦手だから」、「何事も否定的に考えてしまったから」は、5ポイント以上高くなっている。

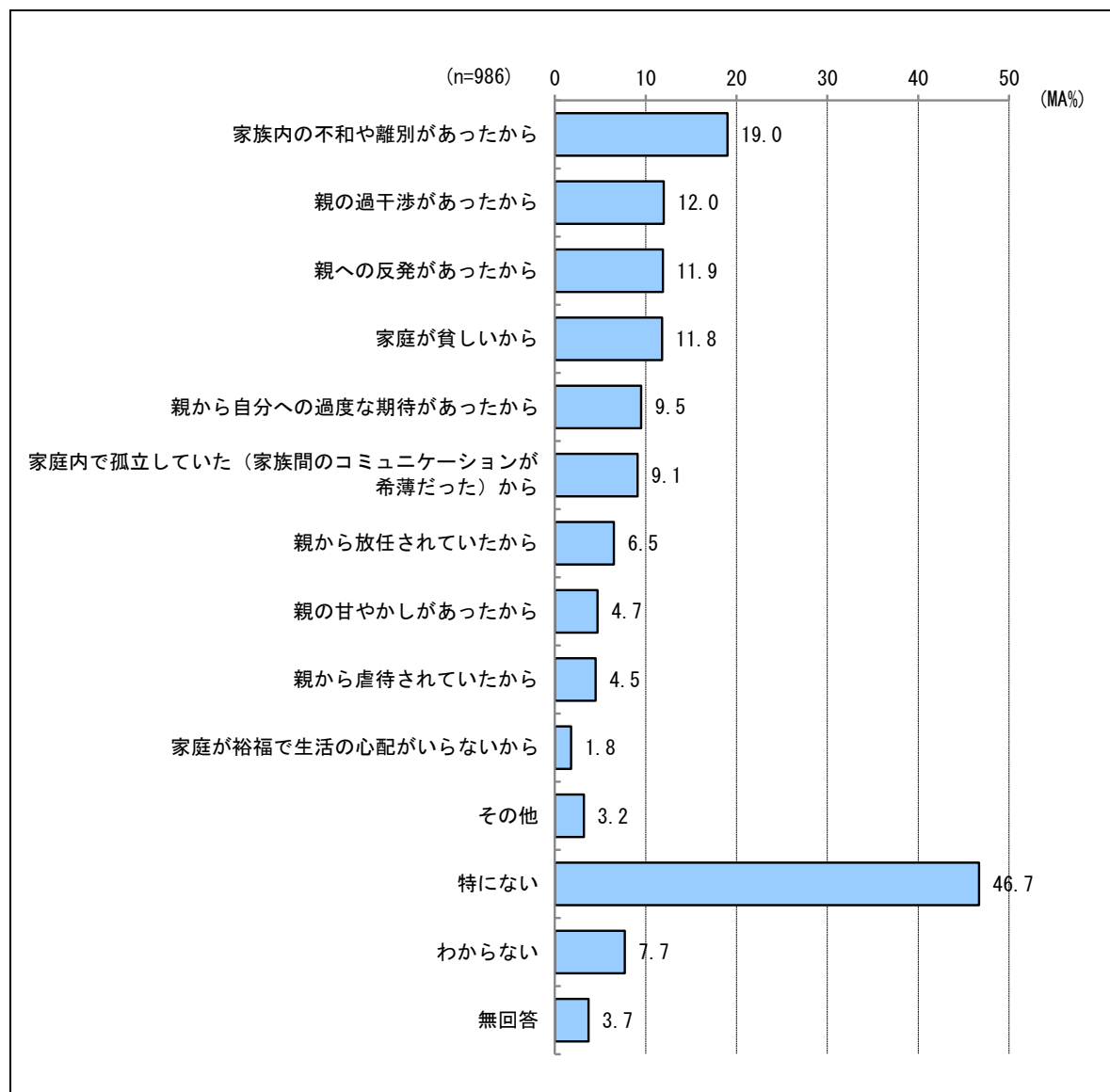
・性別・年齢別 自分自身に関すること



(2) 家族・家庭に関すること

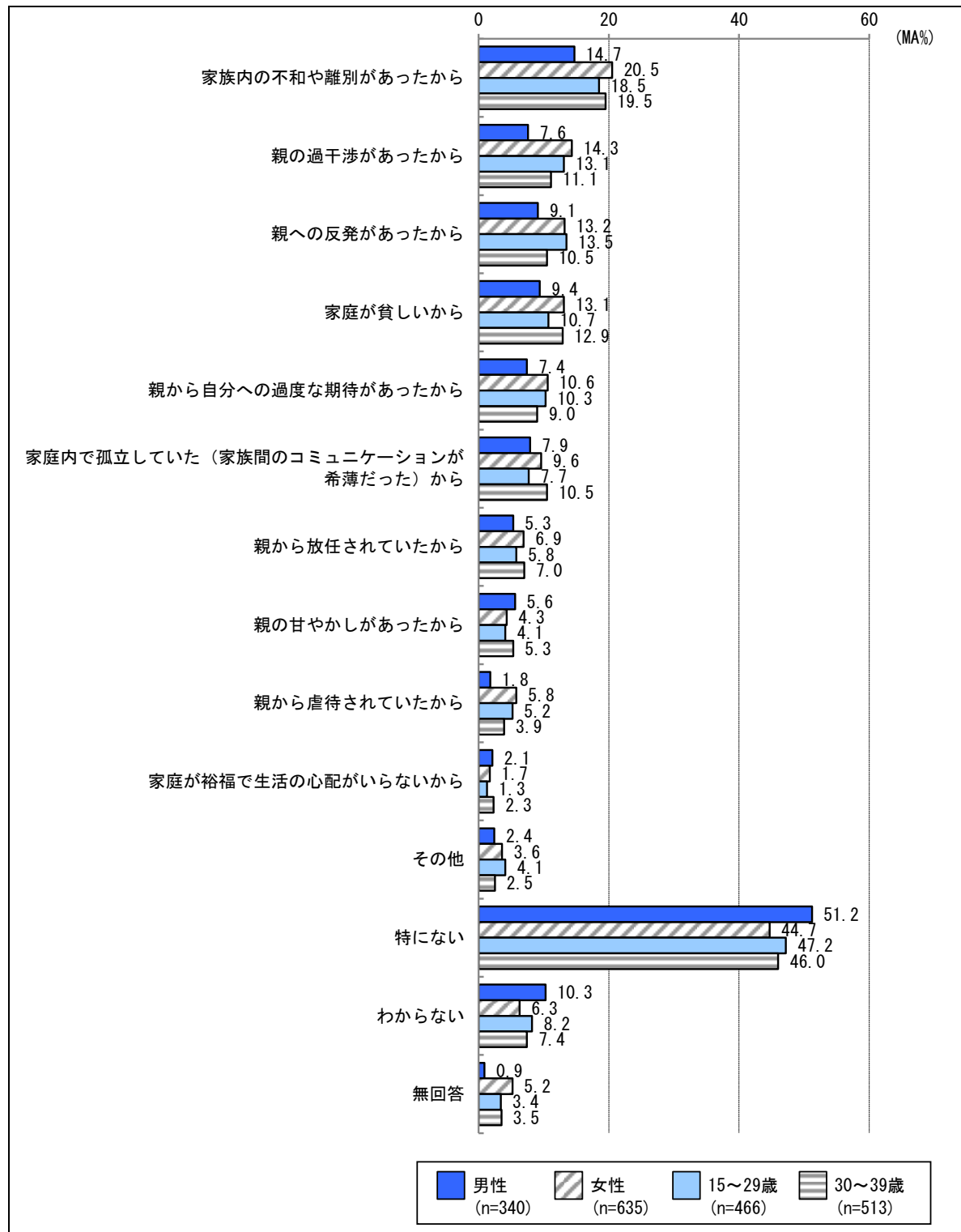
■ 家族・家庭に関することでは、「特にない」が46.7%で最も多くなっている。一方、理由のある人では、「家族内の不和や離別があったから」が19.0%で最も多く、次いで「親の過干渉があったから」が12.0%、「親への反発があったから」が11.9%、「家庭が貧しいから」が11.8%となっている。

・ 家族・家庭に関すること



- 性別でみると、男性は「特にない」が51.2%で、女性（44.7%）より6.5ポイント高くなっている。また、多くの項目で、男性より女性のほうが割合は高く、特に「親の過干渉があったから」は6.7ポイント、「家庭内の不和や離別があったから」は5.8ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「親への反発があったから」が13.5%で、30～39歳（10.5%）より3.0ポイント高くなっている。一方、30～39歳は「家庭内で孤立していた（家族間のコミュニケーションが希薄だった）から」が10.5%で、15～29歳（7.7%）より2.8ポイント高くなっている。

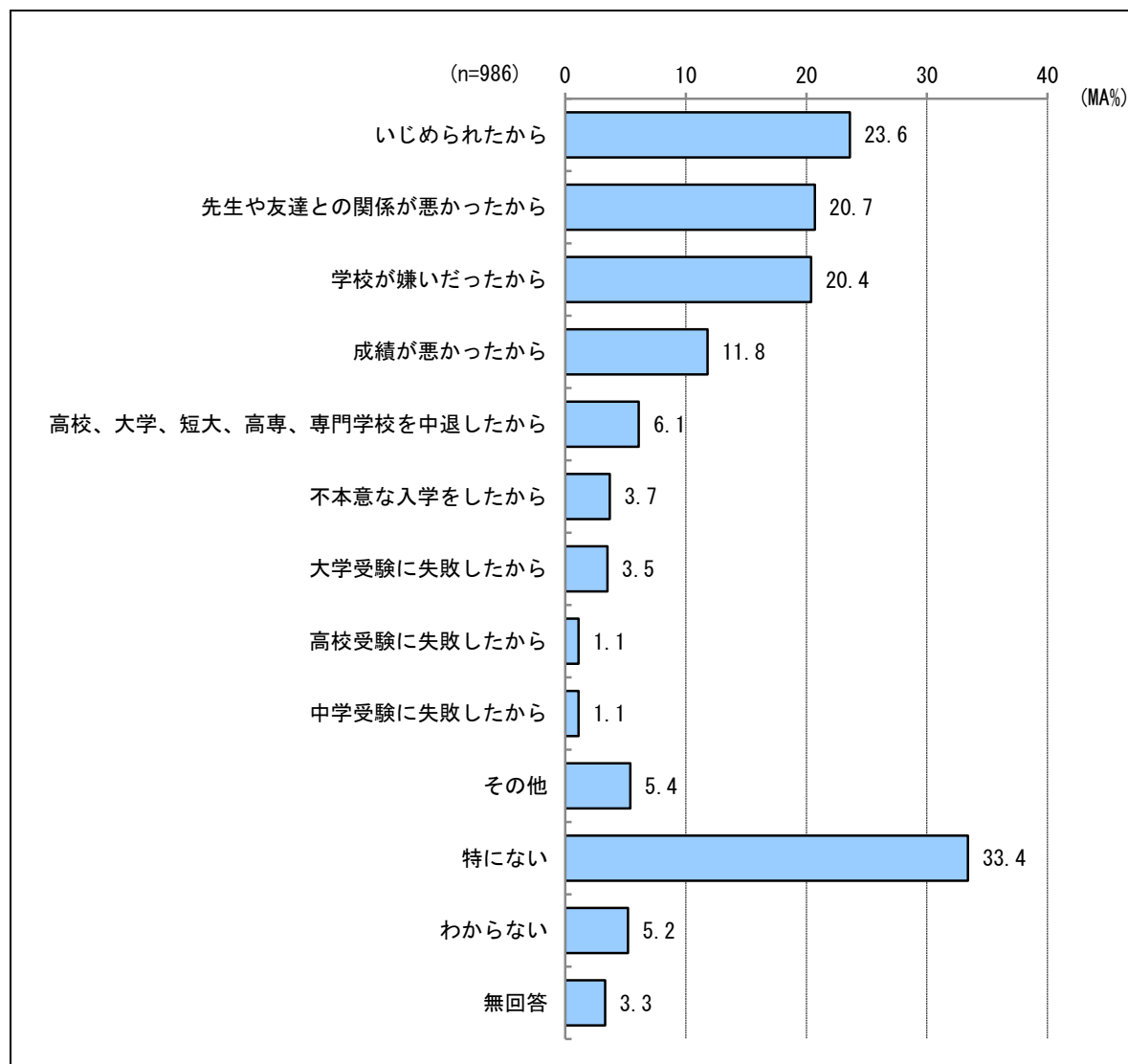
・性別・年齢別 家族・家庭に関すること



(3) 学校に関すること

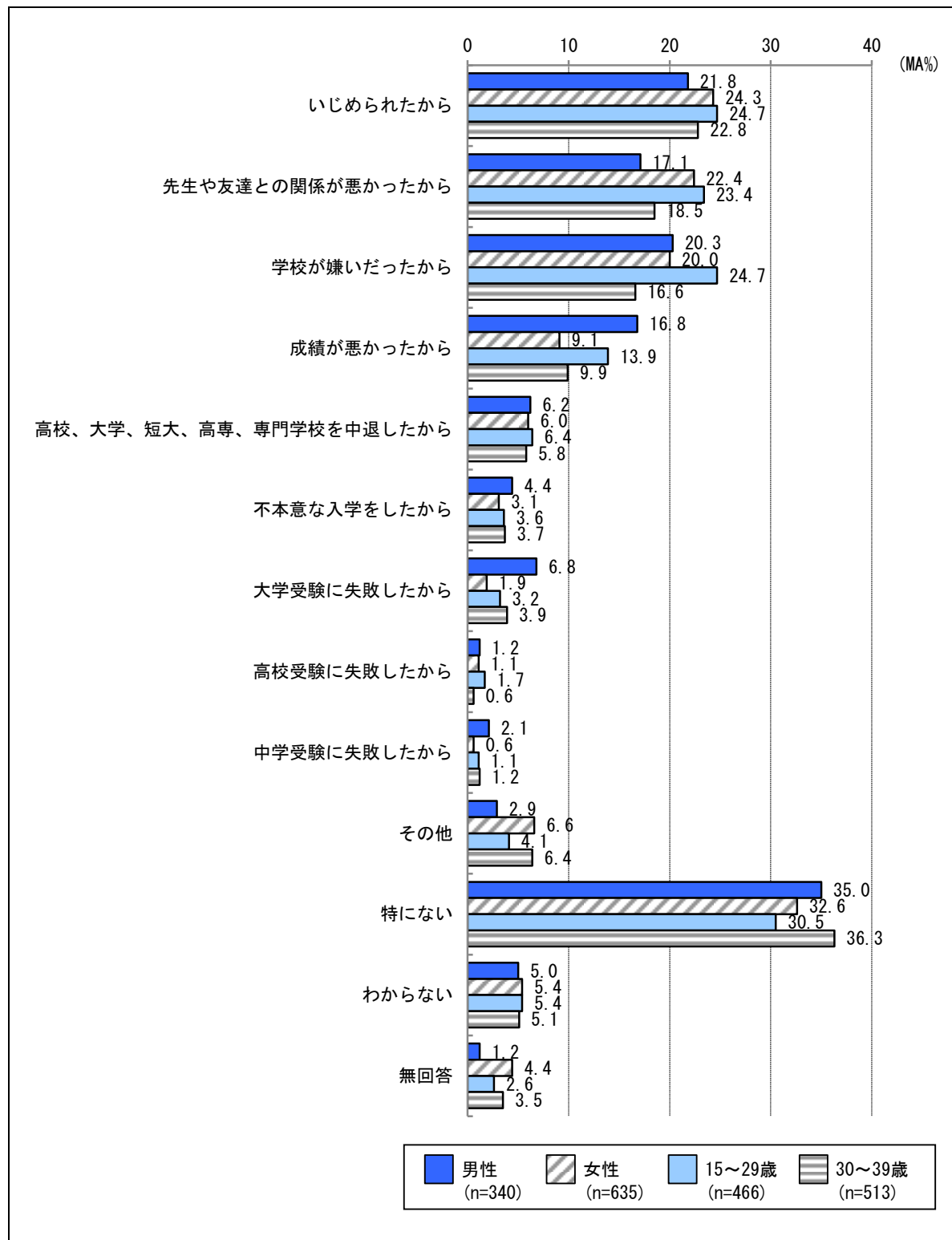
■ 学校に関することでは、「特にない」が33.4%で最も多くなっている。一方、理由のある人では、「いじめられたから」が23.6%で最も多く、次いで「先生や友達との関係が悪かったから」が20.7%、「学校が嫌いだったから」が20.4%、「成績が悪かったから」が11.8%となっている。

・ 学校に関すること



- 性別でみると、男性は「成績が悪かったから」が16.8%で、女性（9.1%）より7.7ポイント高くなっている。一方、女性は「先生や友達との関係が悪かったから」が22.4%で、男性（17.1%）より5.3ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「いじめられたから」と「学校が嫌いだったから」がともに24.7%で最も多くなっており、「学校が嫌いだったから」は、30～39歳（16.6%）より8.1ポイント高くなっている。

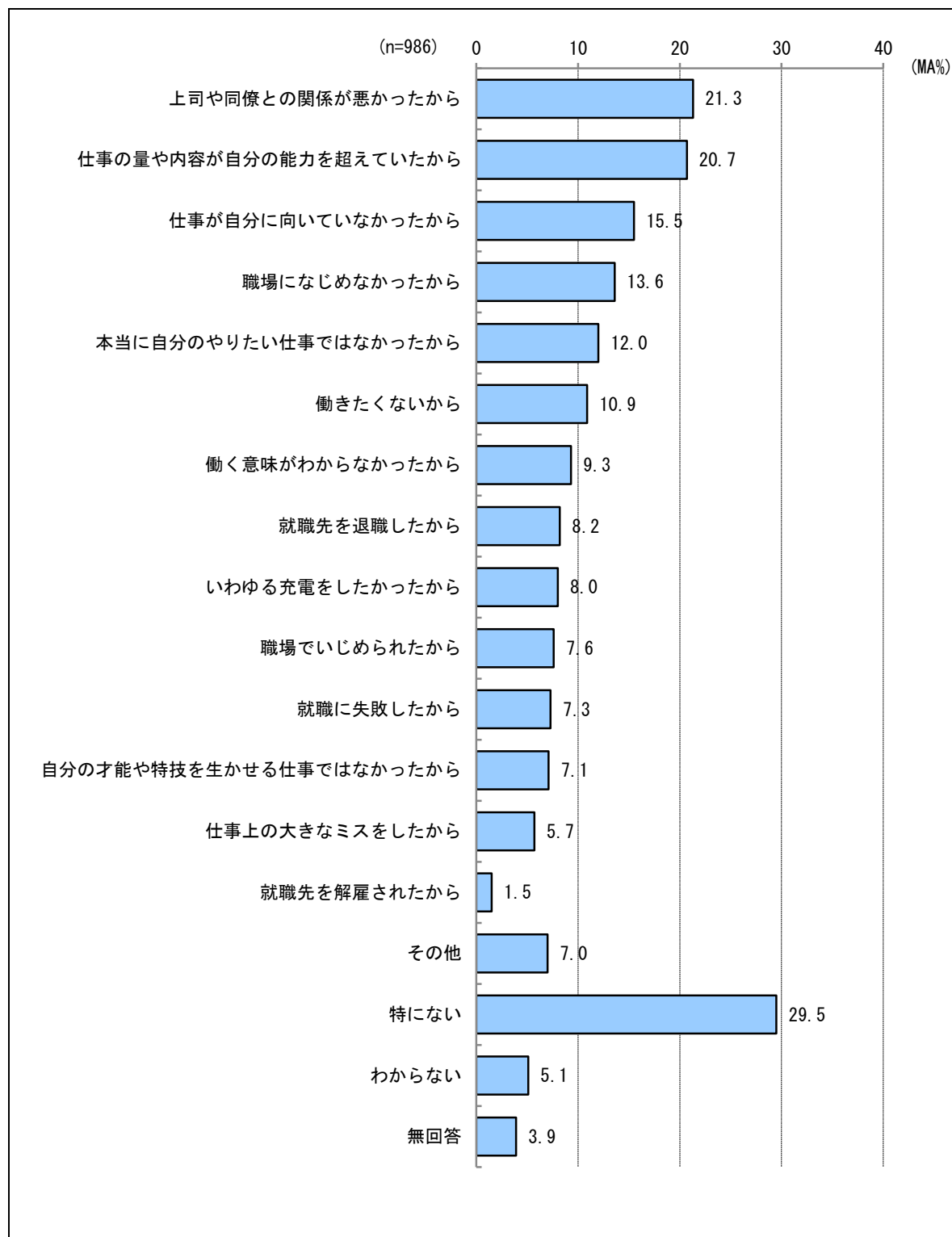
・性別・年齢別 学校に関すること



(4) 仕事に関することの理由

■仕事に関することでは、「特にない」が29.5%で最も多くなっている。一方、理由のある人では、「上司や同僚との関係が悪かったから」が21.3%で最も多く、次いで「仕事の量や内容が自分の能力を超えていたから」が20.7%、「仕事が自分に向いていなかったから」が15.5%、「職場になじめなかったから」が13.6%となっている。

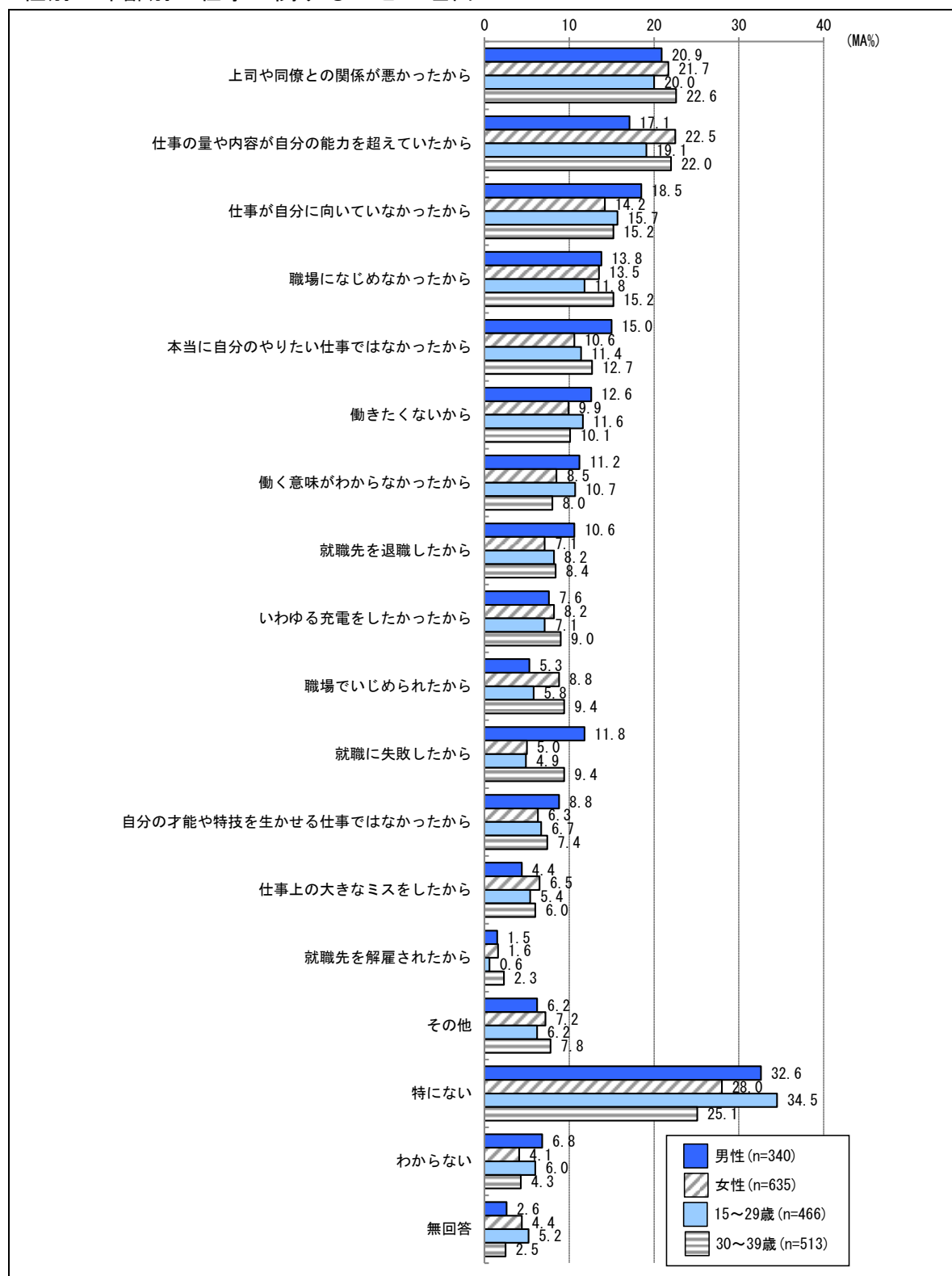
・仕事に関することの理由



■性別でみると、男性は女性と比べて「就職に失敗したから」が6.8ポイント、「本当に自分のやりたい仕事ではなかったから」が4.4ポイント、「仕事が自分に向いていなかったから」が4.3ポイント高くなっている。一方、女性は「仕事の量や内容が自分の能力を超えていたから」が22.5%で最も多く、男性（17.1%）より5.4ポイント高くなっている。

■年齢別でみると、30～39歳は「就職に失敗したから」が9.4%で、15～29歳（4.9%）より4.5ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 仕事に関する理由

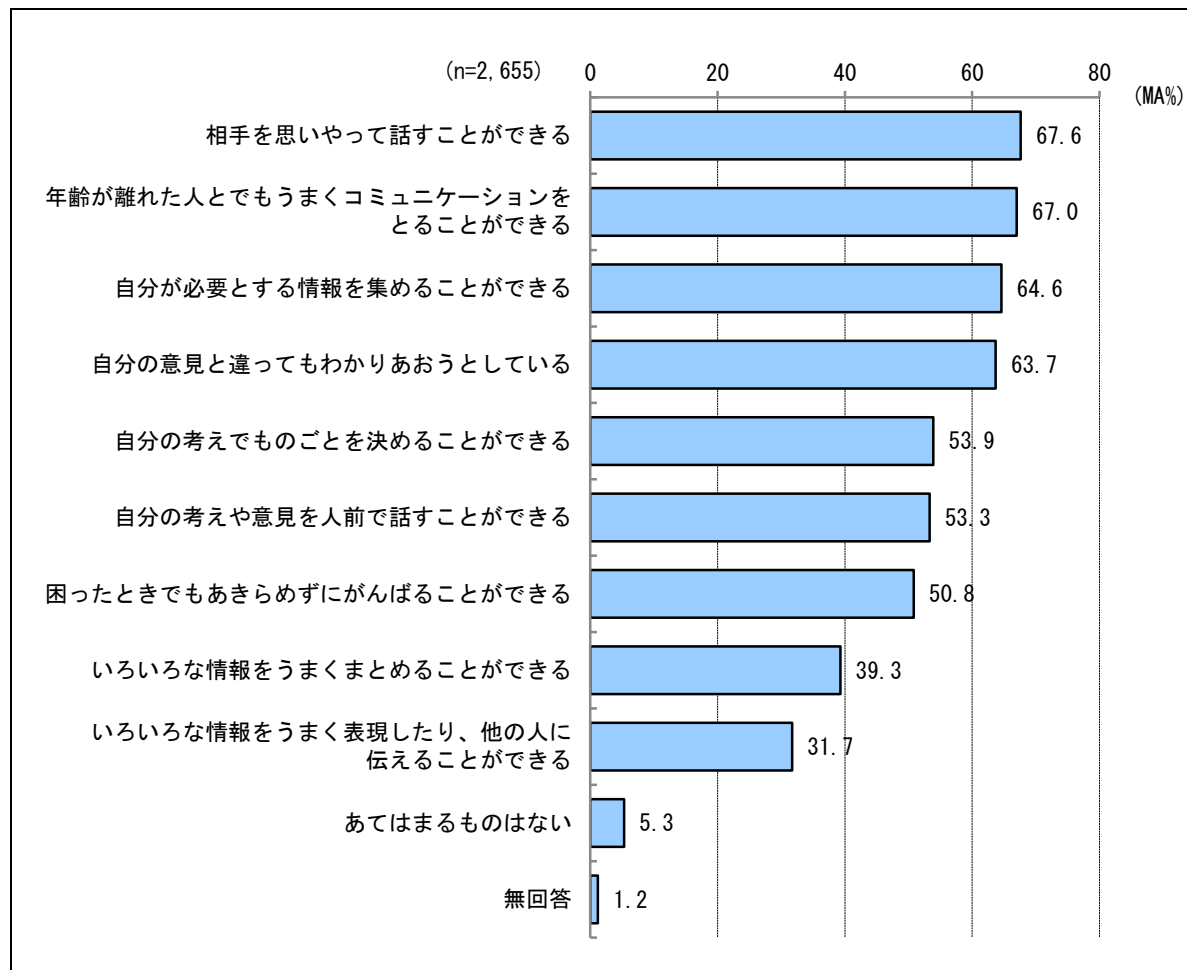


4 自身のコミュニケーションについて

問22 次の中から、あなた自身にあてはまるものをお答えください。
(○はいくつでも)

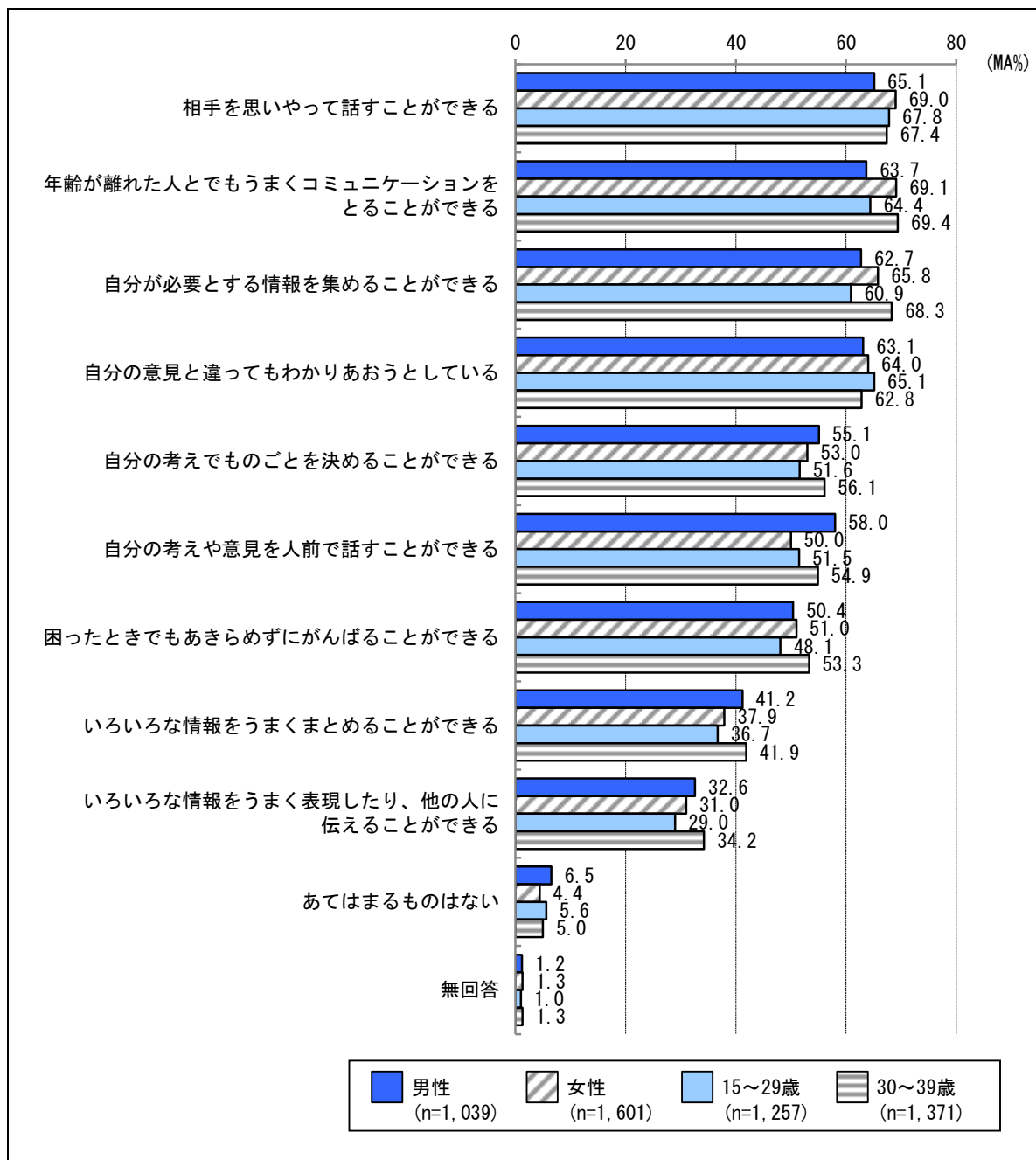
- 自身のコミュニケーションについては、「相手を思いやって話すことができる」が67.6%で最も多く、次いで「年齢が離れた人とでもうまくコミュニケーションをとることができる」が67.0%、「自分が必要とする情報を集めることができる」が64.6%、「自分の意見と違っててもわかりあおうとしている」が63.7%となっている。

・自身のコミュニケーションについて



- 性別でみると、男性は「自分の考えや意見を人前で話すことができる」が58.0%で、女性（50.0%）より8.0ポイント高くなっている。一方、女性は「年齢が離れた人とでもうまくコミュニケーションをとることができる」が69.1%で、男性（63.7%）より5.4ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、30～39歳は「自分が必要とする情報を集めることができる」が68.3%で、15～29歳（60.9%）より7.4ポイント高くなっており、他にも「年齢が離れた人とでもうまくコミュニケーションをとることができる」や「困ったときでもあきらめずにがんばることができる」、「いろいろな情報をうまくまとめることができる」、「いろいろな情報をうまく表現したり、他の人に伝えることができる」は、15～29歳より5ポイント以上高くなっている。

・性別・年齢別 自身のコミュニケーションについて

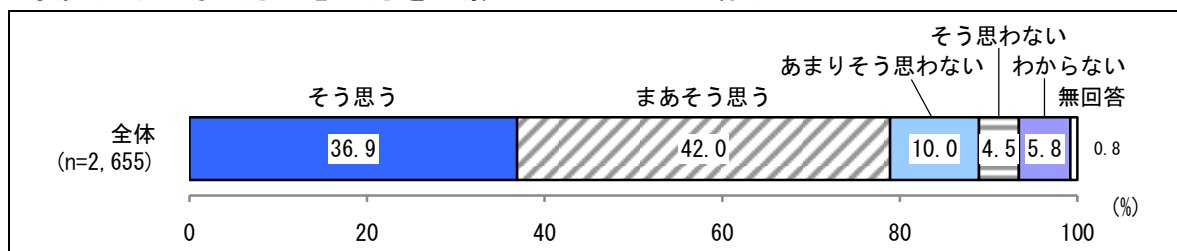


5 家族以外で考え方や感じ方を理解してくれる人の有無

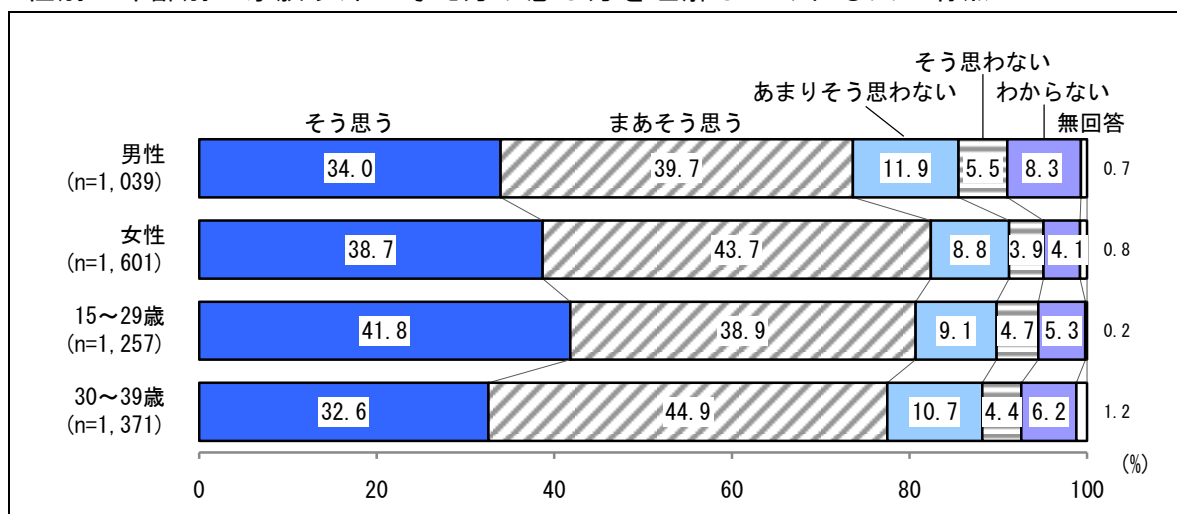
問23 あなたは、あなたの家族以外の人で、何人かの人があなたの考え方や感じていることをわかってきていると思いますか。（○は1つ）

- 家族以外で考え方や感じ方を理解してくれる人の有無については、「まあそう思う」が42.0%で最も多く、次いで「そう思う」が36.9%となっており、両者をあわせた78.9%の人は考え方や感じていることを理解してくれる人がいると回答している。
- 性別でみると、理解してくれる人がいると回答した人は、男性が73.7%、女性が82.4%で、女性のほうが8.7ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、理解してくれる人がいると回答した人は、15～29歳が80.7%、30～39歳が77.5%で、15～29歳のほうが3.2ポイント高くなっている。

・ 家族以外で考え方や感じ方を理解してくれる人の有無



・ 性別・年齢別 家族以外で考え方や感じ方を理解してくれる人の有無

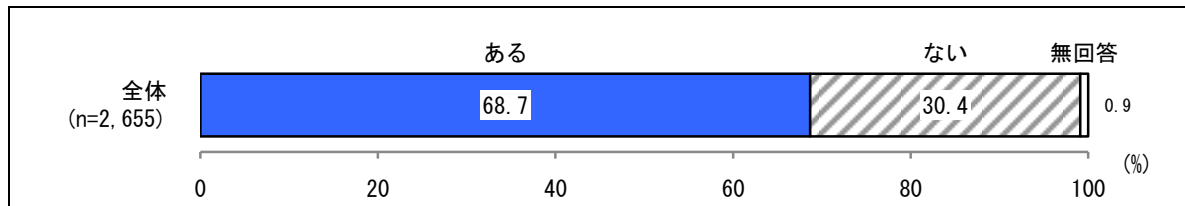


6 悩みや心配ごとの有無

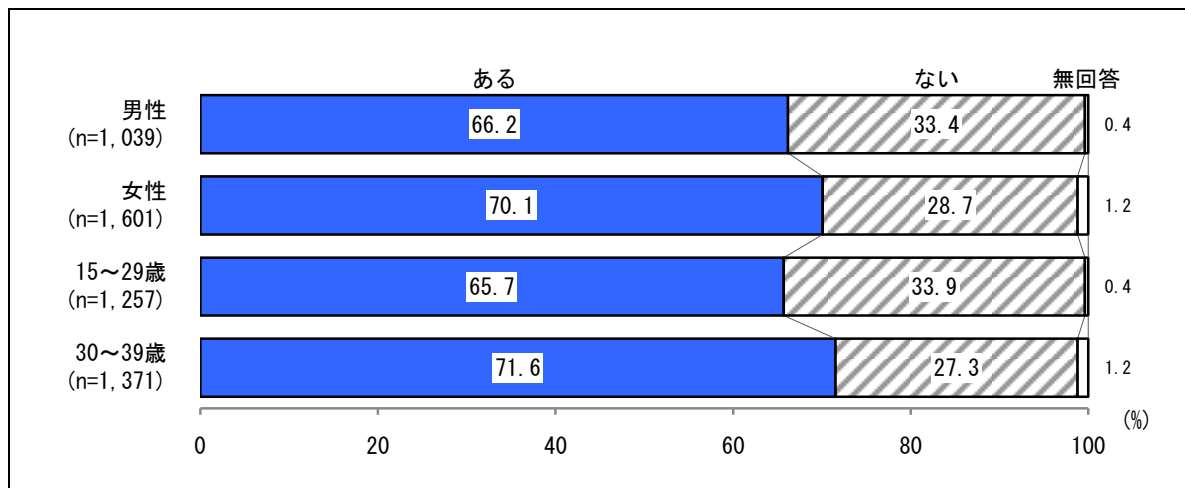
問24 現在、あなたは悩みや心配ごとがありますか。（○は1つ）

- 悩みや心配ごとの有無について、「ある」が68.7%、「ない」が30.4%となっている。
- 性別でみると、「ある」は、男性が66.2%、女性が70.1%で、女性のほうが3.9ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「ある」は、15～29歳が65.7%、30～39歳が71.6%で、30～39歳のほうが5.9ポイント高くなっている。

・ 悩みや心配ごとの有無



・ 性別・年齢別 悩みや心配ごとの有無



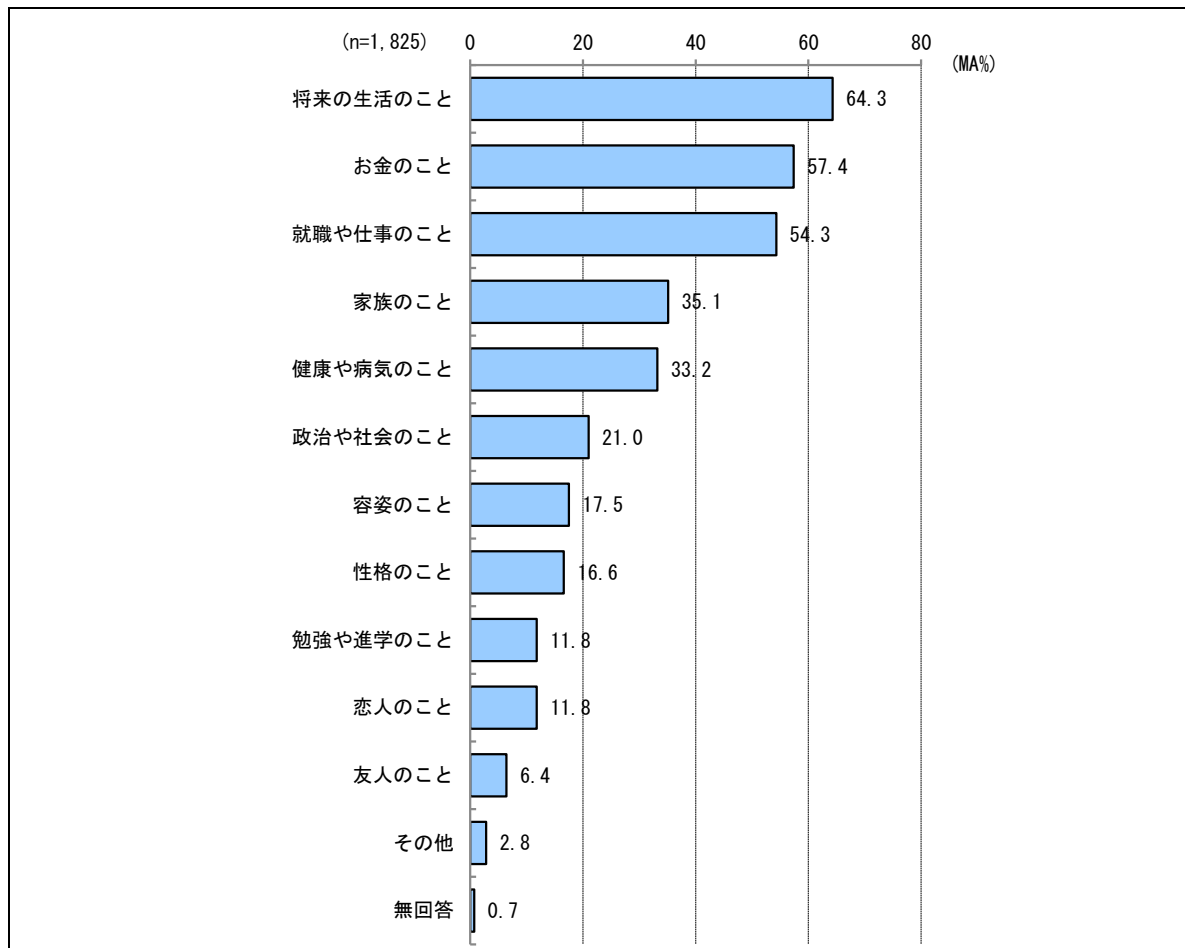
7 悩みや心配ごとの内容

問24で「ある」を選んだ方におうかがいします。

問24-1 さしつかえなければ、あなたの悩みや心配ごとをお答えください。
(〇はいくつでも)

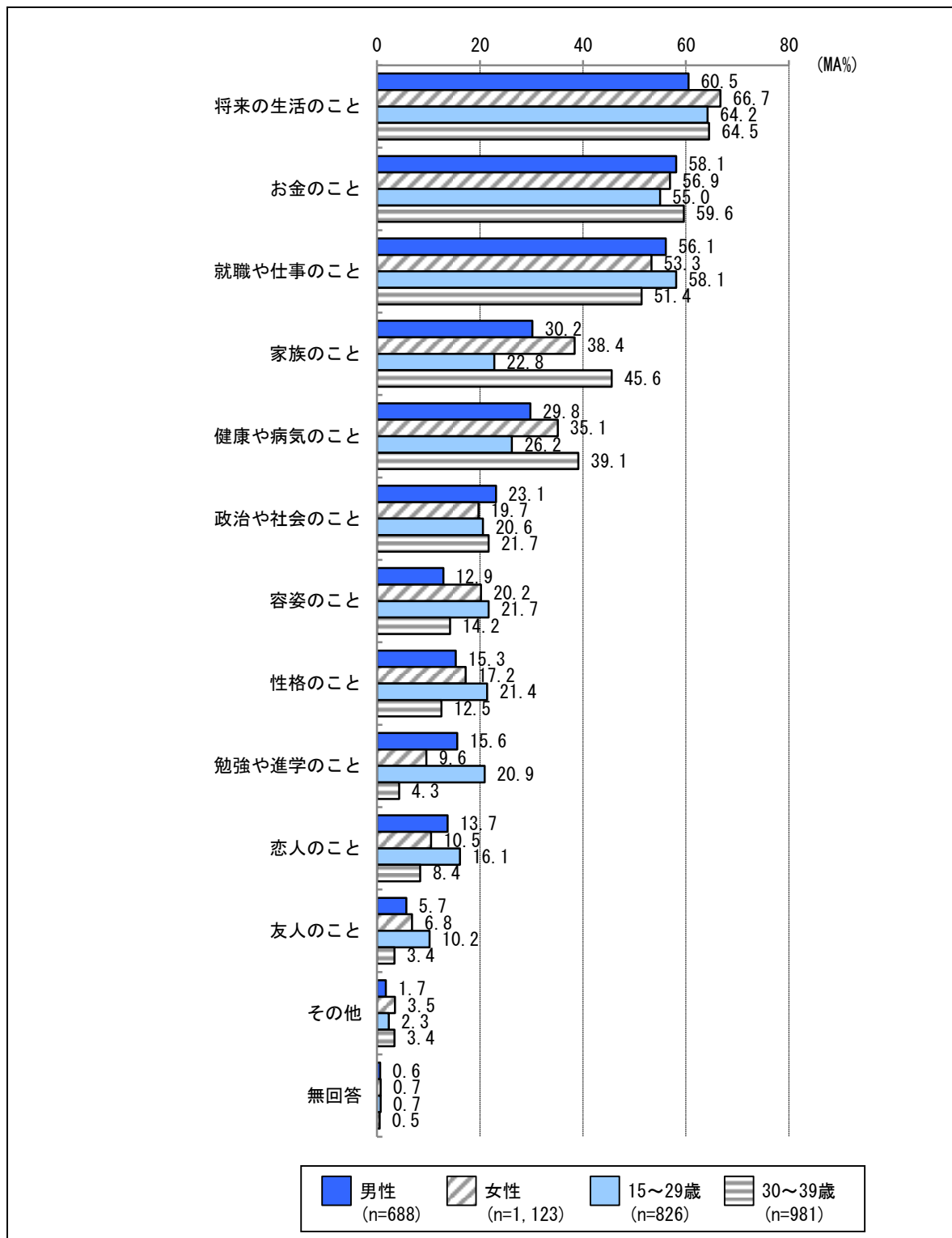
- 「悩みや心配ごとがある」と回答した人に、その内容をたずねると、「将来の生活のこと」が64.3%で最も多く、次いで「お金のこと」が57.4%、「就職や仕事のこと」が54.3%、「家族のこと」が35.1%、「健康や病気のこと」が33.2%となっている。

・ 悩みや心配ごとの内容



- 性別でみると、男性は「勉強や進学のこと」が15.6%で、女性（9.6%）より6.0ポイント高くなっている。一方、女性は「家族のこと」や「容姿のこと」、「将来の生活のこと」、「健康や病気のこと」で、男性より5ポイント以上高くなっている。
- 年齢別でみると、いずれの年齢も「将来の生活のこと」が最も多く、15～29歳で64.2%、30～39歳で64.5%となっている。これに次いで、15～29歳は「就職や仕事のこと」が58.1%、30～39歳は「お金のこと」が59.6%となっている。

・性別・年齢別 悩みや心配ごとの内容

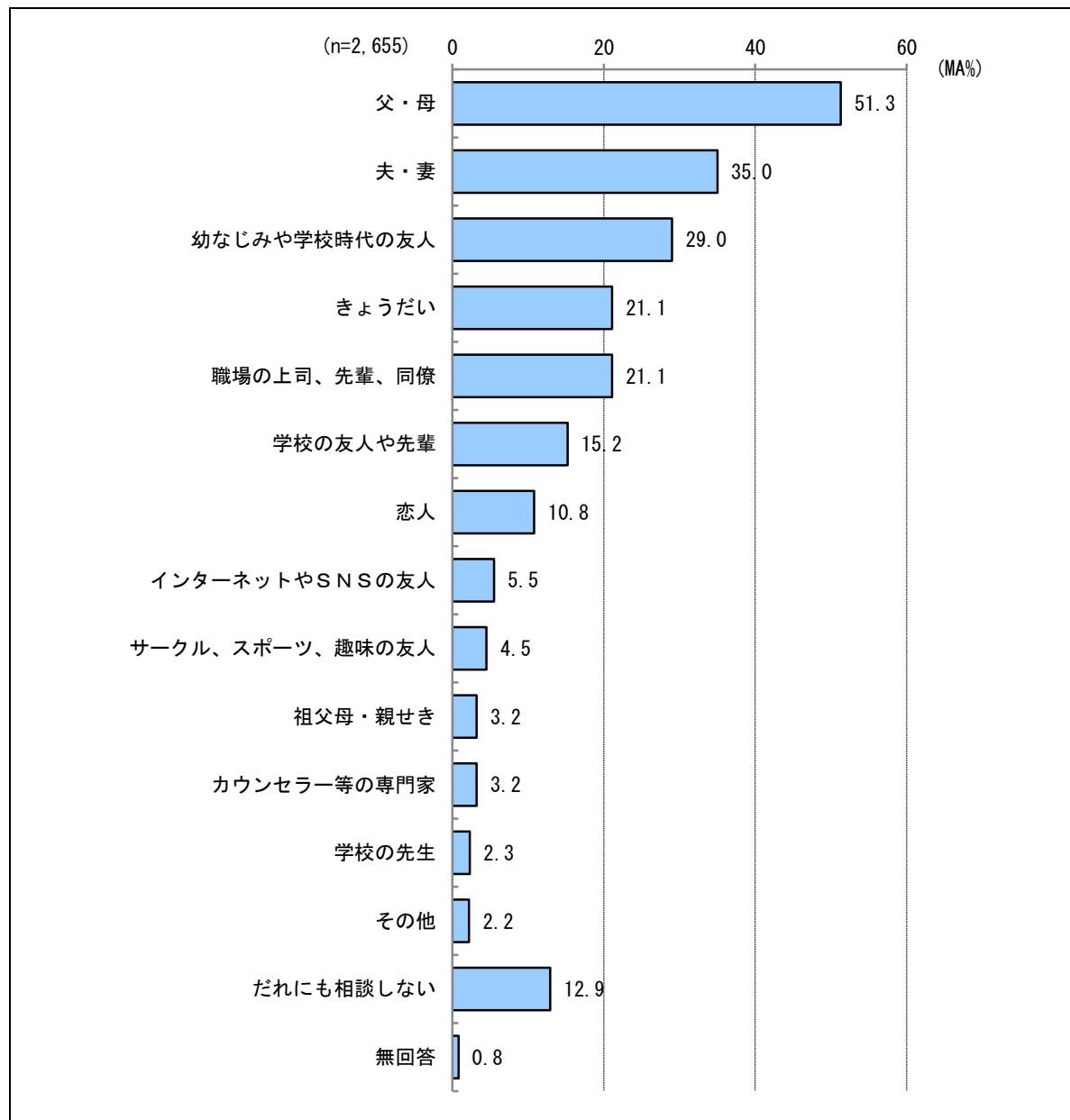


8 悩みや心配ごとの相談相手

問25 あなたは、悩みや心配ごとがあった場合、だれに相談しますか。
(〇はいくつでも)

■ 悩みや心配ごとの相談相手については、「父・母」が51.3%で最も多く、次いで「夫・妻」が35.0%、「幼なじみや学校時代の友人」が29.0%、「きょうだい」と「職場の上司、先輩、同僚」がともに21.1%となっている。一方、「だれにも相談しない」は12.9%となっている。

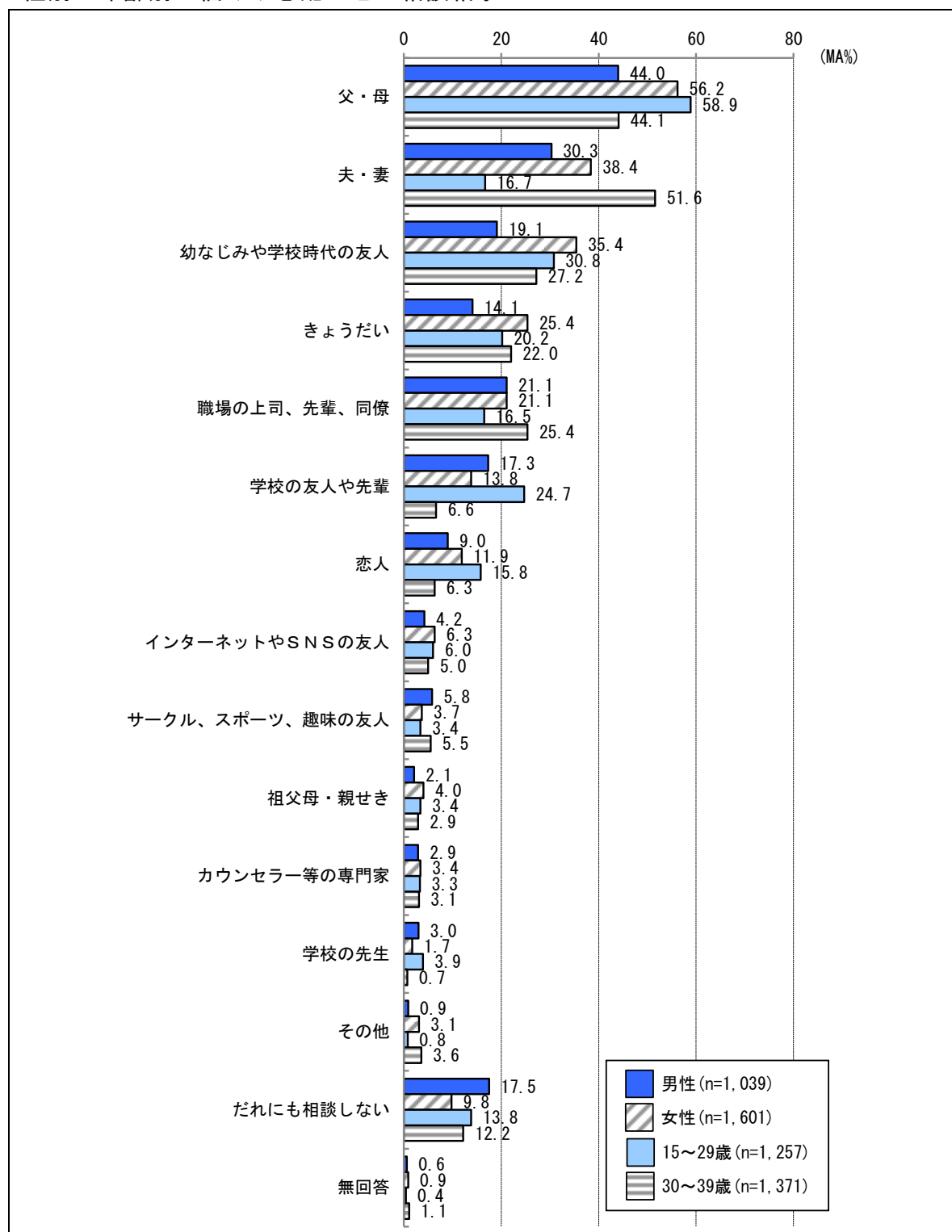
・ 悩みや心配ごとの相談相手



■性別でみると、男女とも「父・母」が最も多く、次いで「夫・妻」となっており、これに続いて男性は「職場の上司、先輩、同僚」(21.1%)、女性は「幼なじみや学校時代の友人」(35.4%)が多くなっている。

■年齢別でみると、15～29歳は「父・母」が58.9%で最も多く、次いで「幼なじみや学校時代の友人」が30.8%、「学校の友人や先輩」が24.7%となっている。30～39歳は「夫・妻」が51.6%で最も多く、次いで「父・母」が44.1%、「幼なじみや学校時代の友人」が27.2%となっている。

・性別・年齢別 悩みや心配ごとの相談相手

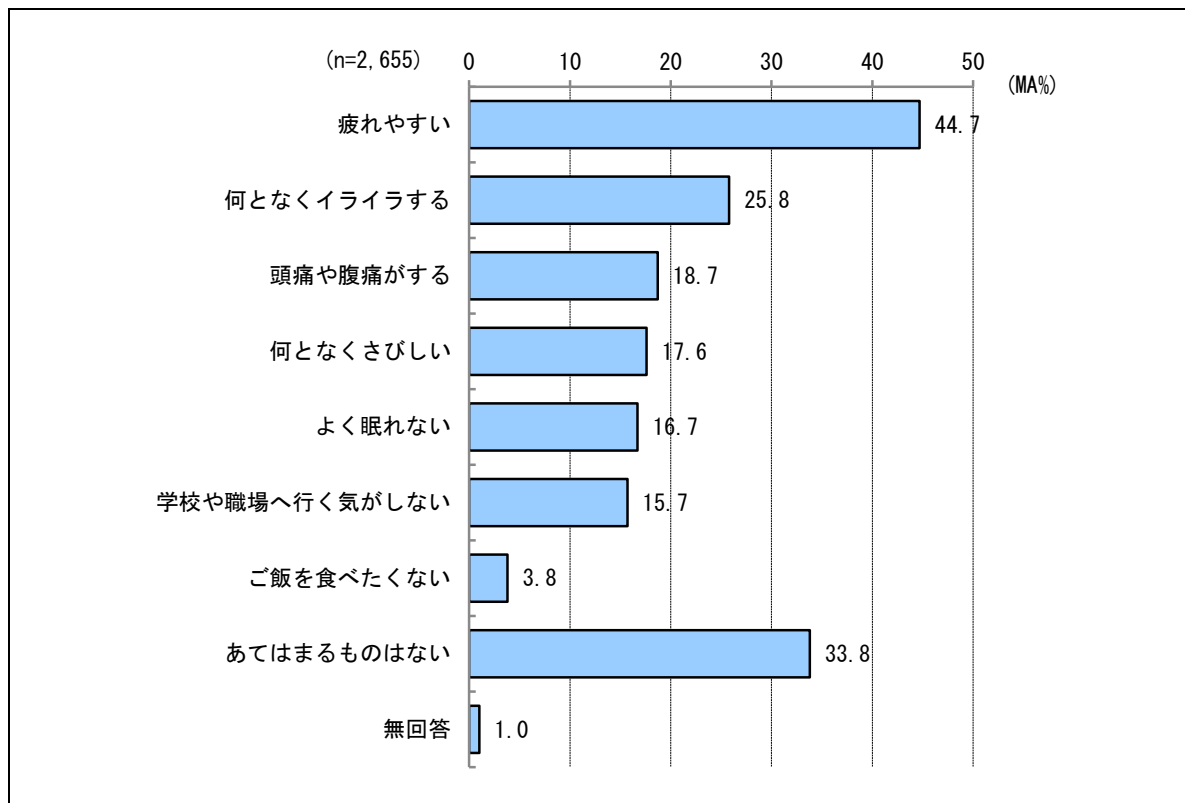


9 ふだんのからだや気持ち

問26 あなたのからだや気持ちのことについておうかがいします。ふだん次のようなことがよくありますか。（○はいくつでも）

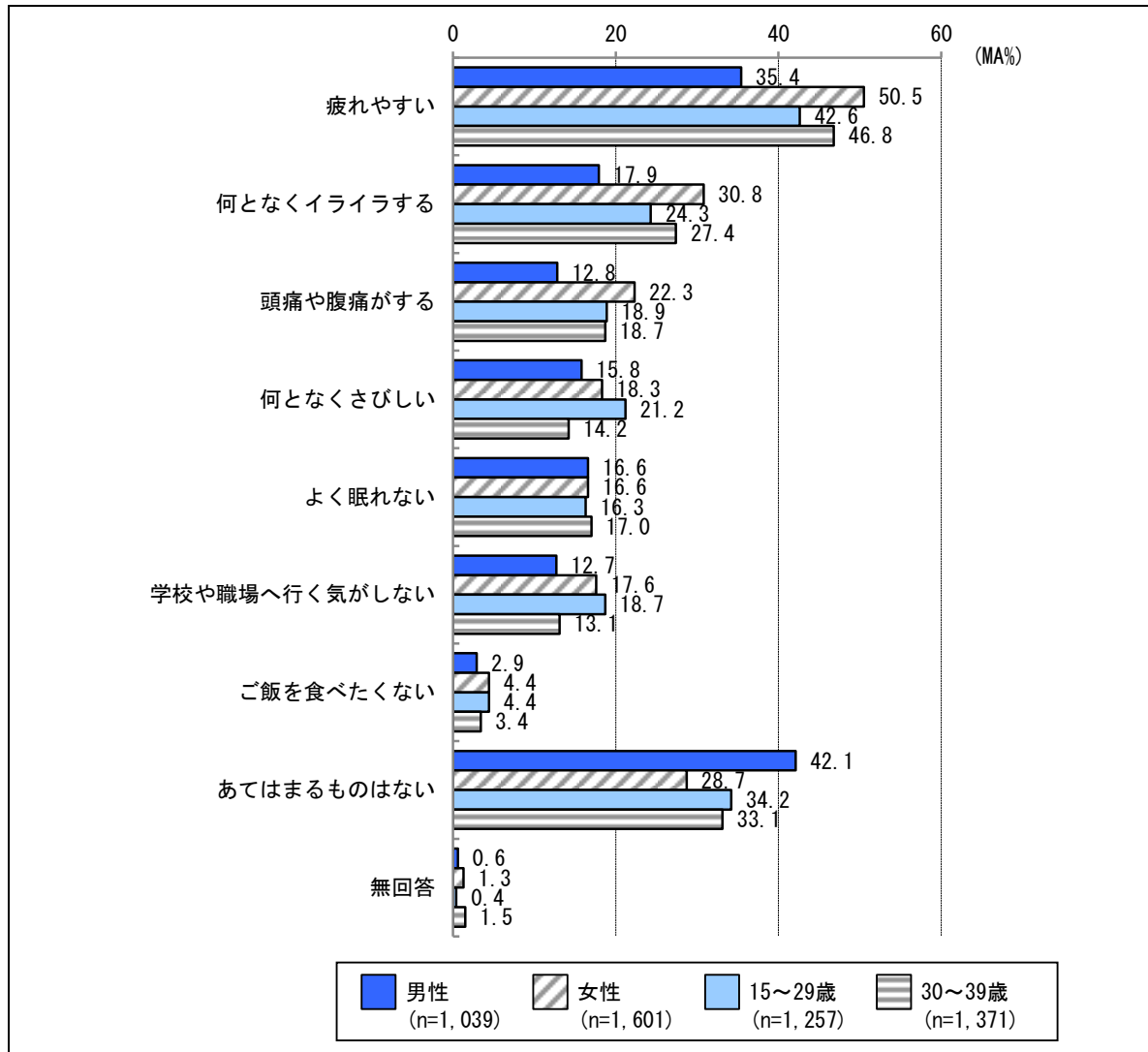
■ふだんのからだや気持ちについては、「疲れやすい」が44.7%で最も多く、次いで「何となくイライラする」が25.8%、「頭痛や腹痛がする」が18.7%、「何となくさびしい」が17.6%、「よく眠れない」が16.7%、「学校や職場へ行く気がしない」が15.7%となっている。一方、「あてはまるものはない」は33.8%となっている。

・ふだんのからだや気持ち



- 性別でみると、男性は「あてはまるものはない」が42.1%で最も多く、女性（28.7%）より13.4ポイント高くなっている。一方、女性は「疲れやすい」が50.5%で最も多く、次いで「何となくイライラする」が30.8%となっており、どちらも男性より10ポイント以上高くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「何となくさびしい」が21.2%で、30～39歳（14.2%）より7.0ポイント高く、また「学校や職場へ行く気がしない」（18.7%）も30～39歳（13.1%）より5.6ポイント高くなっている。一方、30～39歳は「疲れやすい」が4.2ポイント、「何となくイライラする」が3.1ポイント、15～29歳より高くなっている。

・性別・年齢別 ふだんのからだや気持ち

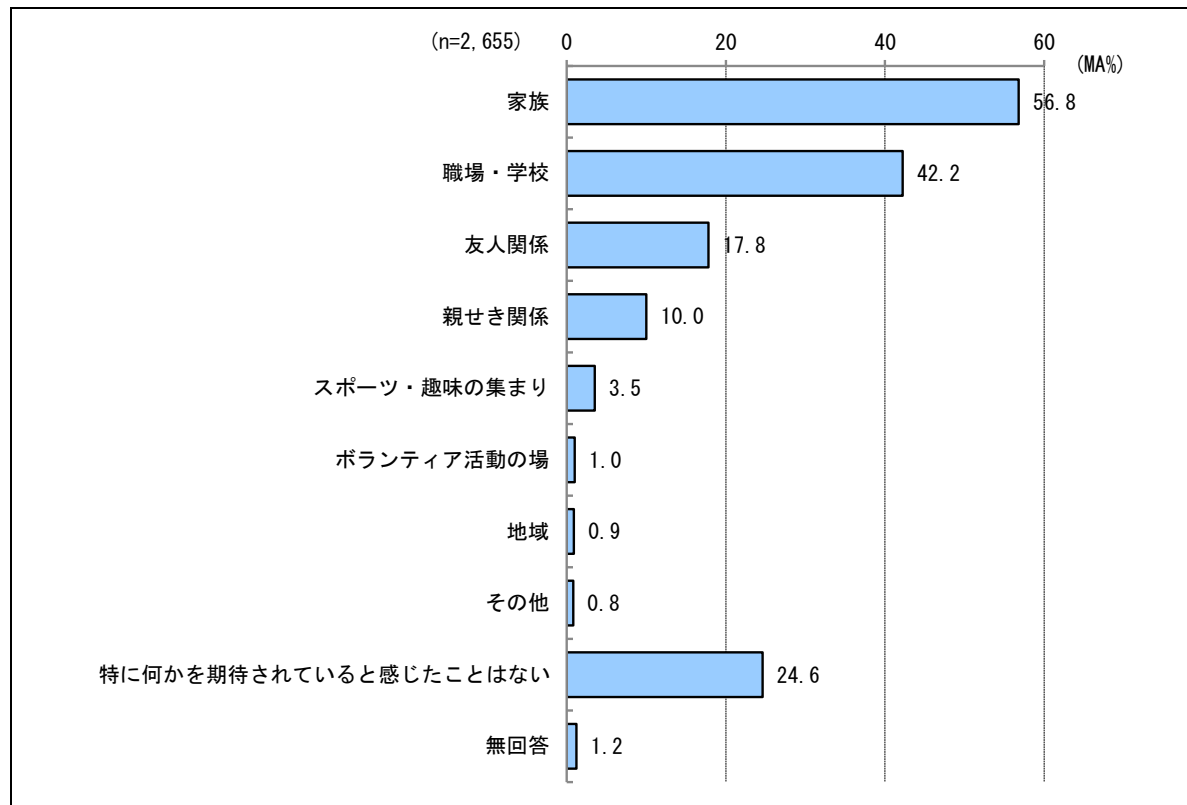


10 役割について期待されていると感じる人

問27 あなたは、周りのどんな人からあなたの役割について期待されていると感じますか。（〇はいくつでも）

■ 役割について期待されていると感じる人については、「家族」が56.8%で最も多く、次いで「職場・学校」が42.2%、「友人関係」が17.8%となっている。一方、「特に何かを期待されていると感じたことはない」は24.6%となっている。

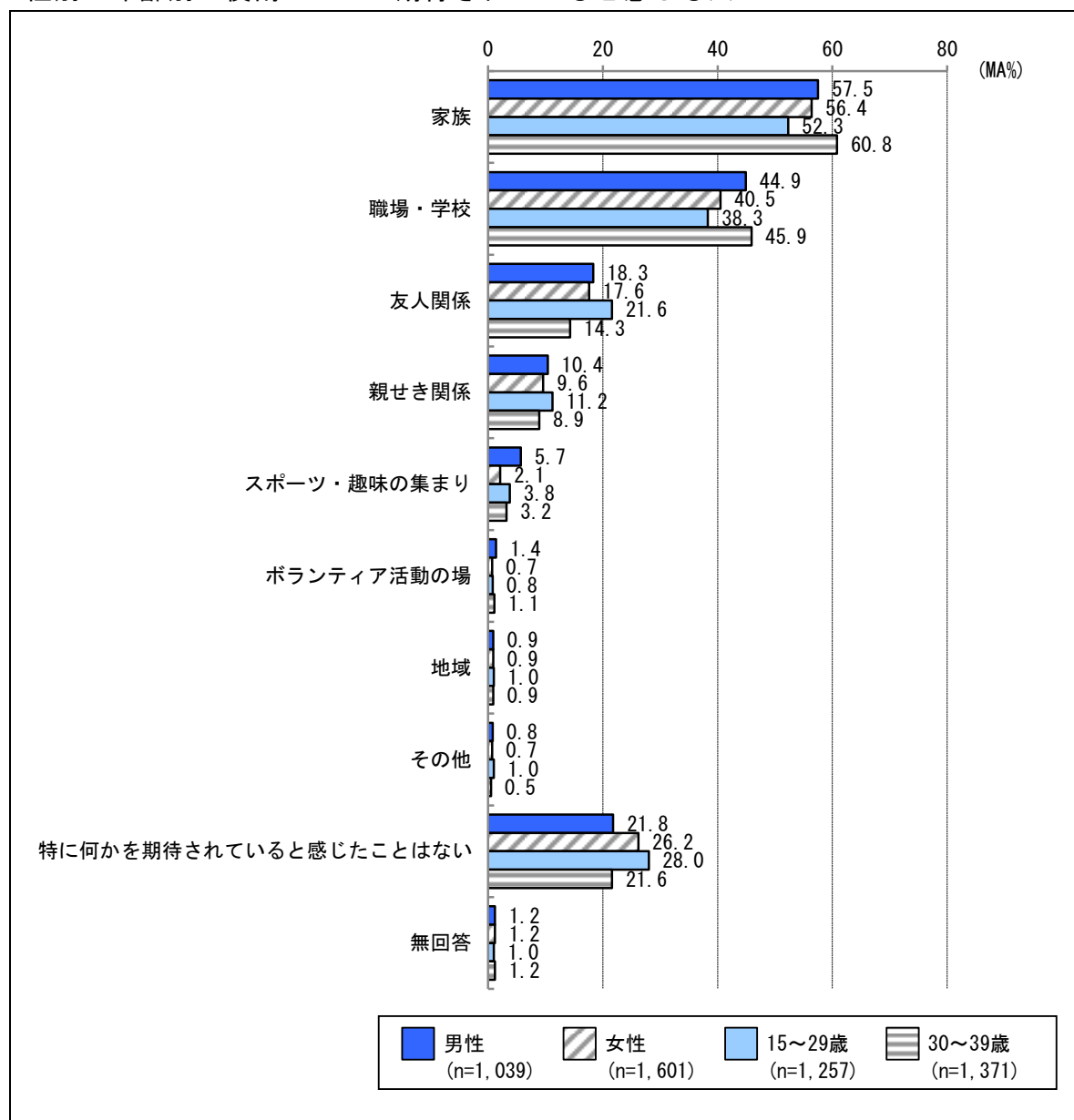
・ 役割について期待されていると感じる人



■性別でみると、男性は「職場・学校」が44.9%で、女性（40.5%）より4.4ポイント高くなっている。一方、女性は「特に何かを期待されていると感じたことはない」が26.2%で、男性（21.8%）より4.4ポイント高くなっている。

■年齢別でみると、15～29歳は「友人関係」が21.6%で、30～39歳（14.3%）より7.3ポイント高くなっている。30～39歳は「家族」が60.8%で、15～29歳（52.3%）より8.5ポイント高く、また「職場・学校」（45.9%）も15～29歳（38.3%）より7.6ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 役割について期待されていると感じる人

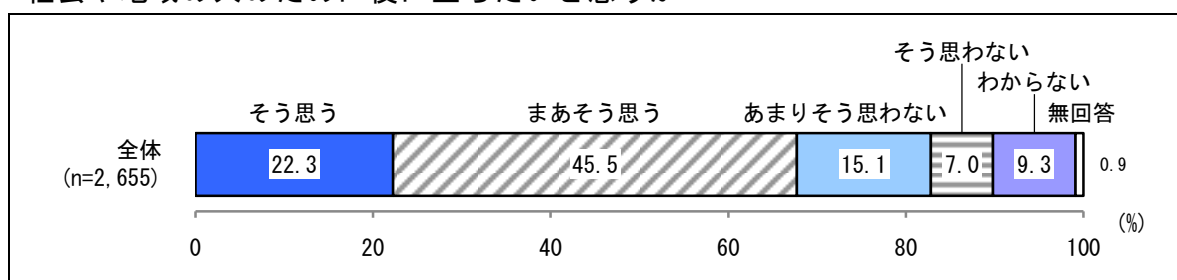


11 社会や地域の人のために役に立ちたいと思うか

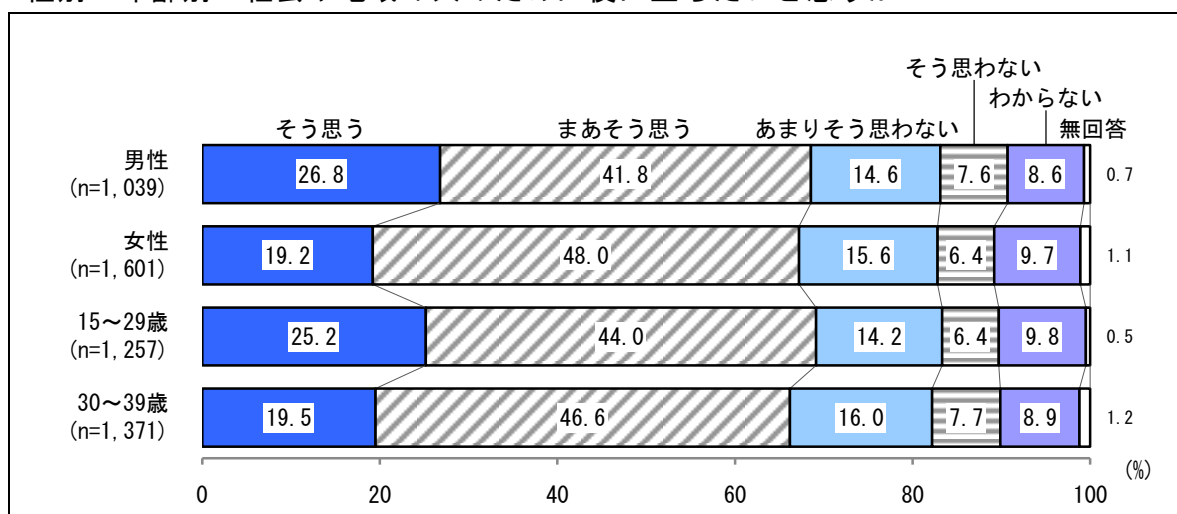
問28 あなたは社会や地域の人のために役に立ちたいと思いますか。（○は1つ）

- 社会や地域の人のために役に立ちたいと思うかについて、「まあそう思う」が45.5%で最も多く、次いで「そう思う」が22.3%となっており、両者をあわせた67.8%の人が社会や地域の人のために役に立ちたいと回答している。
- 性別でみると、社会や地域の人のために役に立ちたいと回答した人は、男女とも過半数を占めており、特に「そう思う」では、男性が26.8%、女性が19.2%で、男性のほうが7.6ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、社会や地域の人のために役に立ちたいと回答した人は、いずれの年齢も過半数を占めており、特に「そう思う」では、15～29歳が25.2%、30～39歳が19.5%で、15～29歳のほうが5.7ポイント高くなっている。

・ 社会や地域の人のために役に立ちたいと思うか



・ 性別・年齢別 社会や地域の人のために役に立ちたいと思うか



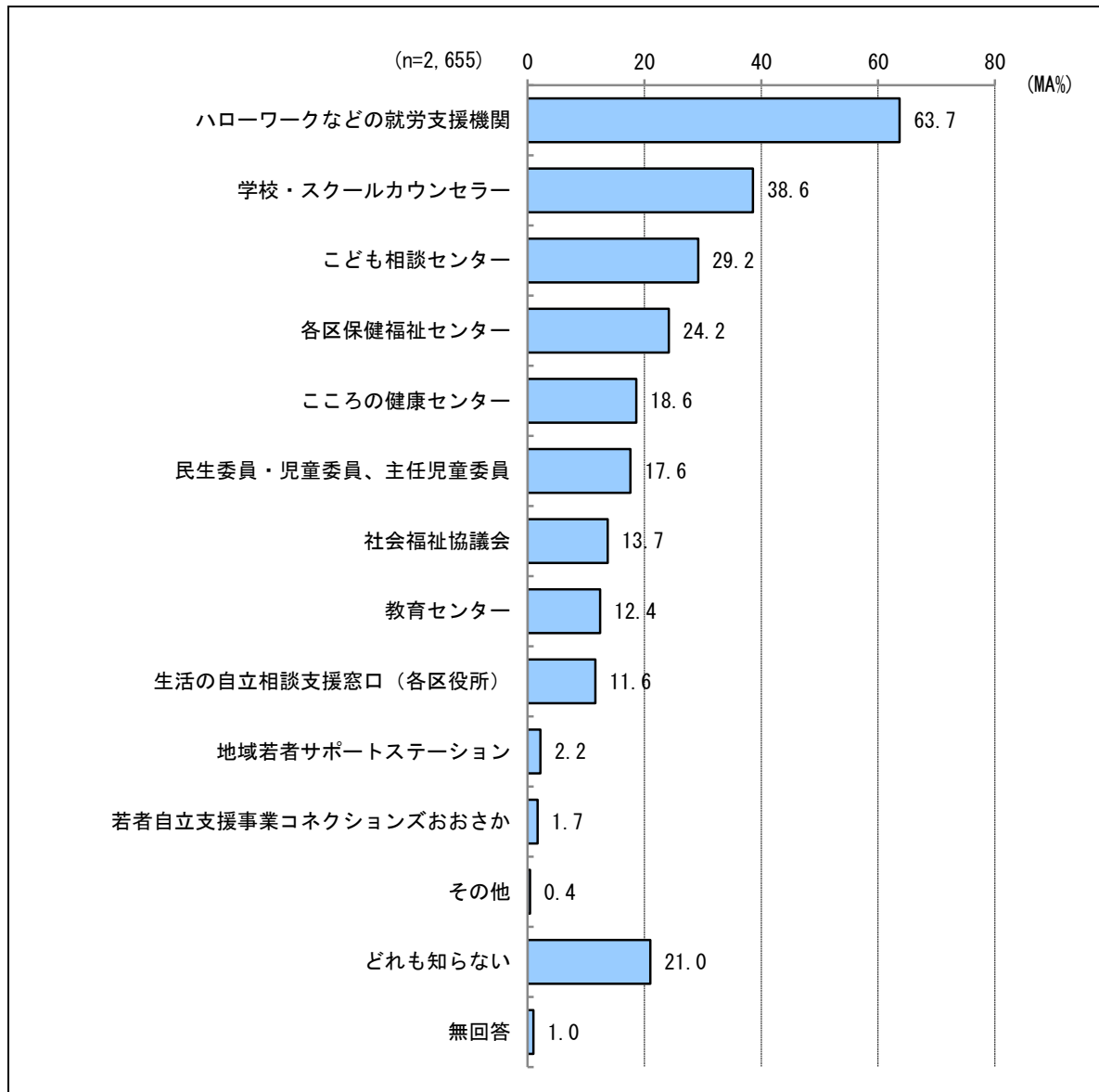
VII. 相談窓口（機関や事業）について

1 こども・若者を対象とした相談窓口（機関や事業）の認知度

問29 あなたはこども・若者を対象とした次の相談窓口（機関や事業）を知っていますか。知っている相談窓口（機関や事業）に○をつけてください。
（○はいくつでも）

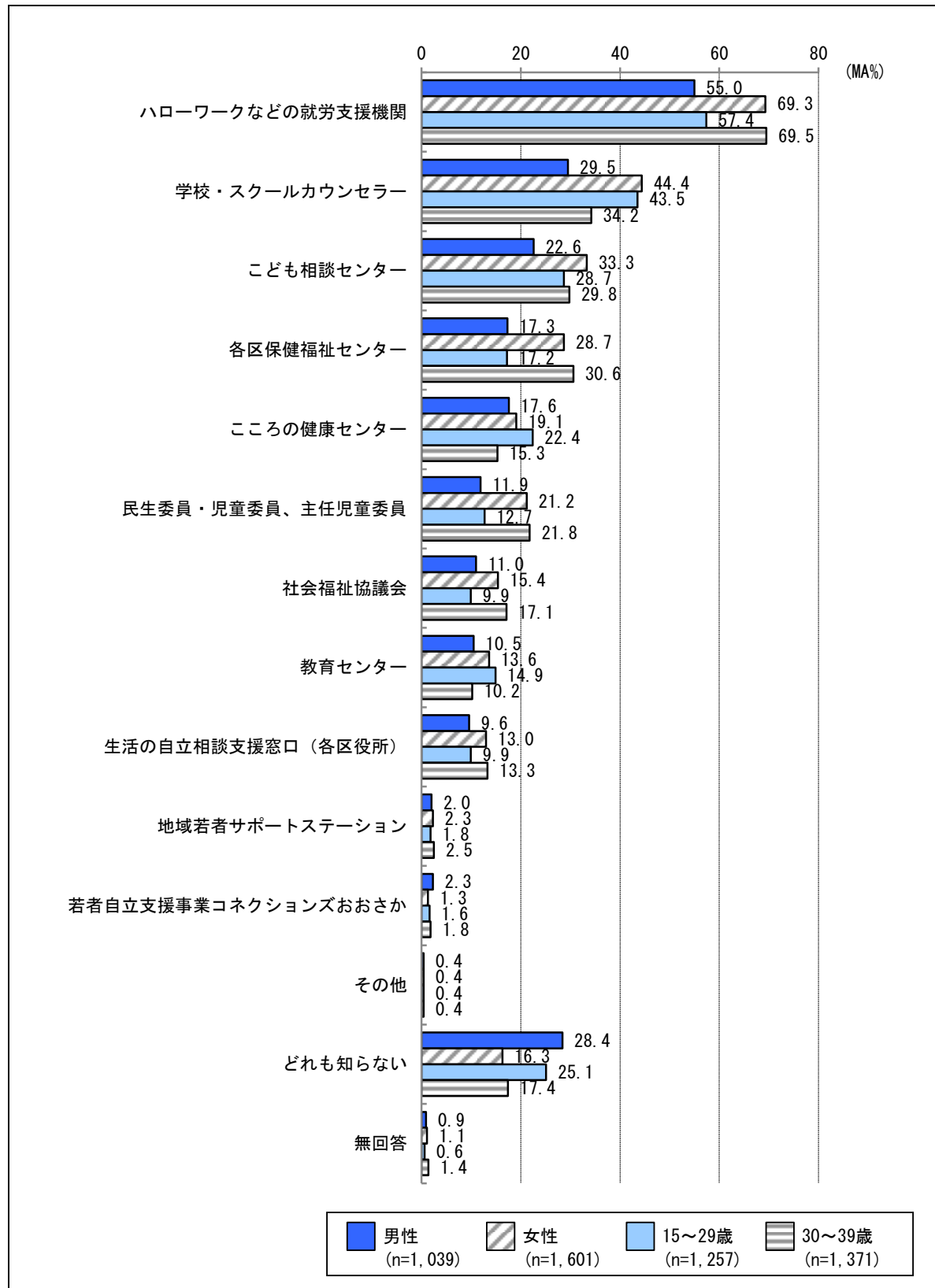
■ こども・若者を対象とした相談窓口（機関や事業）で知っているものは、「ハローワークなどの就労支援機関」が63.7%で最も多く、次いで「学校・スクールカウンセラー」が38.6%、「こども相談センター」が29.2%、「各区保健福祉センター」が24.2%となっている。一方、「どれも知らない」は21.0%となっている。

・ こども・若者を対象とした相談窓口（機関や事業）の認知度



- 性別でみると、相談窓口の認知度は、男性より女性のほうが高い傾向がみられ、男性は「どれも知らない」が28.4%となっており、女性（16.3%）より12.1ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「どれも知らない」が25.1%で、30～39歳（17.4%）より7.7ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 こども・若者を対象とした相談窓口（機関や事業）の認知度



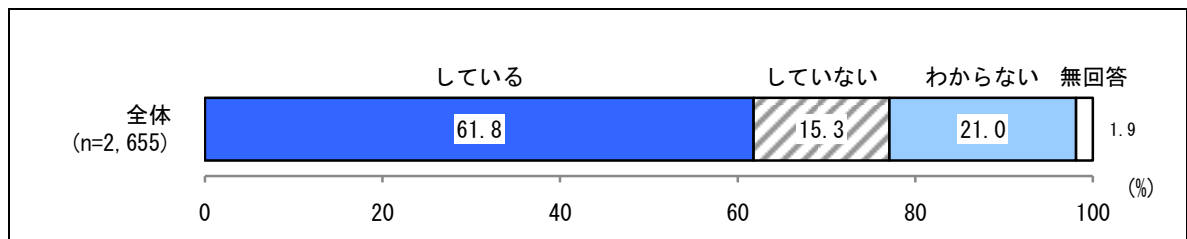
Ⅷ. 生き方や人生観について

1 「大人になった」と自覚しているか

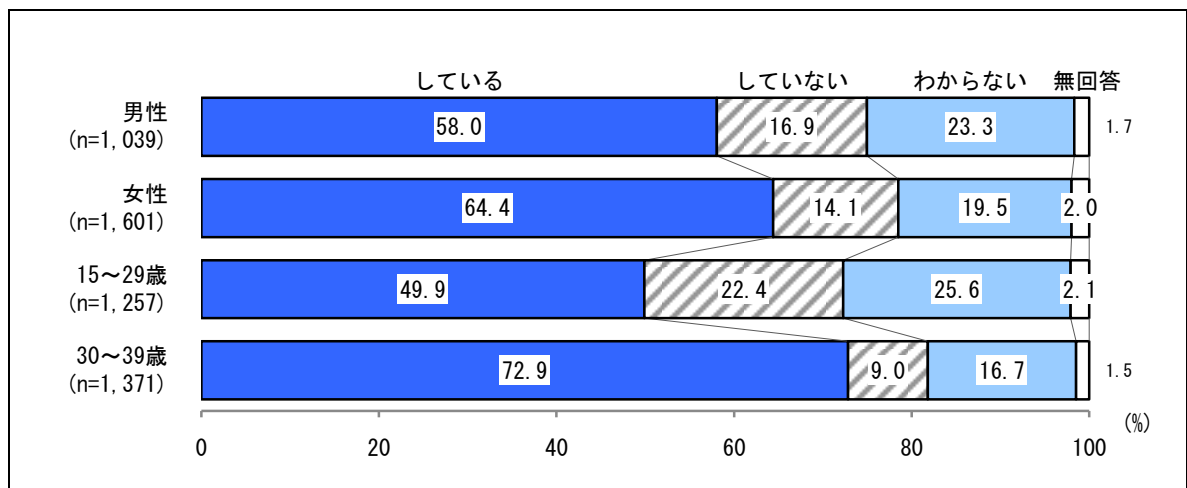
問30 あなた自身は「大人になった」と自覚していますか。（○は1つ）

- 「大人になった」と自覚しているかについて、「している」が61.8%で最も多く、次いで「わからない」が21.0%、「していない」が15.3%となっている。
- 性別でみると、「している」は男性（58.0%）より女性（64.4%）のほうが6.4ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「している」は15～29歳（49.9%）より30～39歳（72.9%）のほうが23.0ポイント高くなっている。

・「大人になった」と自覚しているか



・性別・年齢別 「大人になった」と自覚しているか



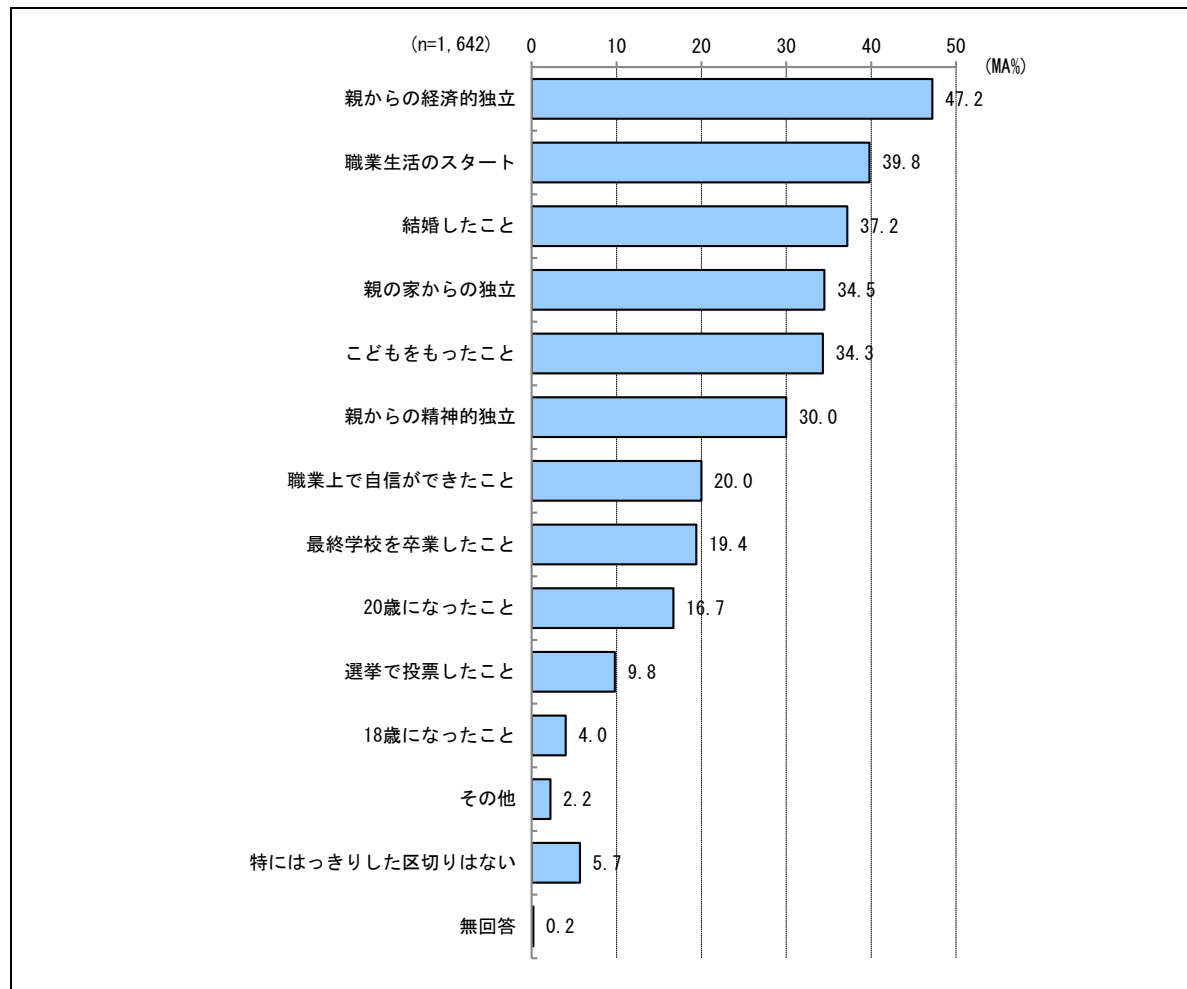
2 「大人になった」と自覚したきっかけ

問30で「している」を選んだ方におうかがいします。

問30-1 そのきっかけは何ですか。（〇はいくつでも）

- 「大人になったと自覚している」と回答した人に、自覚したきっかけをたずねると、「親からの経済的独立」が47.2%で最も多く、次いで「職業生活のスタート」が39.8%、「結婚したこと」が37.2%となっている。

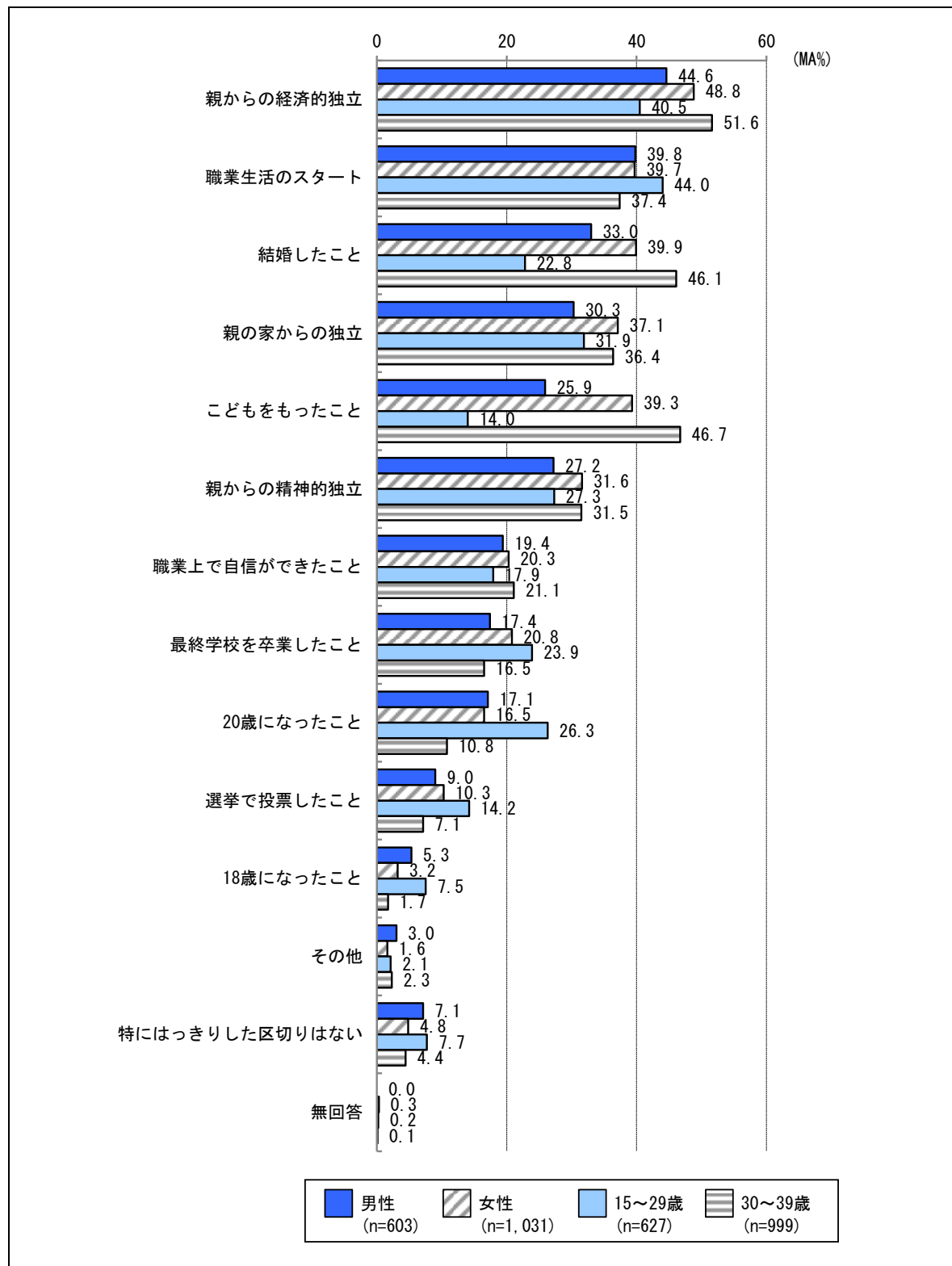
・「大人になった」と自覚したきっかけ



■性別でみると、男女とも「親からの経済的独立」が最も多く、男性（44.6%）より女性（48.8%）のほうが4.2ポイント高くなっている。また、「子どもをもったこと」は男性（25.9%）より女性（39.3%）のほうが13.4ポイント高く、差が最も大きくなっている。

■年齢別でみると、30～39歳は「親からの経済的独立」（51.6%）が最も多いが、15～29歳は「職業生活のスタート」（44.0%）が最も多くなっている。

・性別・年齢別 「大人になった」と自覚したきっかけ



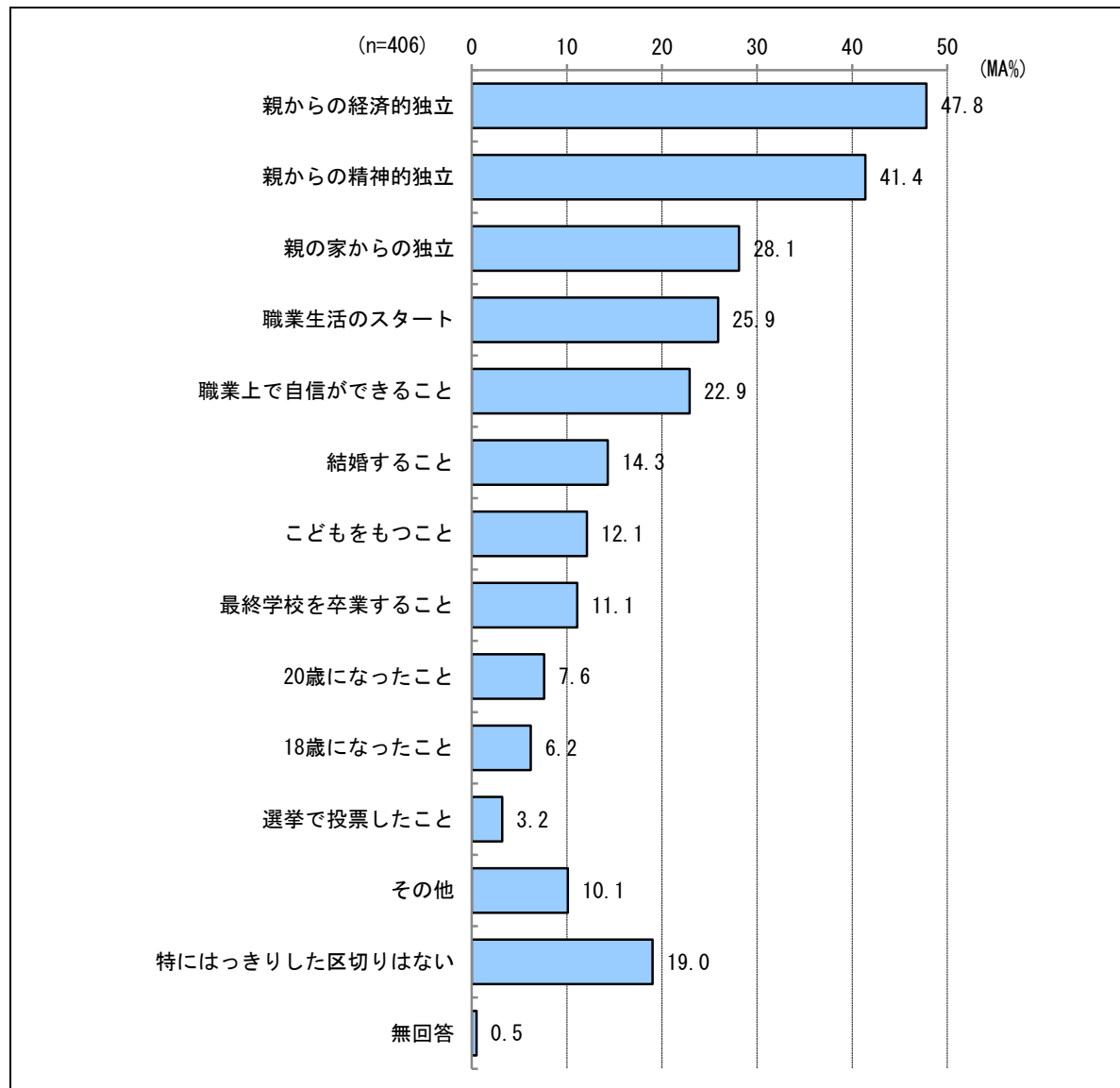
3 「大人になる」とはどのようなことか

問30で「していない」を選んだ方におうかがいします。

問30-2 あなたにとって「大人になる」とはどのようなことだと思いますか。
(〇はいくつでも)

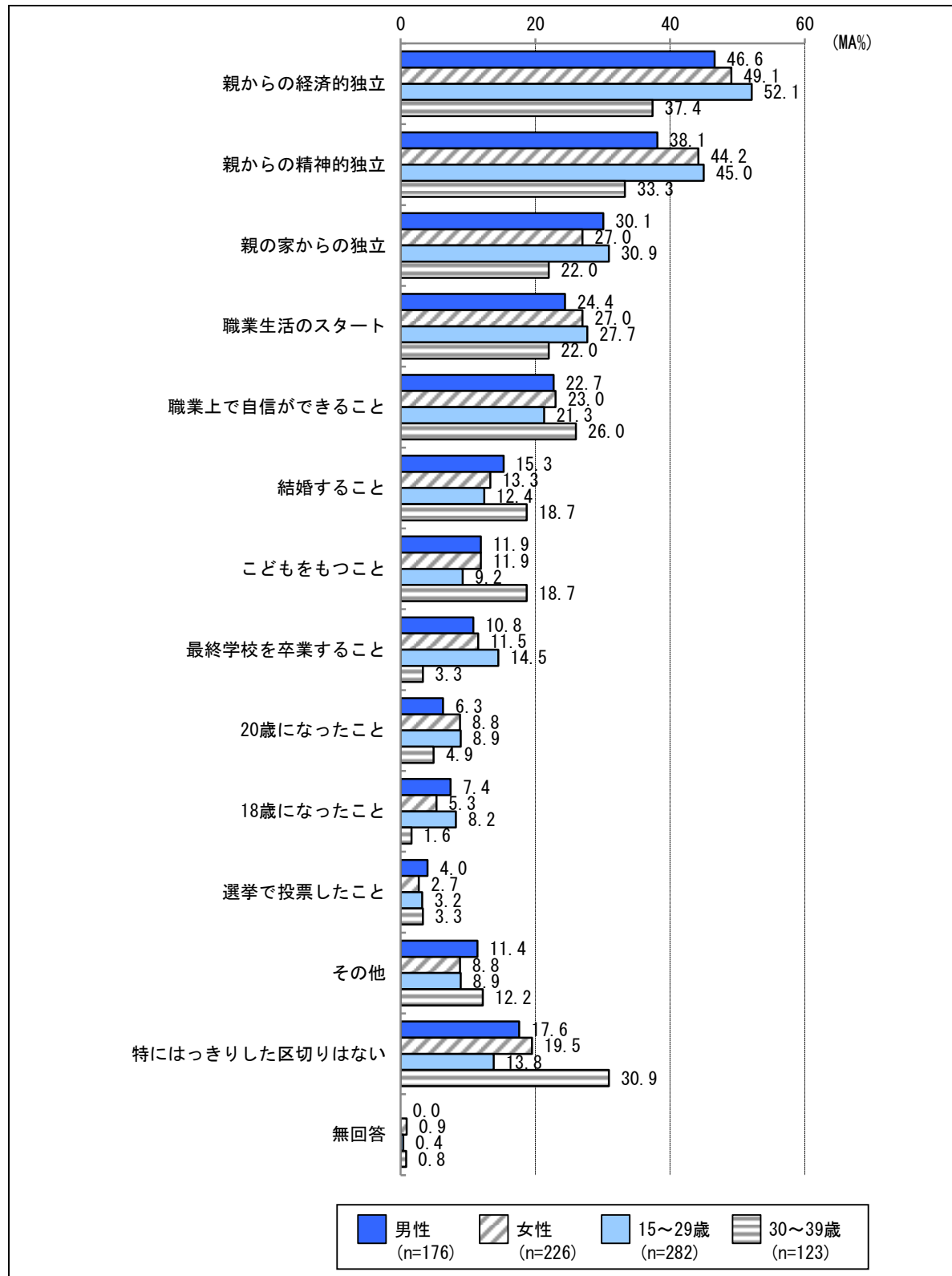
- 「大人になったと自覚していない」と回答した人に、「大人になる」とはどのようなことだと思うかをたずねると、「親からの経済的独立」が47.8%で最も多く、次いで「親からの精神的独立」が41.4%、「親の家からの独立」が28.1%、「職業生活のスタート」が25.9%、「職業上で自信ができること」が22.9%となっている。

・「大人になる」とはどのようなことか



- 性別でみると、男女とも「親からの経済的独立」が最も多く、男性が46.6%、女性が49.1%と、女性のほうがやや高くなっている。
- 年齢別でみると、いずれも「親からの経済的独立」が最も多く、次いで「親からの精神的独立」となっているが、両者とも30～39歳より15～29歳のほうが割合が10ポイント以上高くなっている。

・性別・年齢別 「大人になる」とはどのようなことか

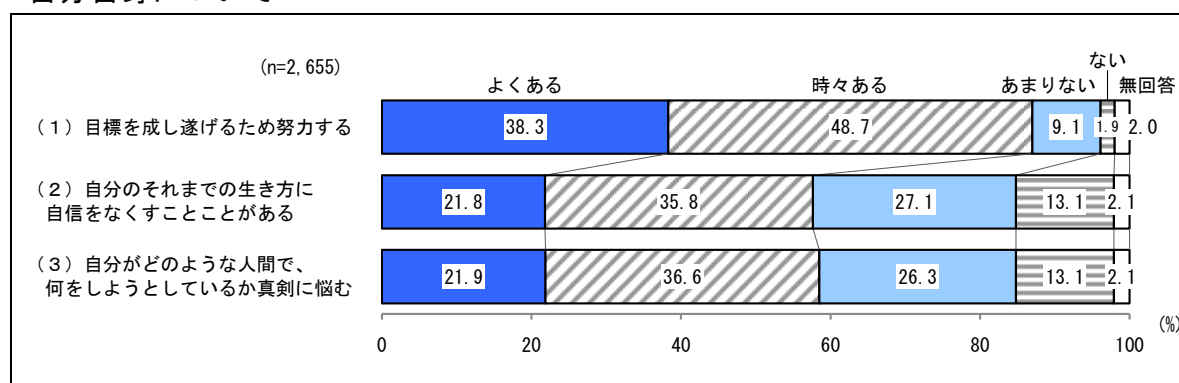


4 自分自身について

問31 あなたは次のようなことについてどう思いますか。（１）から（３）のそれぞれについてあなたの気持ちに近い番号に○をつけてください。
（それぞれ○は１つ）

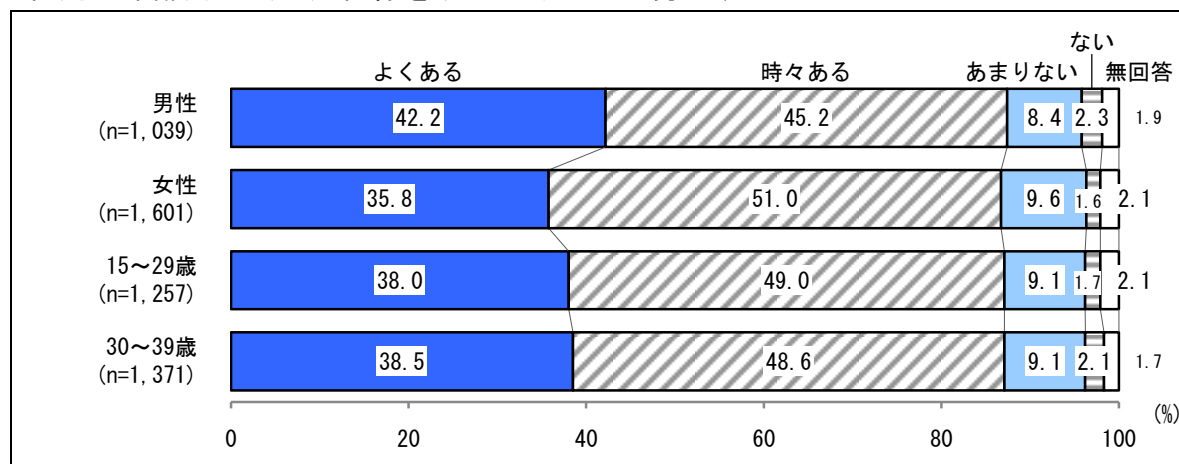
- （１）目標を成し遂げるため努力するかについて、「時々ある」が48.7%で最も多く、次いで「よくある」が38.3%となっており、両者をあわせた87.0%の人は努力すると回答している。
- （２）自分のそれまでの生き方に自信をなくすことがあるかについて、「時々ある」が35.8%で最も多く、次いで「あまりない」が27.1%、「よくある」が21.8%となっている。「よくある」と「時々ある」をあわせた57.6%の人は自信をなくすことがあると回答している。
- （３）自分がどのような人間で、何をしようとしているか真剣に悩むことがあるかについて、「時々ある」が36.6%で最も多く、次いで「あまりない」が26.3%、「よくある」が21.9%となっている。「よくある」と「時々ある」をあわせた58.5%の人は真剣に悩むことがあると回答している。

・自分自身について



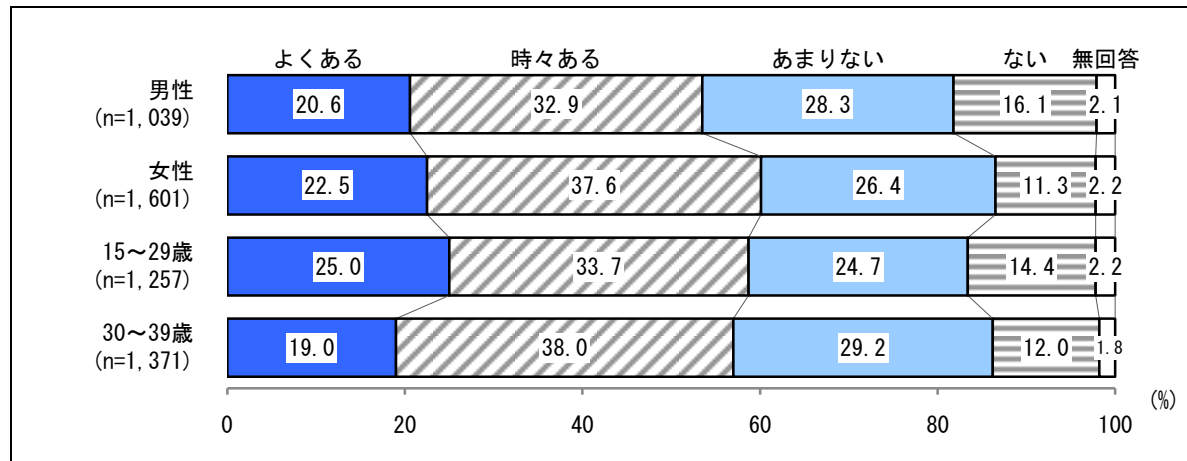
- （１）目標を成し遂げるため努力するかについて、性別でみると、「よくある」は女性（35.8%）より男性（42.2%）のほうが6.4ポイント高くなっている。
- 年齢別でも、大きな差はみられない。

・性別・年齢別 （１）目標を成し遂げるため努力する



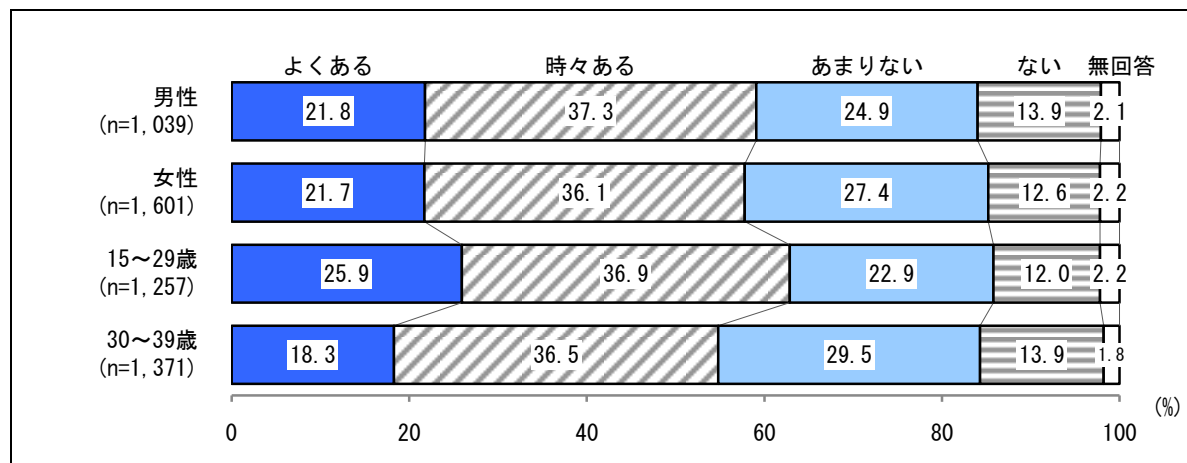
- （２）自分のそれまでの生き方に自信をなくすことがあるかについて、性別でみると、「ない」は女性（11.3%）より男性（16.1%）のほうが4.8ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「よくある」は30～39歳（19.0%）より15～29歳（25.0%）のほうが6.0ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 （２）自分のそれまでの生き方に自信をなくすことがある



- （３）自分がどのような人間で、何をどうしようとしているか真剣に悩むかについて、性別でみても、大きな差はみられない。
- 年齢別でみると、「よくある」は30～39歳（18.3%）より15～29歳（25.9%）のほうが7.6ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 （３）自分がどのような人間で、何をどうしようとしているか真剣に悩む

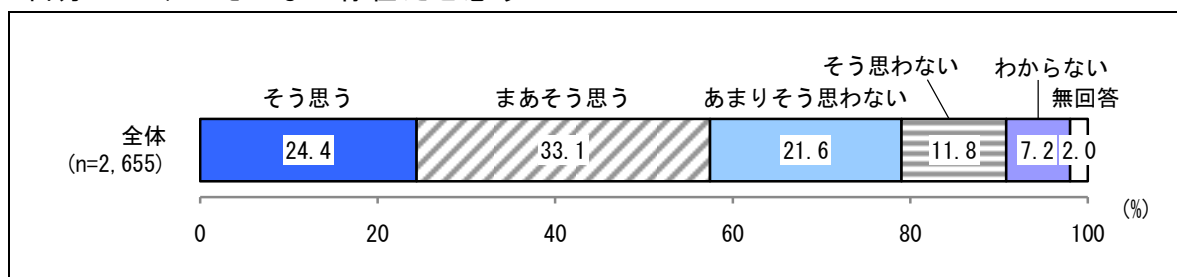


5 自分がかげがえのない存在だと思うか

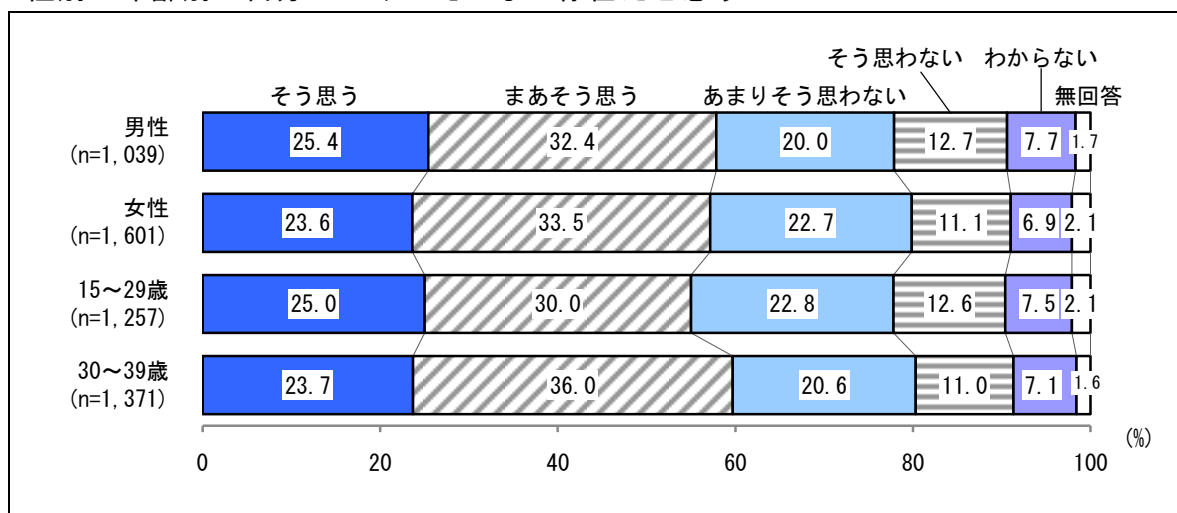
問32 あなたは自分がかげがえのない存在だと思いますか。（○は1つ）

- 自分がかげがえのない存在だと思うかについて、「まあそう思う」が33.1%で最も多く、次いで「そう思う」が24.4%となっており、両者をあわせた57.5%の人は自分がかげがえのない存在であると回答している。
- 性別でも、大きな差はみられない。
- 年齢別でみると、「そう思う」と「まあそう思う」をあわせた割合は15～29歳（55.0%）より30～39歳（59.7%）のほうが4.7ポイント高くなっている。

・ 自分がかげがえのない存在だと思うか



・ 性別・年齢別 自分がかげがえのない存在だと思うか

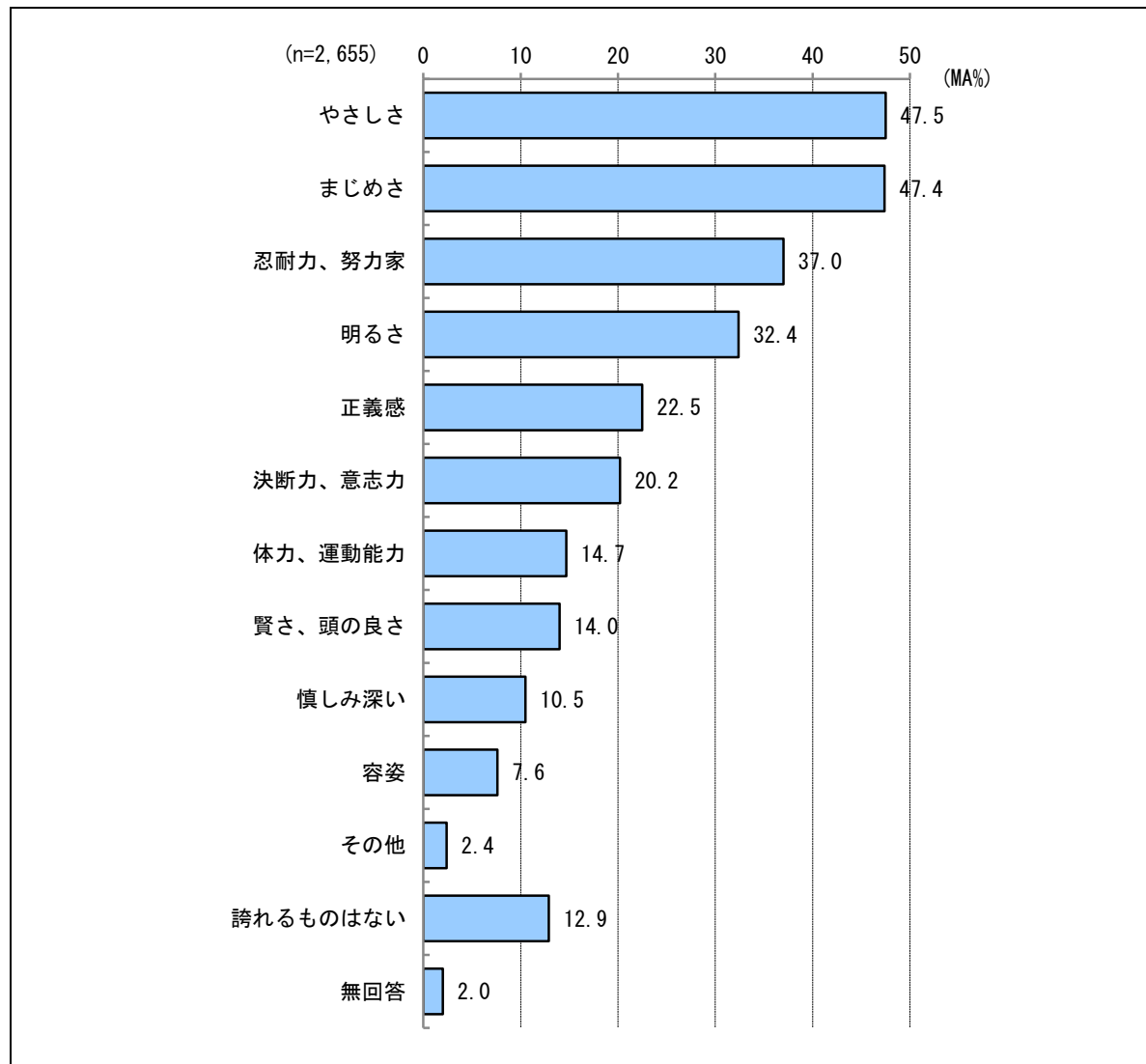


6 自分自身に誇れるもの

問33 あなた自身のことについておうかがいします。あなたは自分自身について誇れるものをもっていますか。（○はいくつでも）

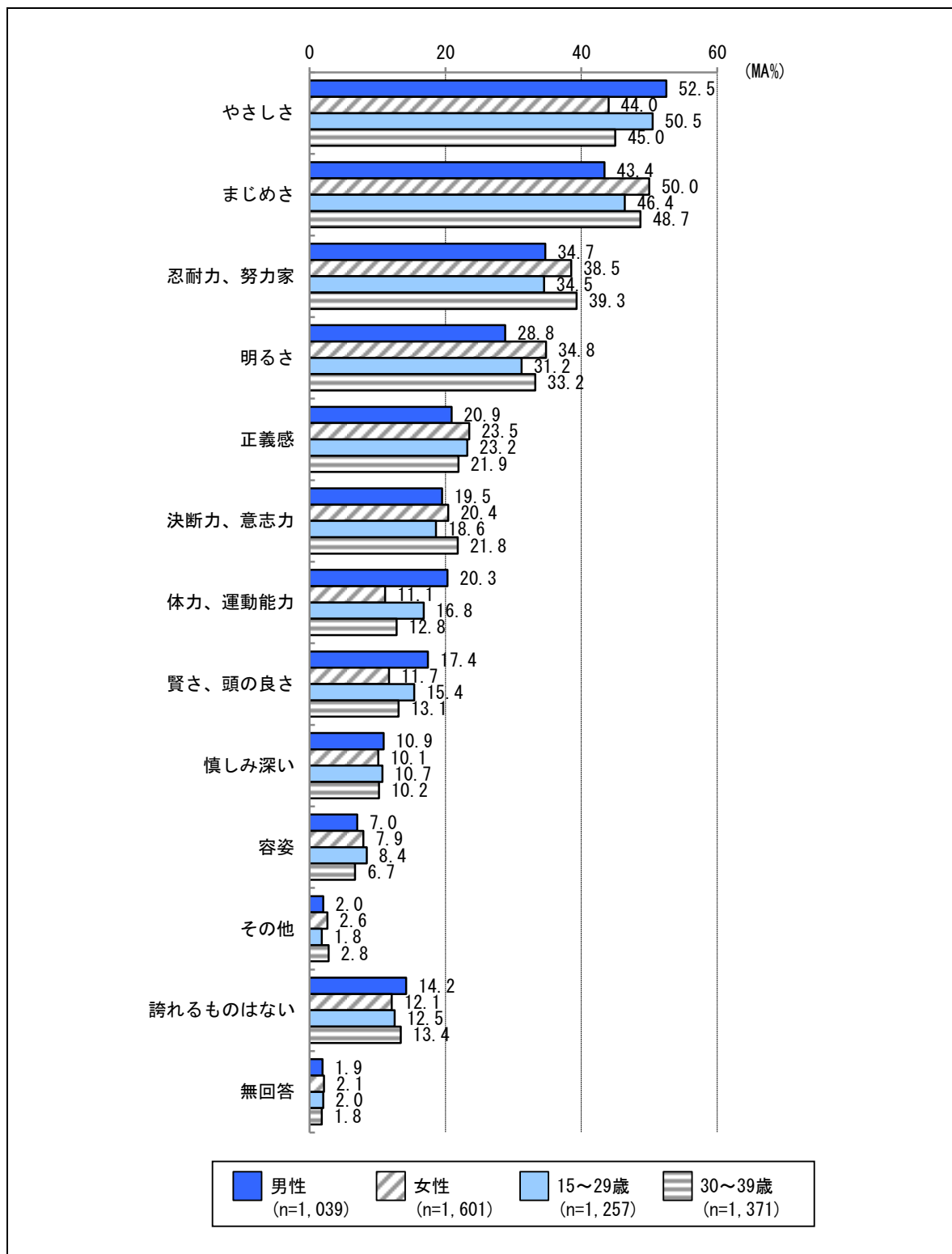
■ 自分自身に誇れるものについては、「やさしさ」が47.5%で最も多く、次いで「まじめさ」が47.4%、「忍耐力、努力家」が37.0%、「明るさ」が32.4%となっている。

・ 自分自身に誇れるもの



- 性別でみると、男性は「やさしさ」が52.5%で最も多いが、女性は「まじめさ」が50.0%で最も多くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「やさしさ」が50.5%で最も多いが、30～39歳は「まじめさ」が48.7%で最も多くなっている。

・性別・年齢別 自分自身に誇れるもの

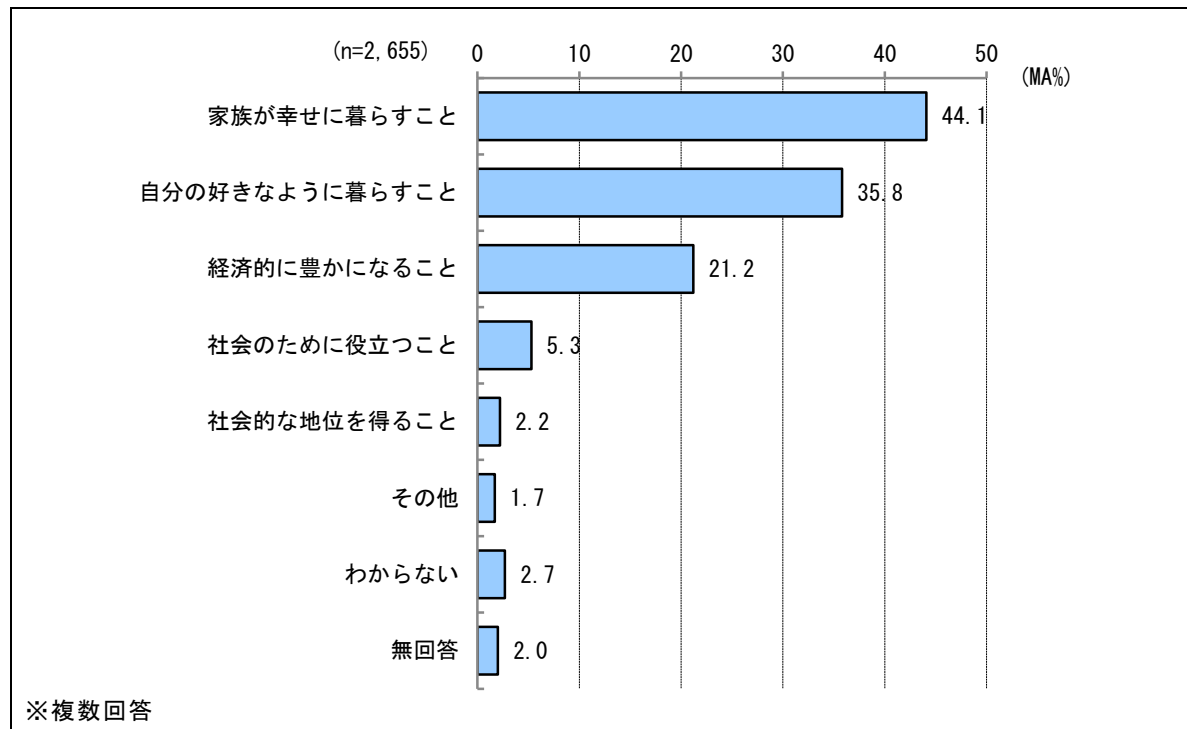


7 理想とする生き方について

問34 あなたの理想とする生き方についてお答えください。
(あなたのお考えにもっとも近い番号1つに○)

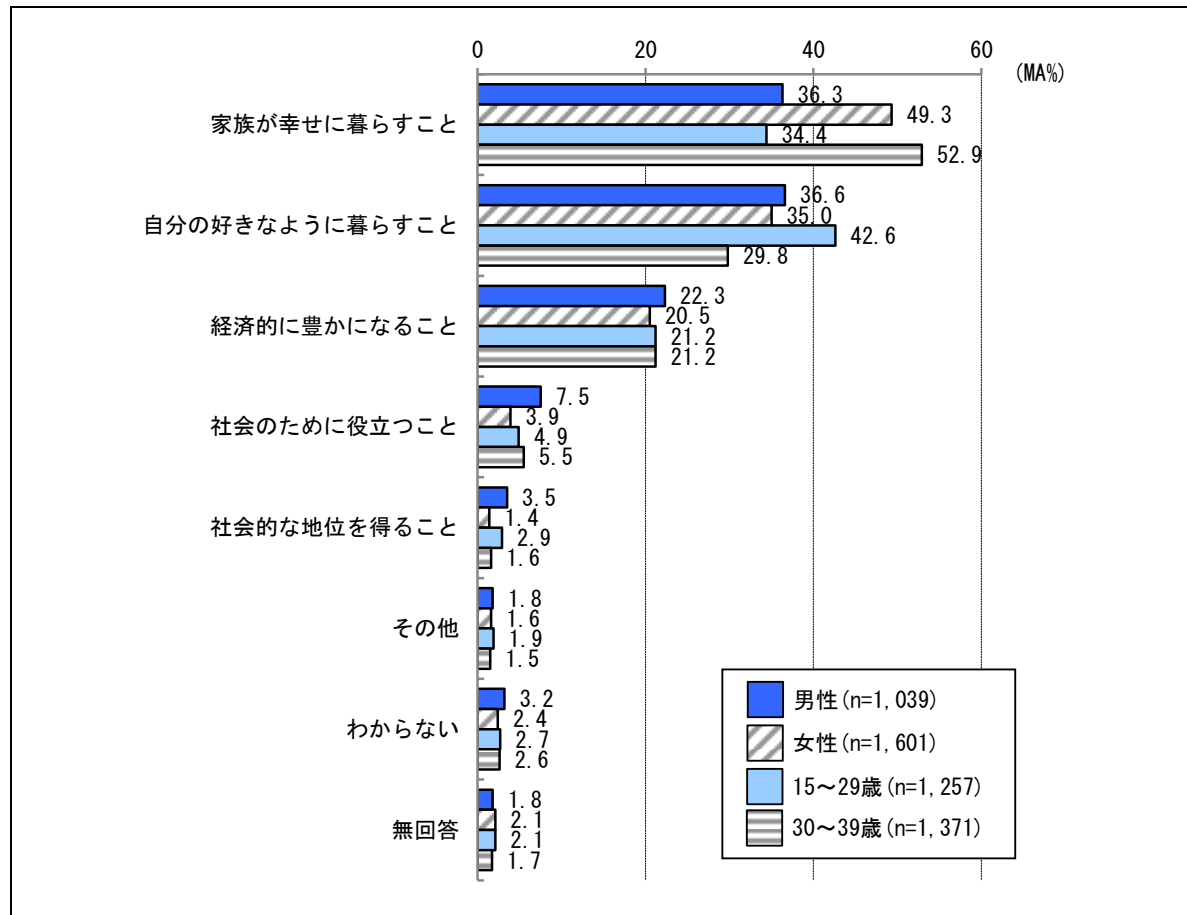
■理想とする生き方については、「家族が幸せに暮らすこと」が44.1%で最も多く、次いで「自分の好きなように暮らすこと」が35.8%、「経済的に豊かになること」が21.2%となっている。

・理想とする生き方について



- 性別でみると、男性は「自分の好きなように暮らすこと」が36.6%で最も多い。女性は「家族が幸せに暮らすこと」が49.3%で最も多く、男性（36.3%）より13.0ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「自分の好きなように暮らすこと」が42.6%で最も多い。30～39歳は「家族が幸せに暮らすこと」が52.9%で最も多く、15～29歳（34.4%）より18.5ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 理想とする生き方について

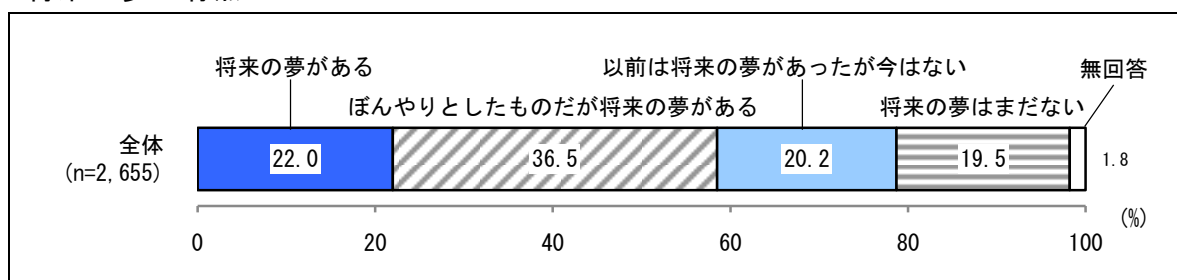


8 将来の夢の有無

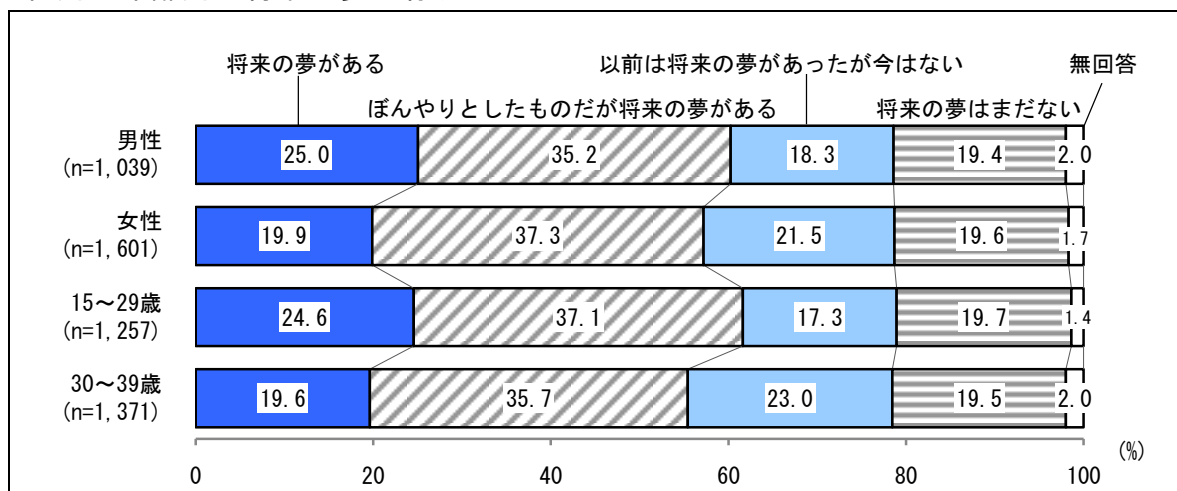
問35 あなたの「将来の夢」についておうかがいします。あなたは、将来こんなことがしたい、こんな人になりたい、こうなりたいという将来の夢をお持ちですか。
(○は1つ)

- 将来の夢の有無については、「ぼんやりとしたものだが将来の夢がある」が36.5%で最も多く、次いで「将来の夢がある」が22.0%となっており、両者をあわせた58.5%の人は将来の夢があると回答している。
- 性別でみると、「将来の夢がある」は女性（19.9%）より男性（25.0%）のほうが5.1ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「以前は将来の夢があったが今はない」は15～29歳（17.3%）より30～39歳（23.0%）のほうが5.7ポイント高くなっている。

・ 将来の夢の有無



・ 性別・年齢別 将来の夢の有無



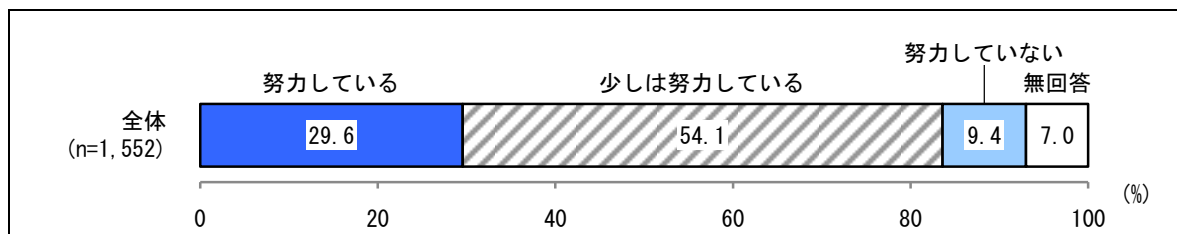
9 将来の夢を実現するための努力

問35で『将来の夢がある』を選んだ方におうかがいします。

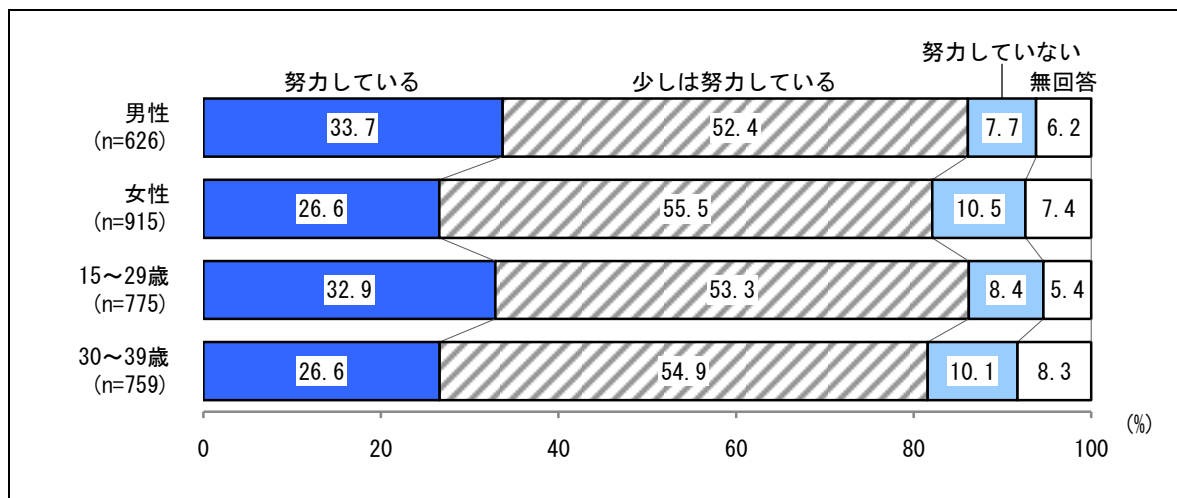
問35-1 あなたは、その将来の夢を実現するために、何か具体的な努力を行っていますか。（○は1つ）

- 「将来の夢がある」と回答した人に、将来の夢を実現するために努力を行っているかをたずねると、「少しは努力している」が54.1%で最も多く、次いで「努力している」が29.6%となっており、両者をあわせた83.7%の人は将来の夢のために努力をしていると回答している。
- 性別でみると、「努力している」は女性（26.6%）より男性（33.7%）のほうが7.1ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「努力している」は30～39歳（26.6%）より15～29歳（32.9%）のほうが6.3ポイント高くなっている。

・ 将来の夢を実現するための努力



・ 性別・年齢別 将来の夢を実現するための努力



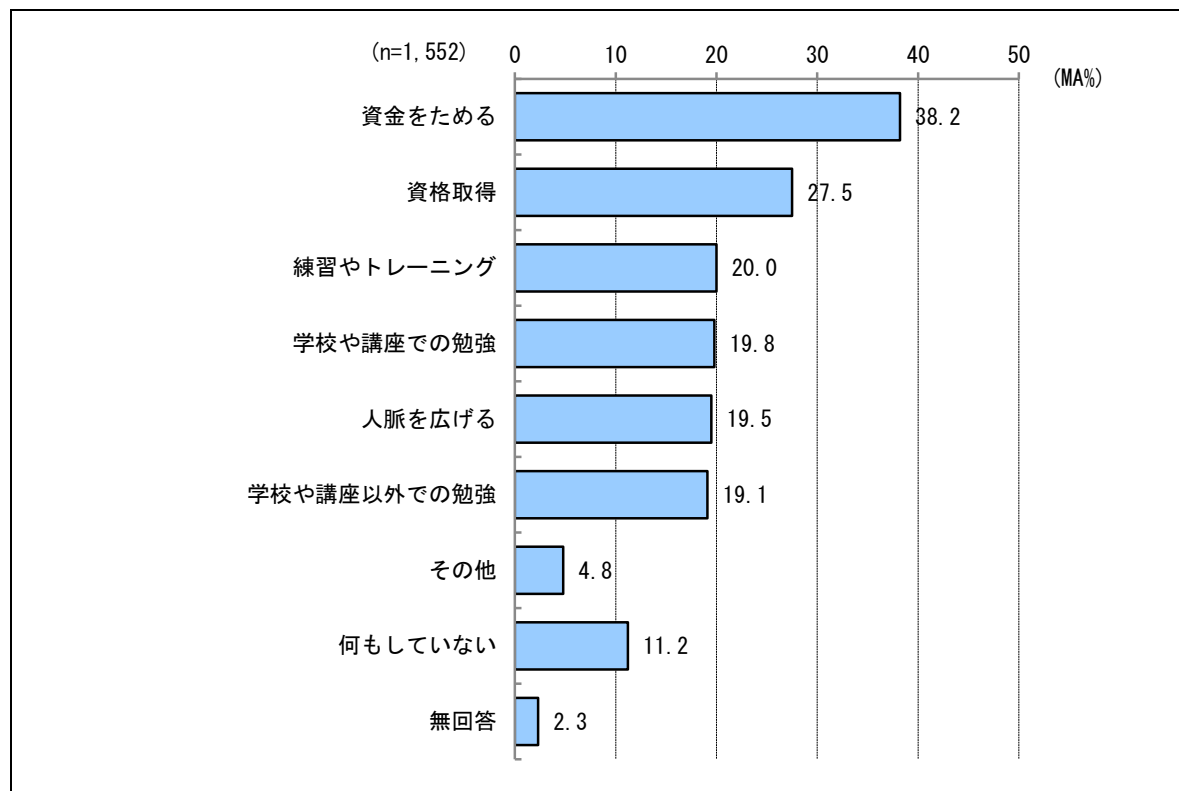
10 将来の夢のために現在準備していること

問35で『将来の夢がある』を選んだ方におうかがいします。

問35-2 将来の夢のために、あなたが現在準備として行っているものをお答えください。（〇はいくつでも）

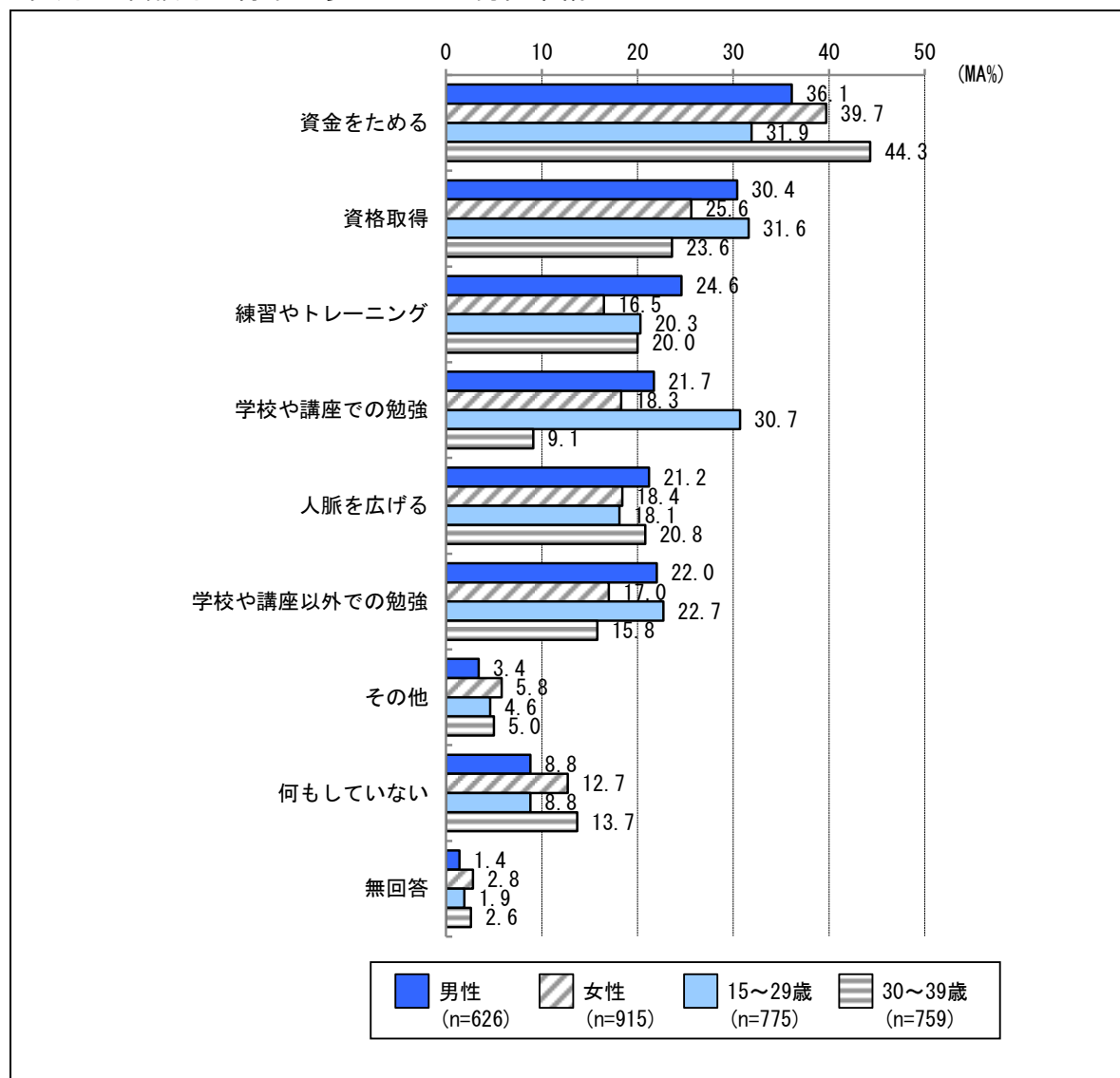
- 「将来の夢がある」と回答した人に、そのために現在準備として行っているものをたずねると、「資金をためる」が38.2%で最も多く、次いで「資格取得」が27.5%となっている。

・ 将来の夢のために現在準備していること



- 性別でみると、「練習やトレーニング」は女性（16.5%）より男性（24.6%）のほうが8.1ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「学校や講座での勉強」は30～39歳（9.1%）より15～29歳（30.7%）のほうが21.6ポイント高いが、「資金をためる」は15～29歳（31.9%）より30～39歳（44.3%）のほうが12.4ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 将来の夢のために現在準備していること

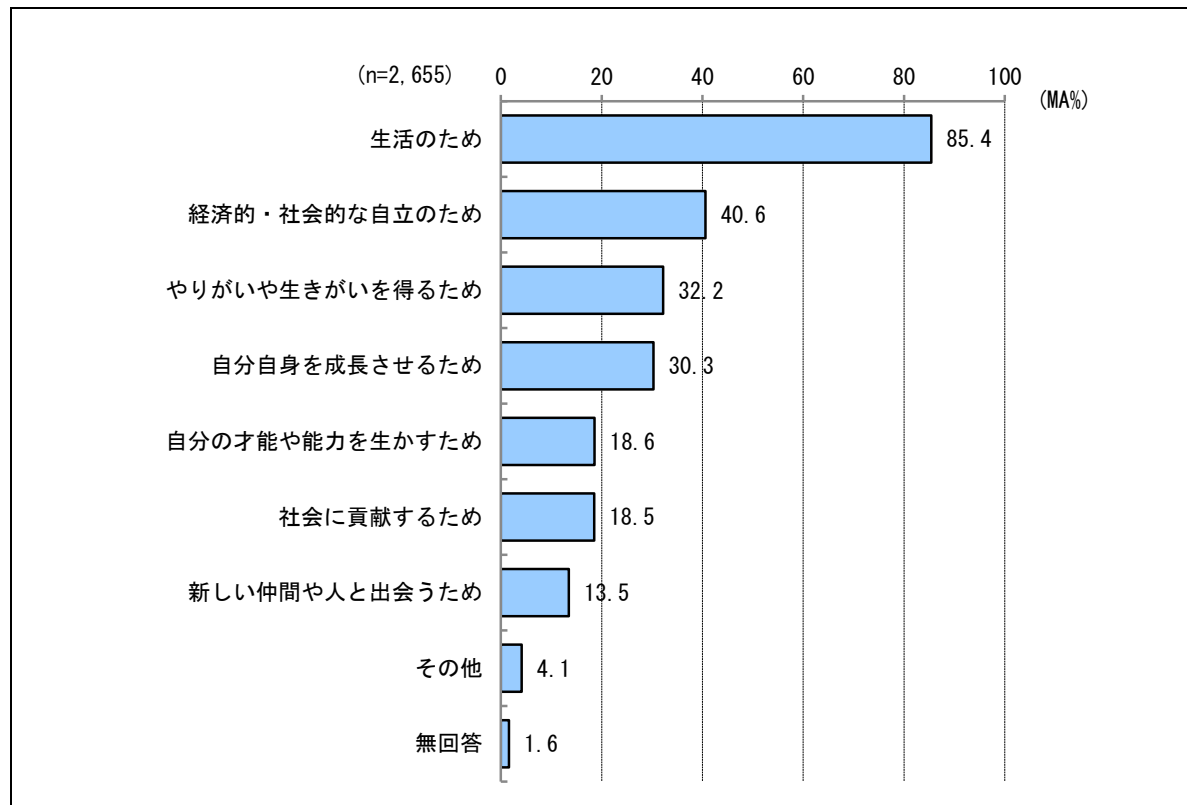


11 働く目的

問36 あなたが働く目的は何ですか。（〇はいくつでも）

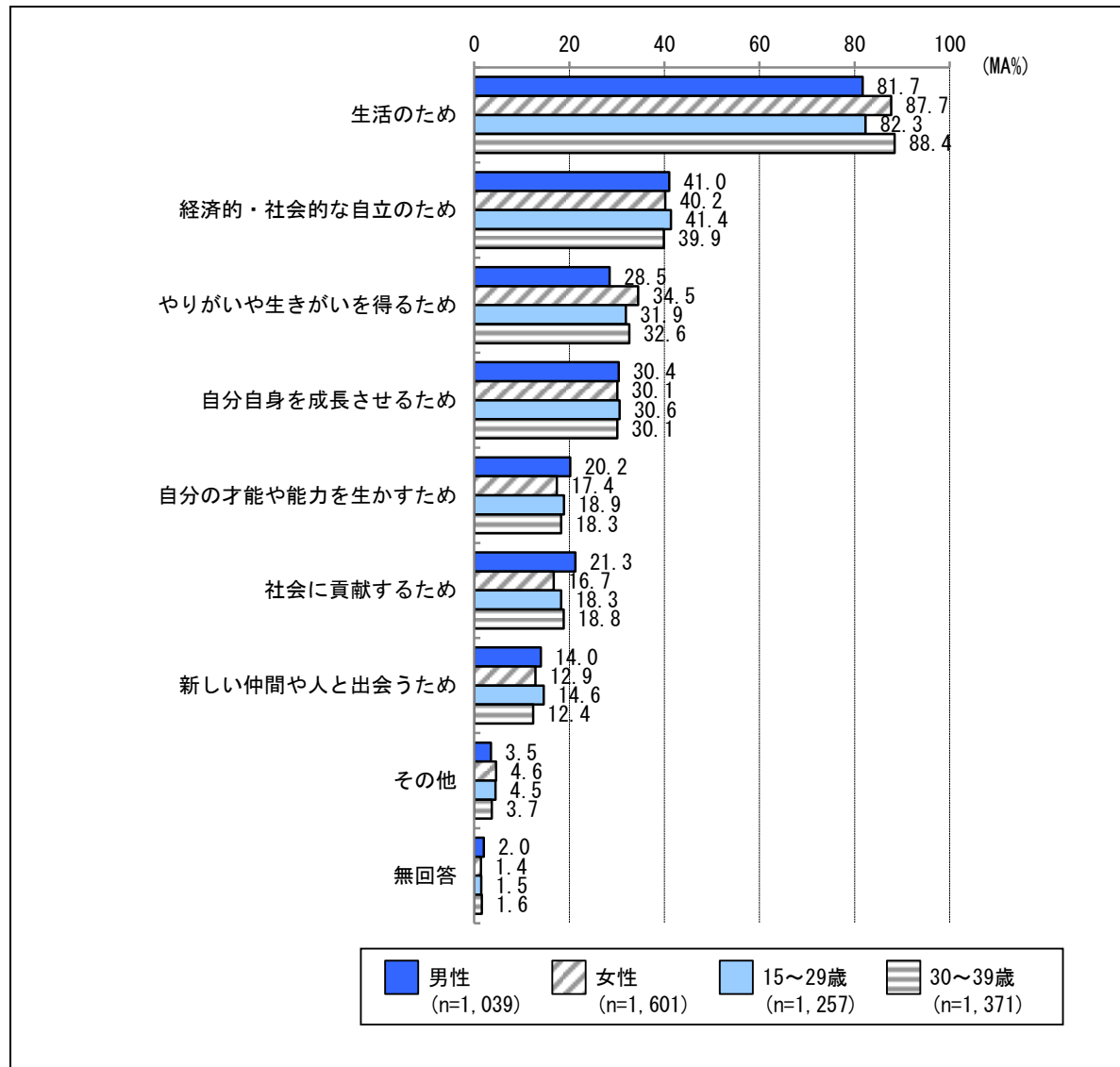
■働く目的については、「生活のため」が85.4%で最も多く、次いで「経済的・社会的な自立のため」が40.6%、「やりがいや生きがいを得るため」が32.2%、「自分自身を成長させるため」が30.3%となっている。

・働く目的



- 性別でみると、「生活のため」は男性（81.7%）より女性（87.7%）のほうが6.0ポイント、「やりがいや生きがいを得るため」も男性（28.5%）より女性（34.5%）のほうが6.0ポイントそれぞれ高くなっている。
- 年齢別でみると、「生活のため」は15～29歳（82.3%）より30～39歳（88.4%）のほうが6.1ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 働く目的

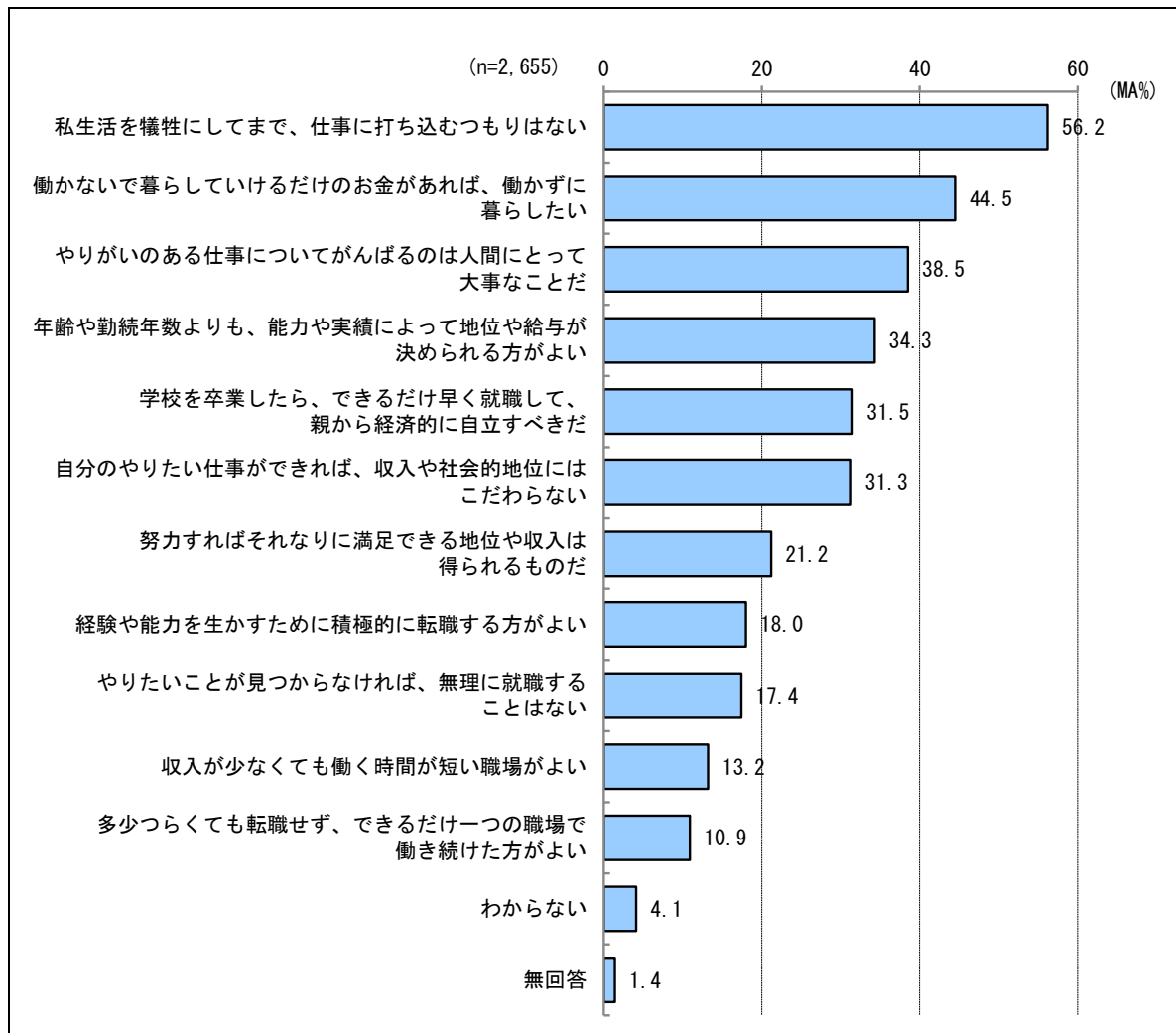


12 職業に対する考え

問37 職業についてのあなたのお考えをお答えください。（〇はいくつでも）

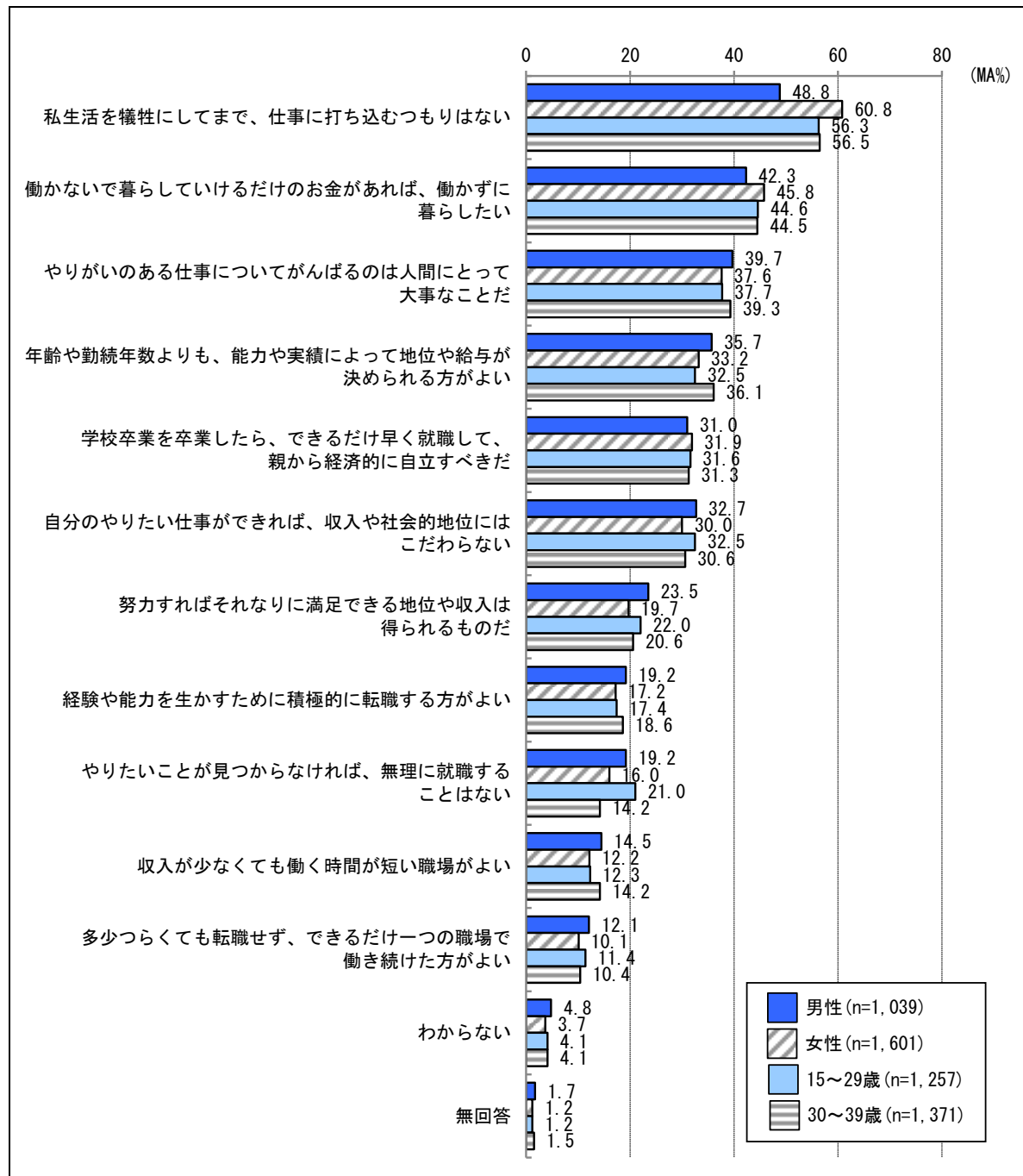
■ 職業に対する考えについては、「私生活を犠牲にしてまで、仕事に打ち込むつもりはない」が56.2%で最も多く、次いで「働かないで暮らしていけるだけのお金があれば、働かずに暮らしたい」が44.5%、「やりがいのある仕事についてがんばるのは人間にとって大事なことだ」が38.5%、「年齢や勤続年数よりも、能力や実績によって地位や給与が決められる方がよい」が34.3%、「学校を卒業したら、できるだけ早く就職して、親から経済的に自立すべきだ」が31.5%、「自分のやりたい仕事ができれば、収入や社会的地位にはこだわらない」が31.3%となっている。

・ 職業に対する考え



- 性別でみると、「私生活を犠牲にしてまで、仕事に打ち込むつもりはない」は男性（48.8%）より女性（60.8%）のほうが12.0ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「やりたいことが見つからなければ、無理に就職することはない」は30～39歳（14.2%）より15～29歳（21.0%）のほうが6.8ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 職業に対する考え



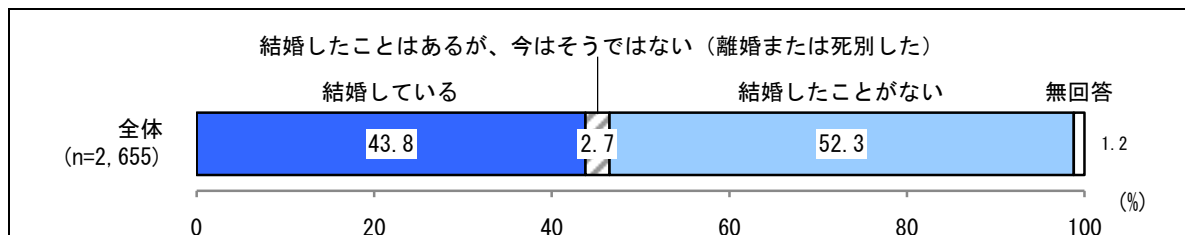
13 結婚の有無

問38 現在、あなたは結婚されていますか。（○は1つ）

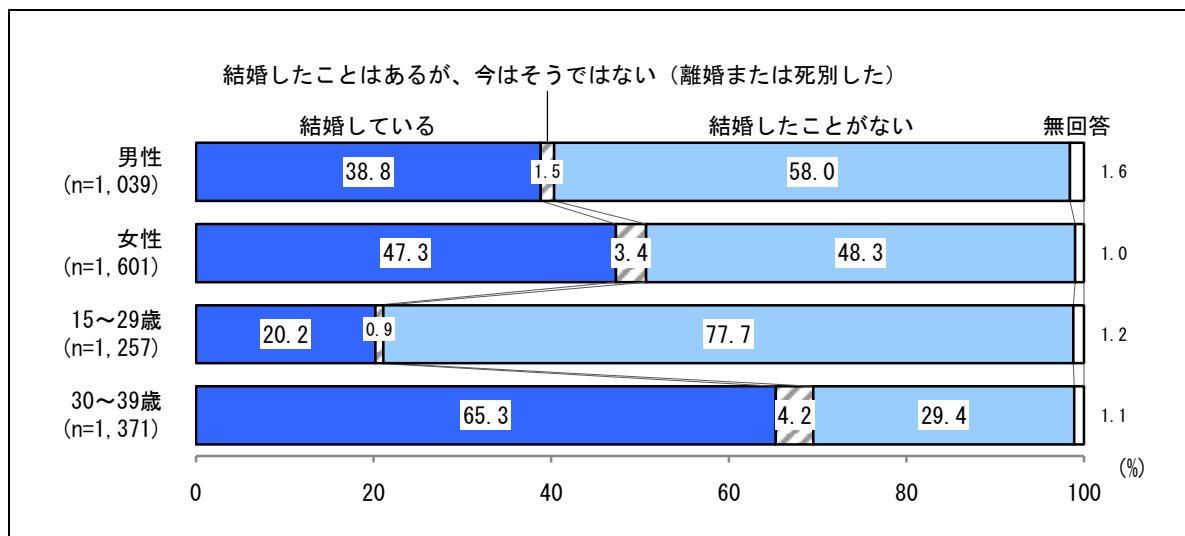
※戸籍の届出の有無にかかわらず、実生活の上で配偶者と同様であるパートナーとの、パートナーシップ関係や内縁関係も含めます。

- 結婚の有無については、「結婚したことがない」が52.3%で最も多く、次いで「結婚している」が43.8%、「結婚したことはあるが、今はそうではない（離婚または死別した）」が2.7%となっている。
- 性別でみると、「結婚している」は男性（38.8%）より女性（47.3%）のほうが8.5ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「結婚したことがない」が77.7%で最も多く、30～39歳は「結婚している」が65.3%で最も多くなっている。

・ 結婚の有無



・ 性別・年齢別 結婚の有無



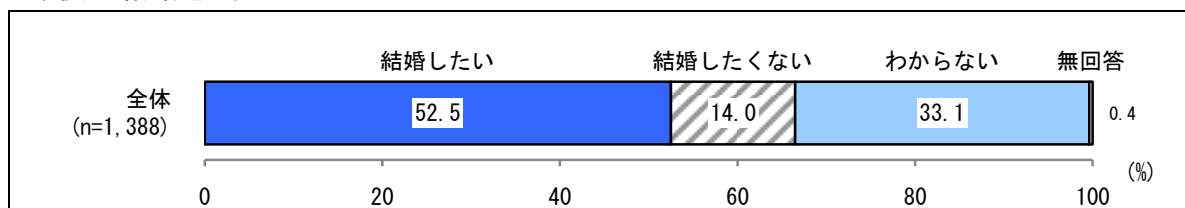
14 今後の結婚意向

問38で「結婚したことがない」を選んだ方におうかがいします。

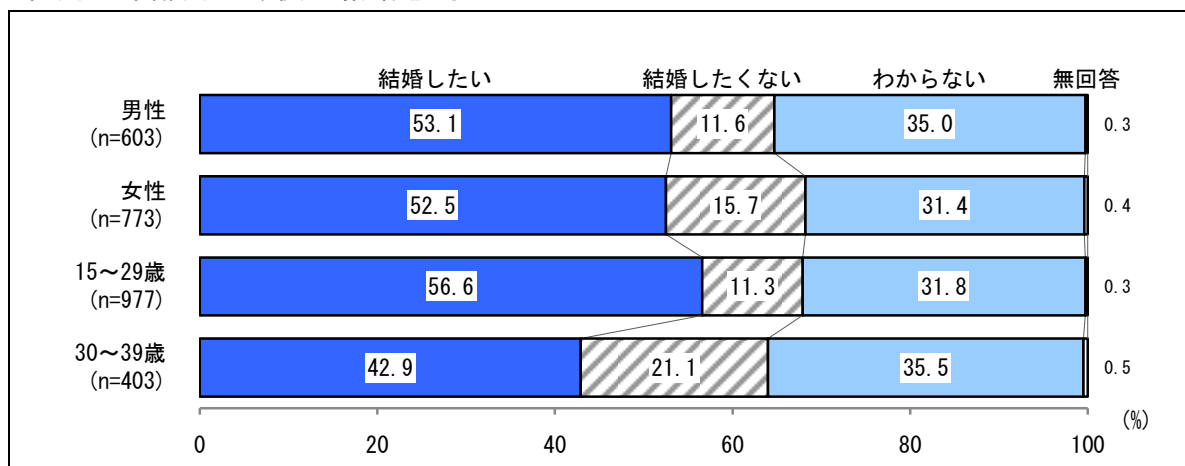
問38-1 あなたは、今後結婚をしたいと思いますか。（○は1つ）

- 「結婚したことがない」と回答した人に、今後の結婚についてたずねると、「結婚したい」が52.5%で最も多く、次いで「わからない」が33.1%、「結婚したくない」が14.0%となっている。
- 性別でみると、「結婚したくない」は、男性（11.6%）より女性（15.7%のほう）が4.1ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「結婚したい」は30～39歳（42.9%）より15～29歳（56.6%）のほう13.7ポイント高く、「結婚したくない」は15～29歳（11.3%）より30～39歳（21.1%）のほう9.8ポイント高くなっている。

・ 今後の結婚意向



・ 性別・年齢別 今後の結婚意向

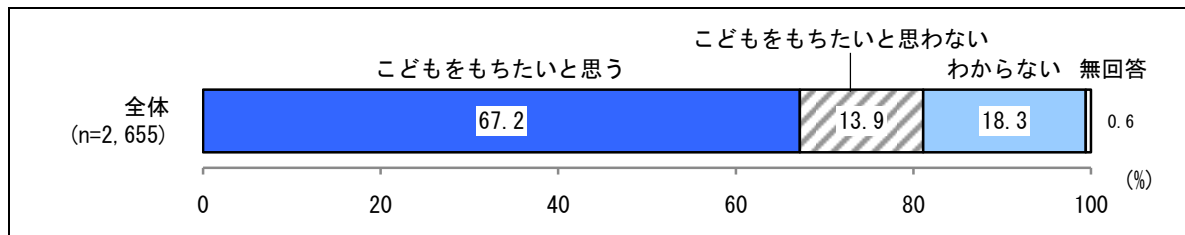


15 こどもをもつことの意向

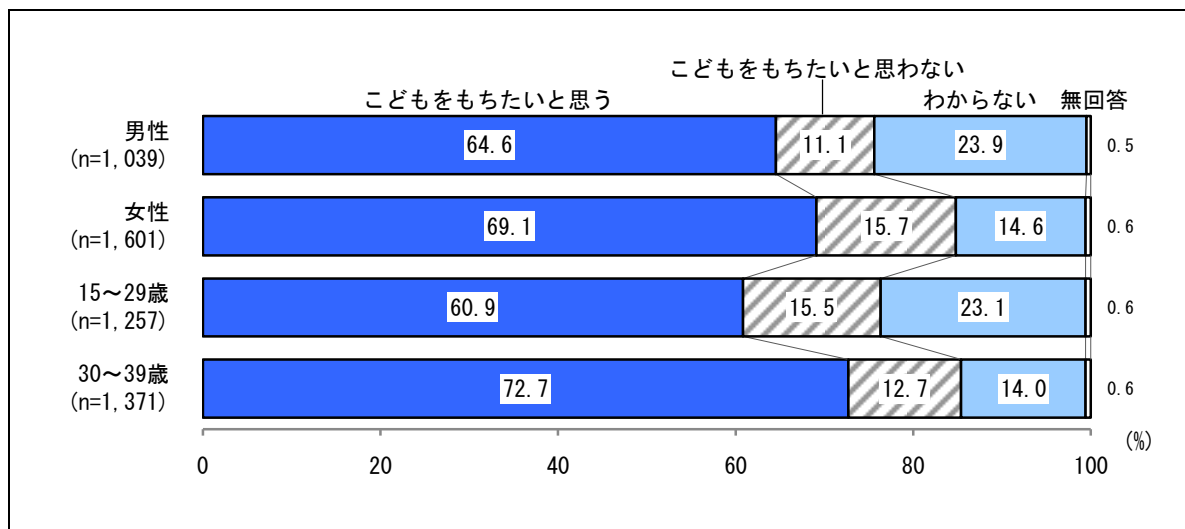
問39 あなた自身がこどもをもつことについて、あなたはどのように思いますか。
(○は1つ)

- こどもをもつことについては、「こどもをもちたいと思う」が67.2%で最も多く、次いで「わからない」が18.3%、「こどもをもちたいと思わない」が13.9%となっている。
- 性別でみると、「こどもをもちたいと思わない」は男性（11.1%）より女性（15.7%）のほうが4.6ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「こどもをもちたいと思う」は15～29歳（60.9%）より30～39歳（72.7%）のほうが11.8ポイント高くなっている。

・ こどもをもつことの意向



・ 性別・年齢別 こどもをもつことの意向



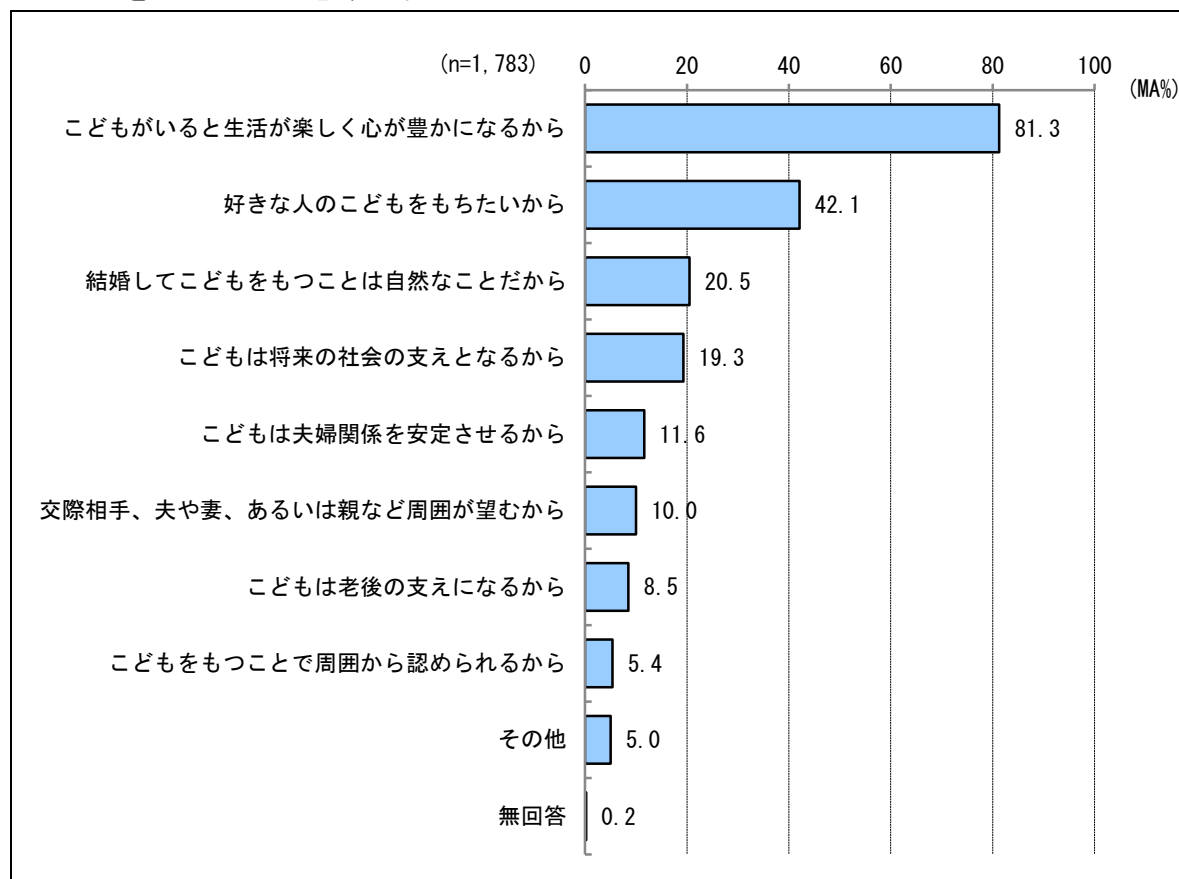
16 こどもをもちたいと思う理由

問39で「こどもをもちたいと思う」を選んだ方におうかがいします。

問39-1 その理由をお答えください。（〇はいくつでも）

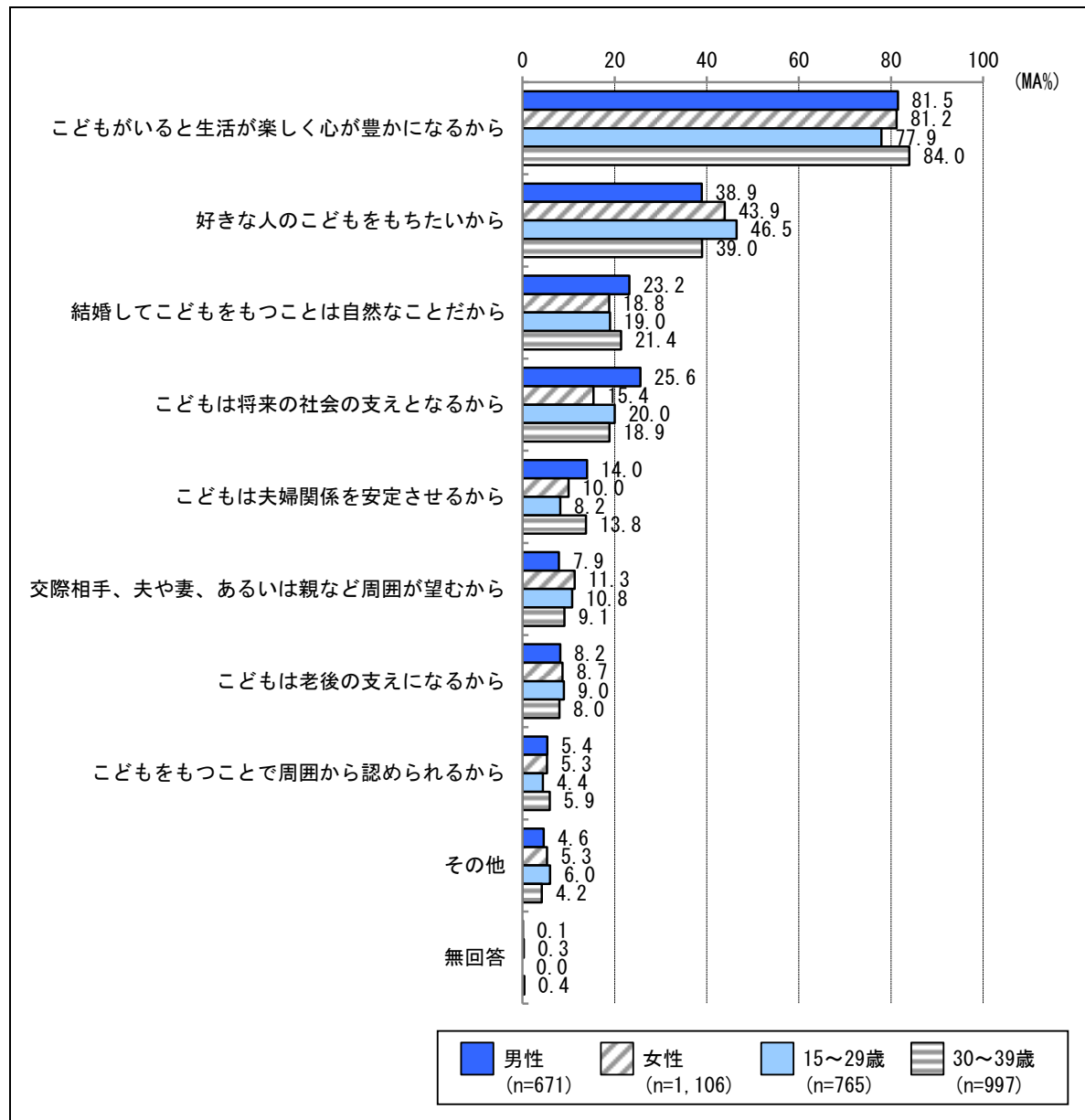
- 「こどもをもちたいと思う」と回答した人に、その理由をたずねると、「こどもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」が81.3%で最も多く、次いで「好きな人のこどもをもちたいから」が42.1%、「結婚してこどもをもつことは自然なことだから」が20.5%、「こどもは将来の社会の支えとなるから」が19.3%となっている。

・ こどもをもちたいと思う理由



- 性別でみると、「こどもは将来の社会の支えとなるから」は女性（15.4%）より男性（25.6%）のほうが10.2ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「好きな人のこどもをもちたいから」は30～39歳（39.0%）より15～29歳（46.5%）のほうが7.5ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 こどもをもちたいと思う理由

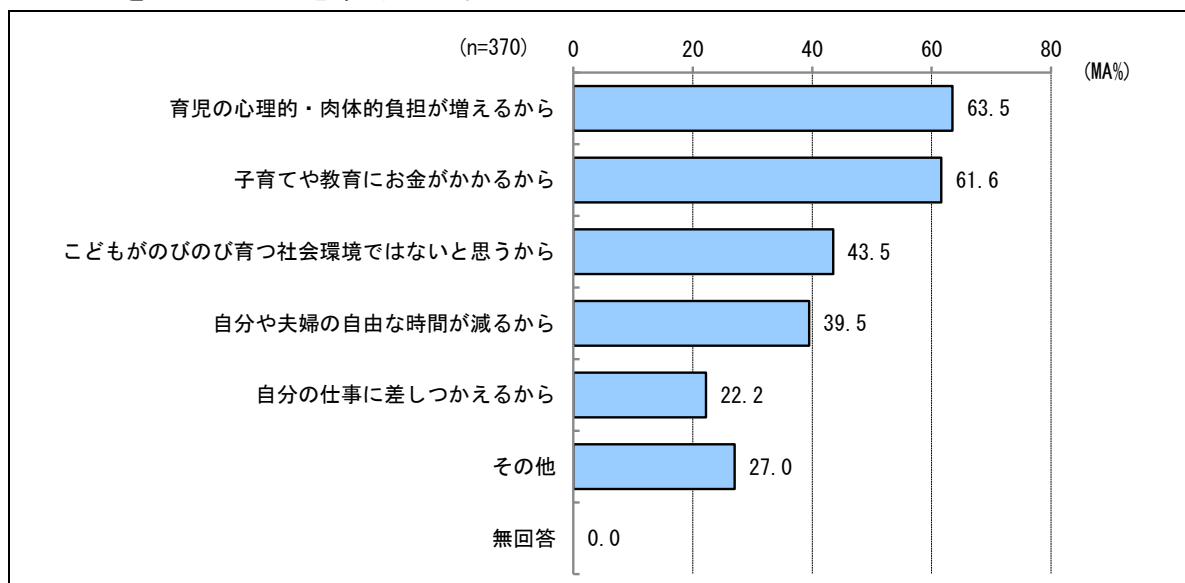


17 こどもをもちたいと思わない理由

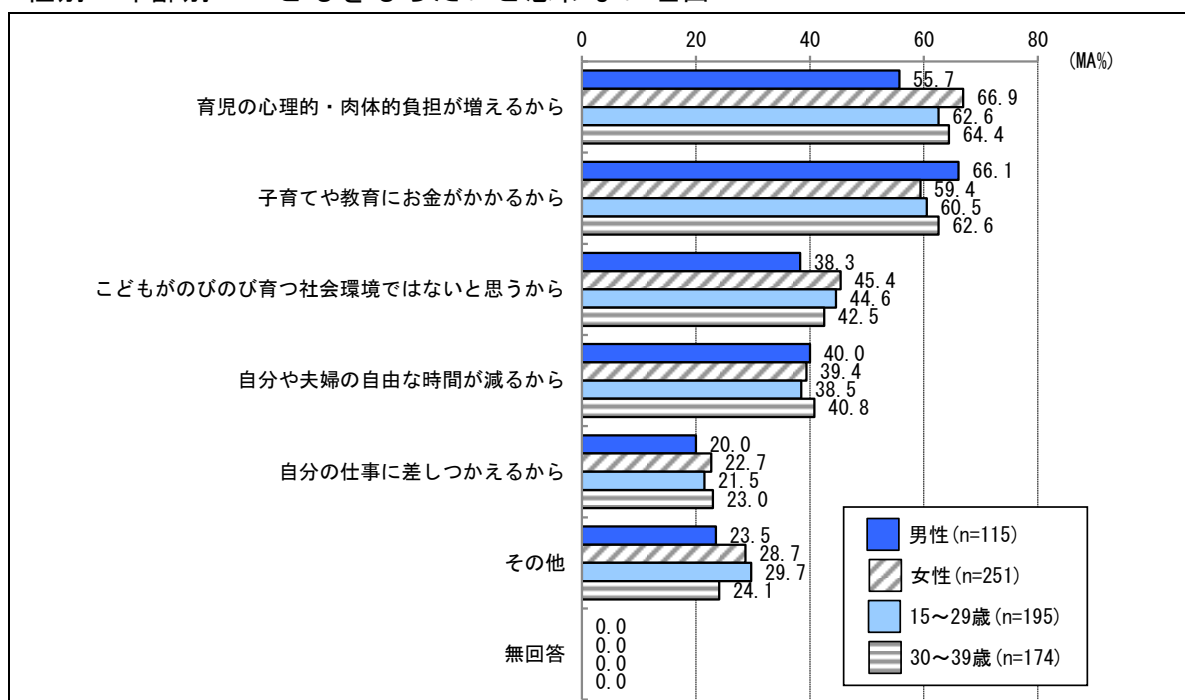
問39で「こどもをもちたいと思わない」を選んだ方におうかがいします。
問39-2 その理由をお答えください。（〇はいくつでも）

- 「こどもをもちたいと思わない」と回答した人に、その理由をたずねると、「育児の心理的・肉体的負担が増えるから」が63.5%で最も多く、次いで「子育てや教育にお金がかかるから」が61.6%、「こどもがのびのび育つ社会環境ではないと思うから」が43.5%、「自分や夫婦の自由な時間が減るから」が39.5%となっている。
- 性別でみると、男性は「子育てや教育にお金がかかるから」（66.1%）が最も多い。女性は「育児の心理的・肉体的負担が増えるから」（66.9%）が最も多く、男性（55.7%）より11.2ポイント高くなっている。
- 年齢別でみても、大きな差はみられない。

・ こどもをもちたいと思わない理由



・ 性別・年齢別 こどもをもちたいと思わない理由

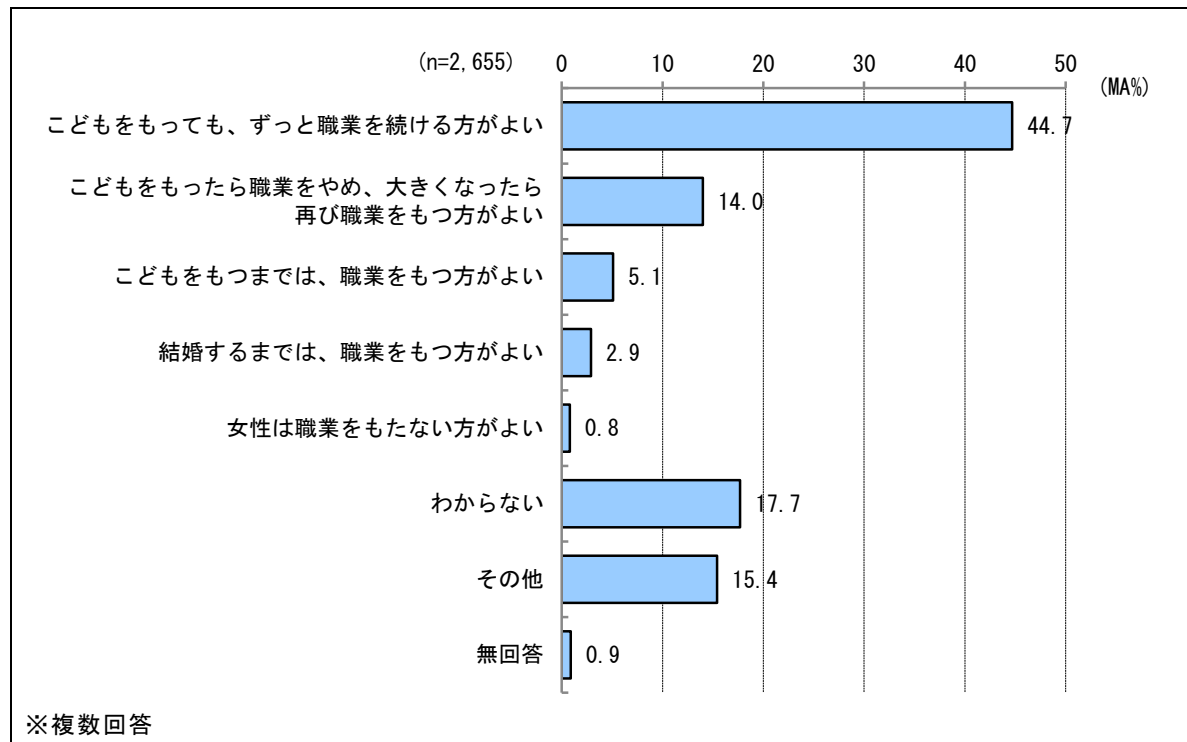


18 女性が職業をもつことについて

問40 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
(○は1つ)

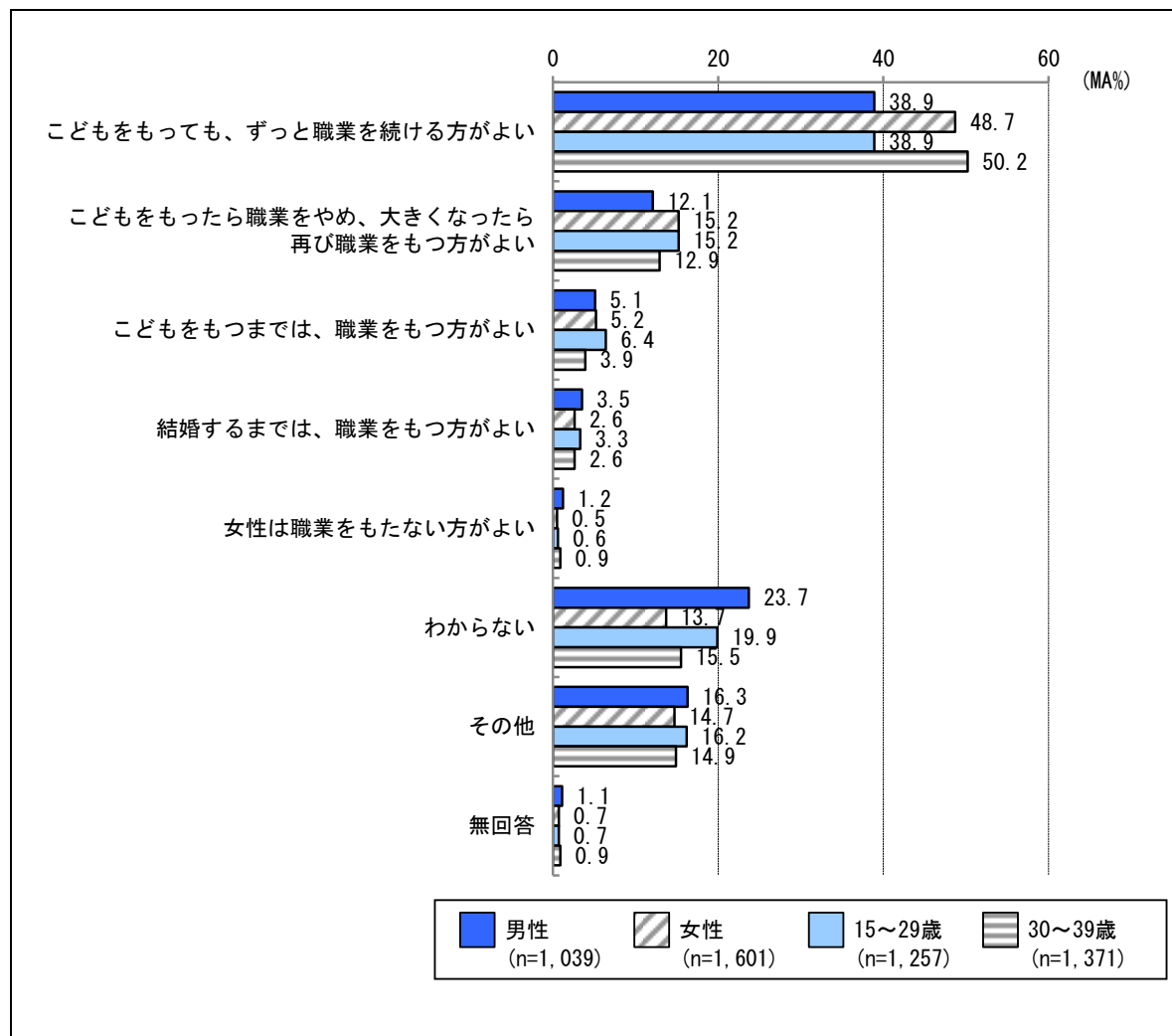
■ 女性が職業をもつことについては、「こどもをもっても、ずっと職業を続ける方がよい」が44.7%で最も多く、次いで「こどもをもったら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が14.0%となっている。

・ 女性が職業をもつことについて



- 性別でみると、「子どもをもっても、ずっと職業を続ける方がよい」は男性（38.9%）より女性（48.7%）のほうが9.8ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「子どもをもっても、ずっと職業を続ける方がよい」は15～29歳（38.9%）より30～39歳（50.2%）のほうが11.3ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 女性が職業をもつことについて



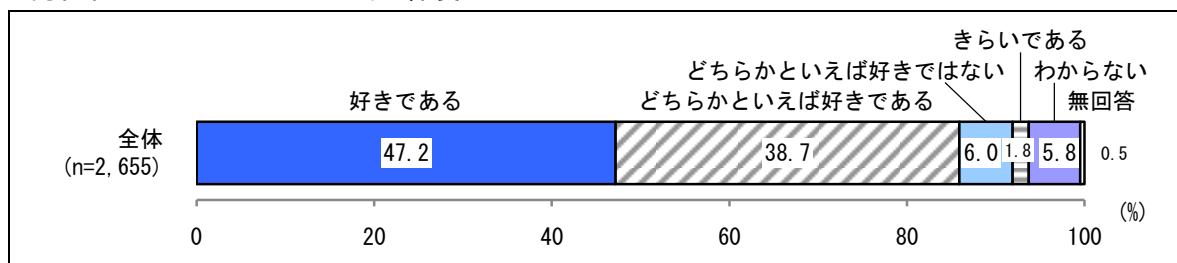
IX. 地域への愛着について

1 現在住んでいるところの愛着度

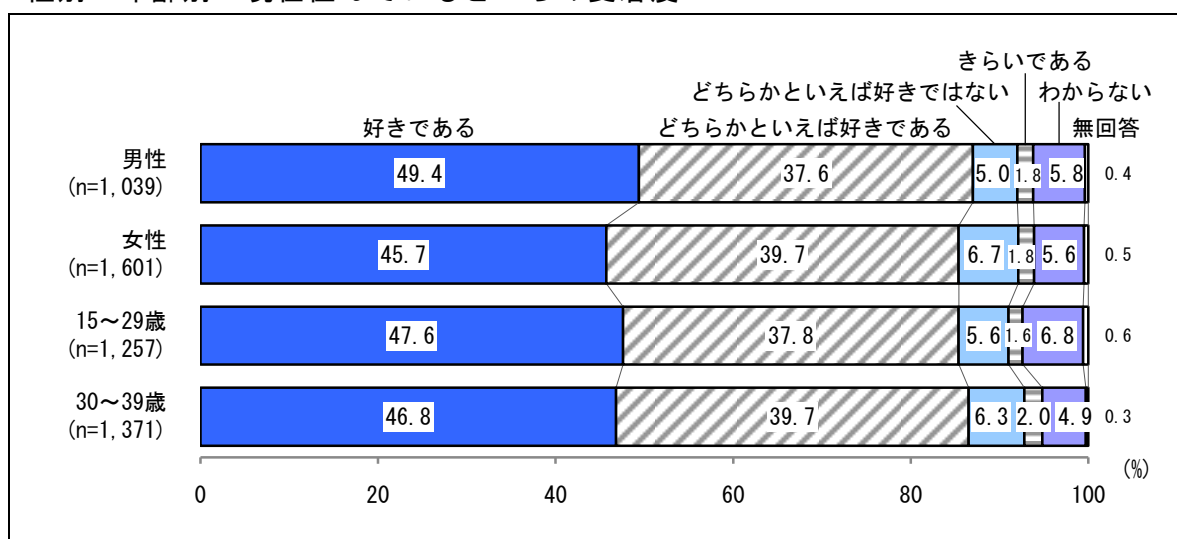
問41 あなたは、現在住んでいるところが好きですか。（○は1つ）

- 現在住んでいるところが好きかについて、「好きである」が47.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば好きである」が38.7%となっており、両者をあわせた85.9%の人は好きだと回答している。一方、「どちらかといえば好きではない」（6.0%）と「嫌いである」（1.8%）の両者をあわせた7.8%の人は好きではないと回答している。
- 性別でみると、「好きである」は女性（45.7%）より男性（49.4%）のほうが3.7ポイント高くなっている。
- 年齢別でみても、大きな差はみられない。

・ 現在住んでいるところの愛着度



・ 性別・年齢別 現在住んでいるところの愛着度



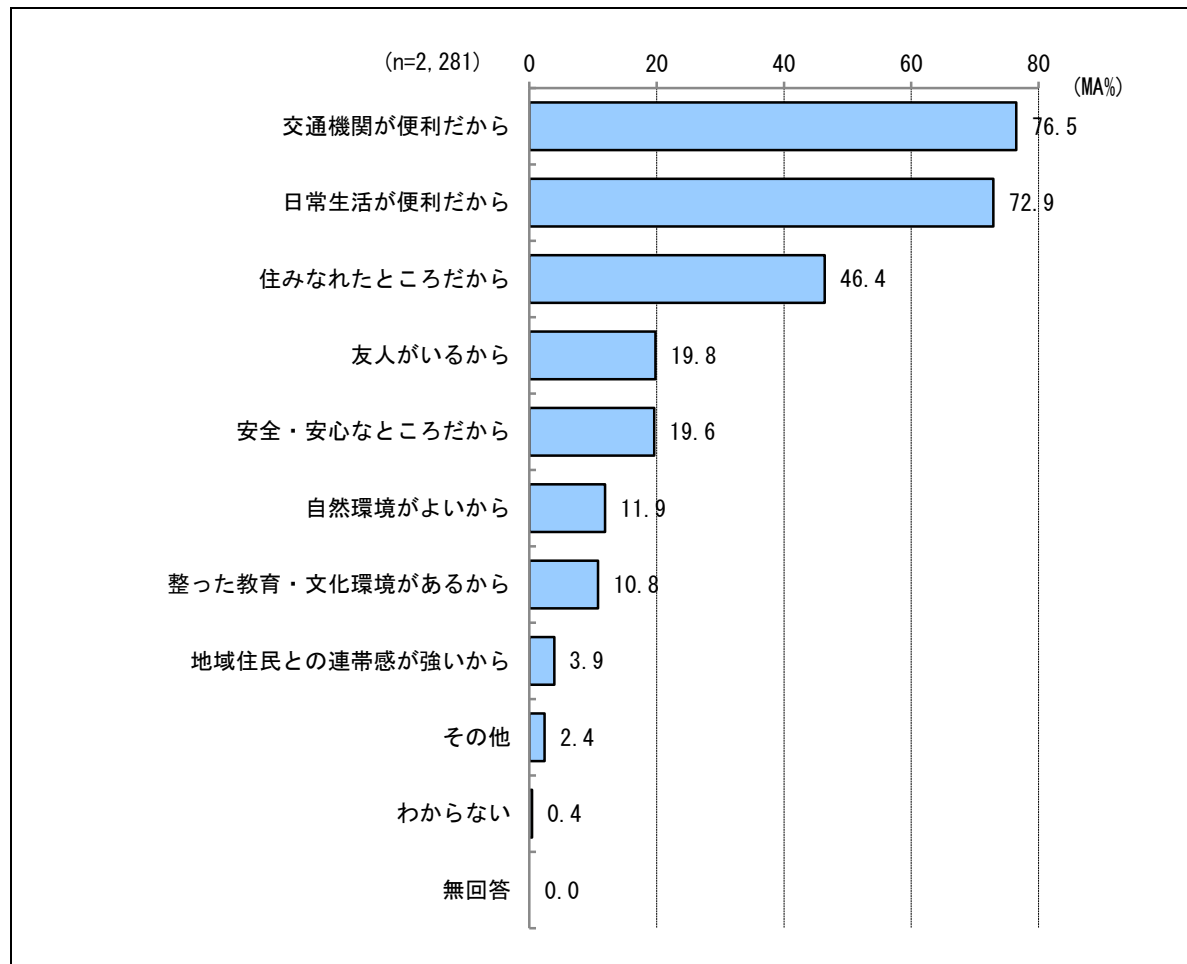
2 現在住んでいるところが好きな理由

問41で『好きである』を選んだ方におうかがいします。

問41-1 その理由をお答えください。（〇はいくつでも）

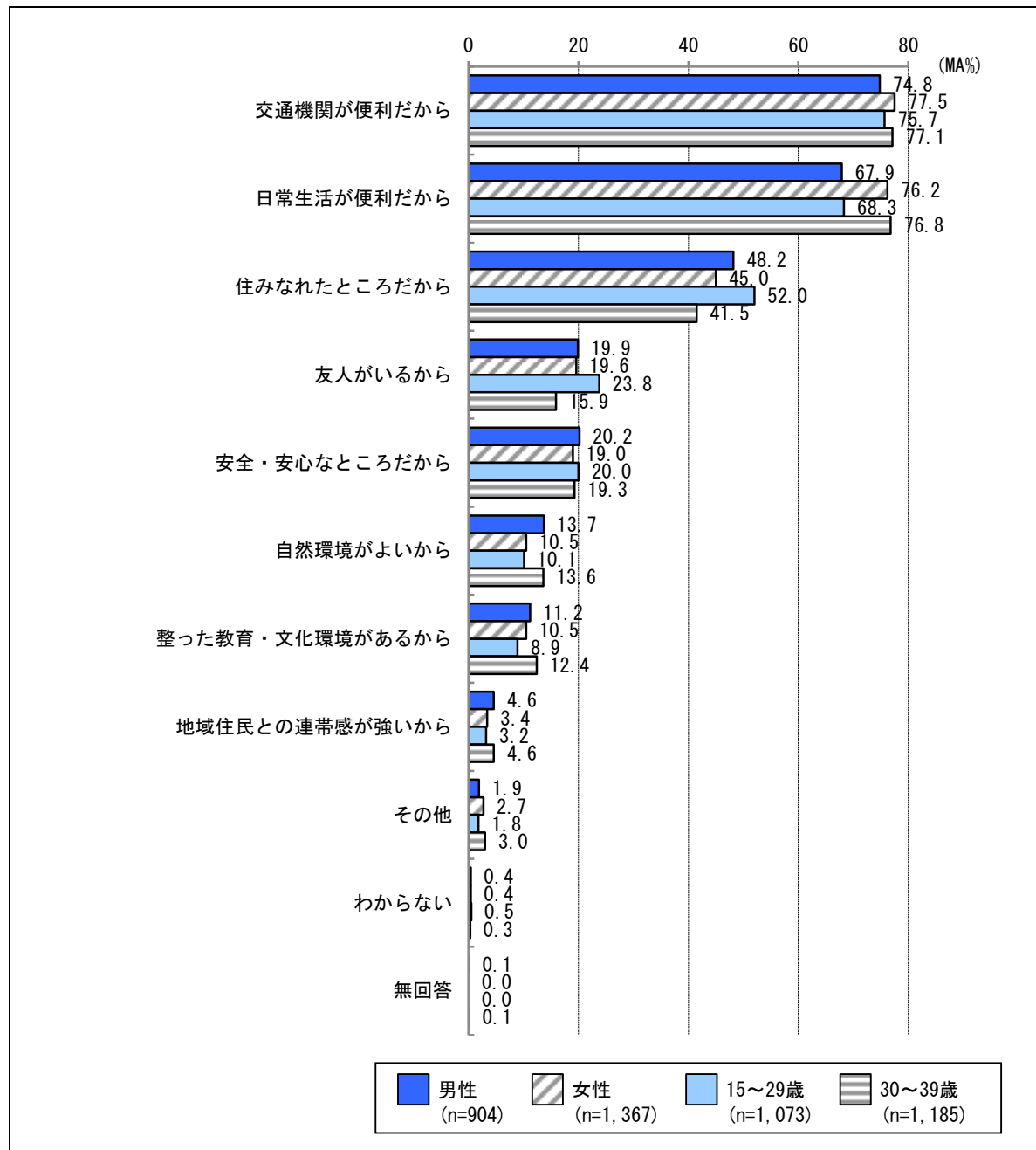
- 「現在住んでいるところが好きである」と回答した人に、その理由をたずねると、「交通機関が便利だから」が76.5%で最も多く、次いで「日常生活が便利だから」が72.9%、「住みなれたところだから」が46.4%となっている。

・現在住んでいるところが好きな理由



- 性別でみると、「日常生活が便利だから」は男性（67.9%）より女性（76.2%）のほうが8.3ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「住みなれたところだから」は30～39歳（41.5%）より15～29歳（52.0%）のほうが10.5ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 現在住んでいるところが好きな理由



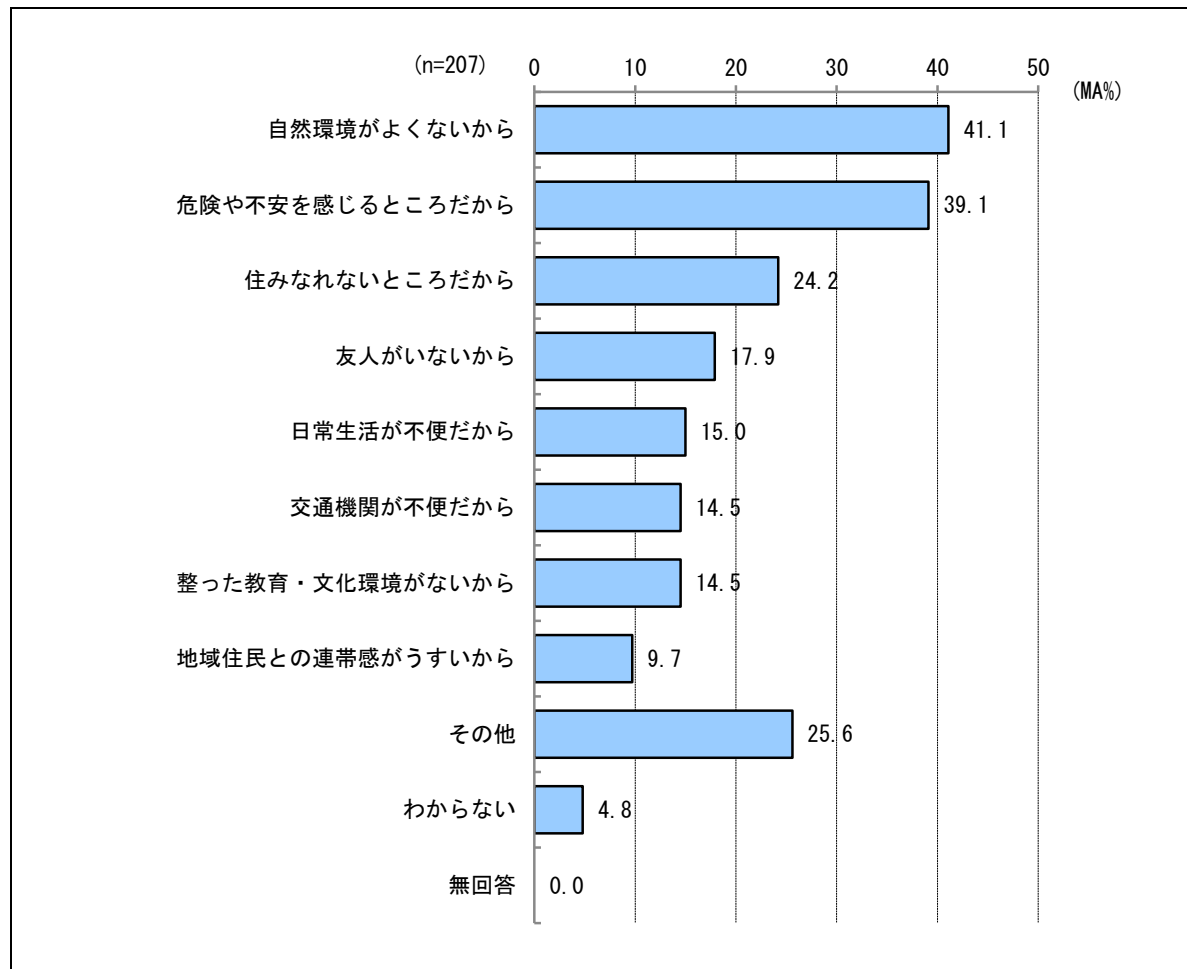
3 現在住んでいるところが好きではない理由

問41で「どちらかというとき好きではない」、「きれいである」を選んだ方におうかがいします。

問41-2 その理由をお答えください。（○はいくつでも）

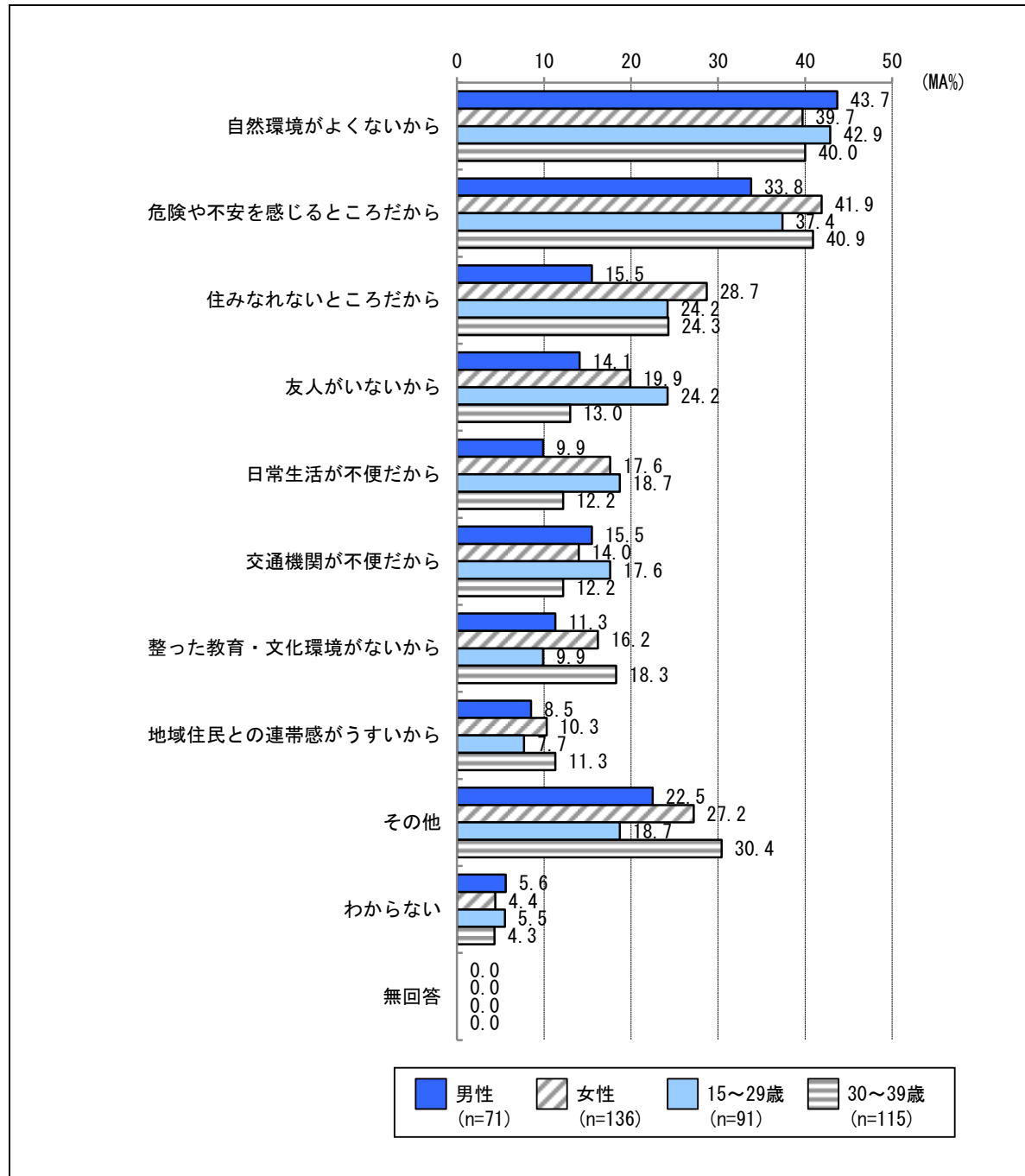
■ 現在住んでいるところが「どちらかというとき好きではない」、「きれいである」と回答した人に、その理由をたずねると、「自然環境がよくないから」が41.1%で最も多く、次いで「危険や不安を感じる場所だから」が39.1%、「住みなれない場所だから」が24.2%となっている。

・ 現在住んでいるところが好きではない理由



- 性別でみると、男性は「自然環境がよくないから」が43.7%で最も多く、女性は「危険や不安を感じるところだから」が41.9%で最も多くなっている。
- 年齢別でみると、15～29歳は「自然環境がよくないから」が42.9%で最も多く、30～39歳は「危険や不安を感じるところだから」が40.9%で最も多くなっている。

・性別・年齢別 現在住んでいるところが好きではない理由

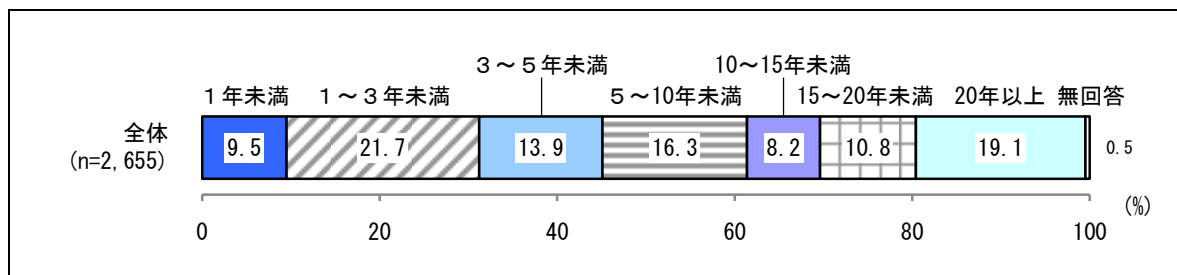


4 居住年数

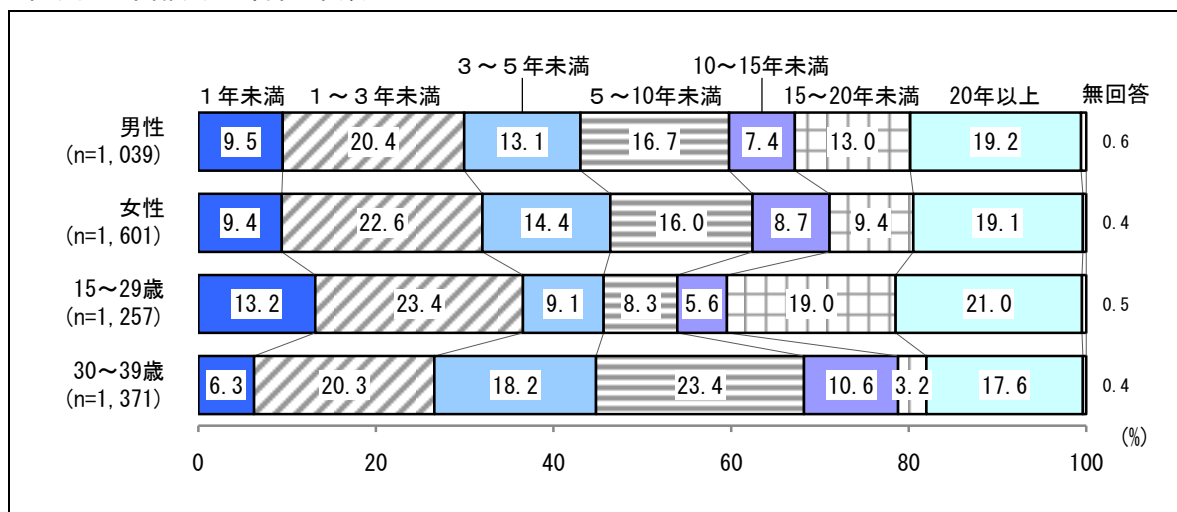
問42 あなたは、今のところに住みはじめてからどのくらい経ちますか。(○は1つ)

- 今のところに住みはじめてからの居住年数については、「1～3年未満」が21.7%で最も多く、次いで「20年以上」が19.1%、「5～10年未満」が16.3%となっている。
- 性別でみると、「15～20年未満」は女性（9.4%）より男性（13.0%）のほうが3.6ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「3～5年未満」は15～29歳（9.1%）より30～39歳（18.2%）のほうが9.1ポイント、「5～10年未満」は15～29歳（8.3%）より30～39歳（23.4%）のほうが15.1ポイント、それぞれ高くなっている。

・居住年数



・性別・年齢別 居住年数

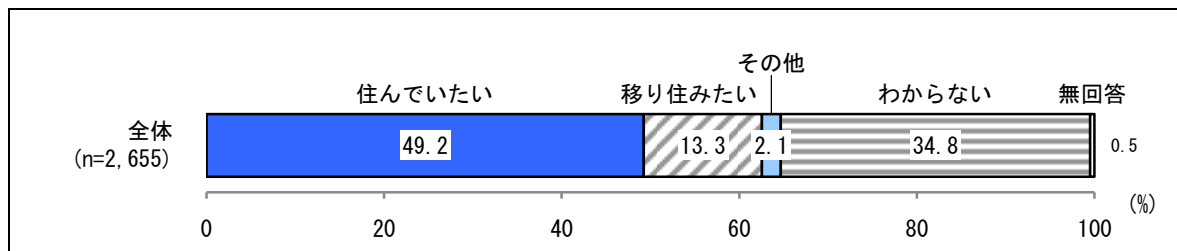


5 大阪市の継続居住意向

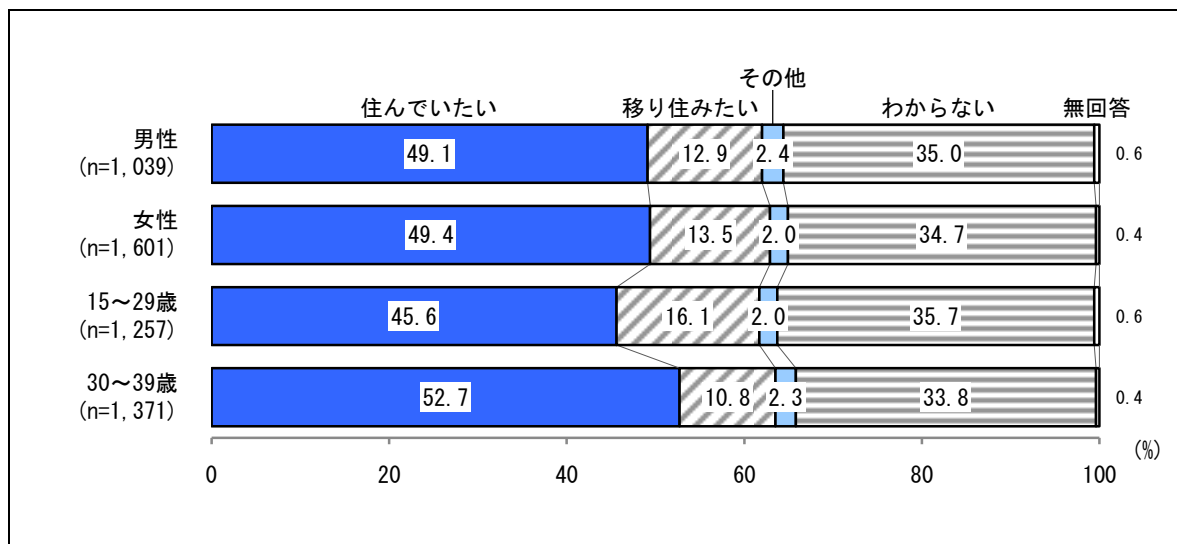
問43 あなたは、将来ずっと大阪市に住んでいたいと思いますか。（○は1つ）

- 将来ずっと大阪市に住んでいたいと思うかについて、「住んでいたい」が49.2%で最も多く、「わからない」が34.8%、「移り住みたい」は13.3%となっている。
- 性別でみても、大きな差はみられない。
- 年齢別でみると、「住んでいたい」は15～29歳（45.6%）より30～39歳（52.7%）のほうが7.1ポイント高くなっている。

・ 大阪市の継続居住意向



・ 性別・年齢別 大阪市の継続居住意向

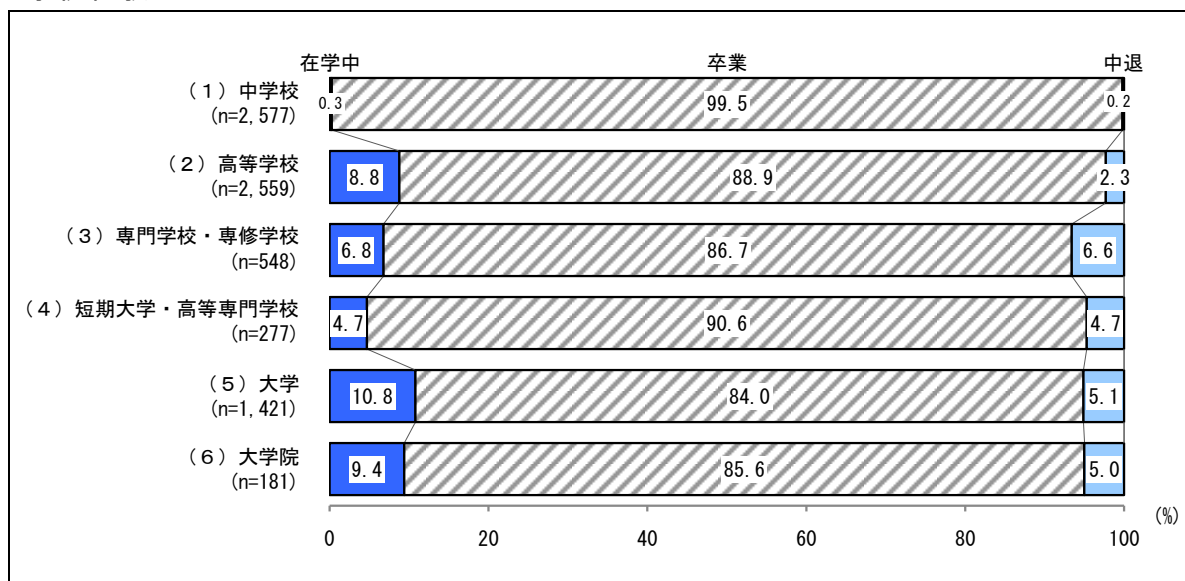


X. 学校の経験について

問44 あなたの学校の経験について、学校ごとにあてはまる番号に○をつけてください。（経験がある学校ごとに○は1つ）

- 学校の経験について、中学校は、「卒業」が99.5%となっている。
- 高等学校は、「卒業」が88.9%、「在学中」が8.8%、「中退」が2.3%となっている。
- 専門学校・専修学校は、「卒業」が86.7%、「在学中」が6.8%、「中退」が6.6%となっている。
- 短期大学・高等専門学校は、「卒業」が90.6%、「在学中」「中退」ともに4.7%となっている。
- 大学は、「卒業」が84.0%、「在学中」が10.8%、「中退」が5.1%となっている。
- 大学院は、「卒業」が85.6%、「在学中」が9.4%、「中退」が5.0%となっている。

・ 学校経験

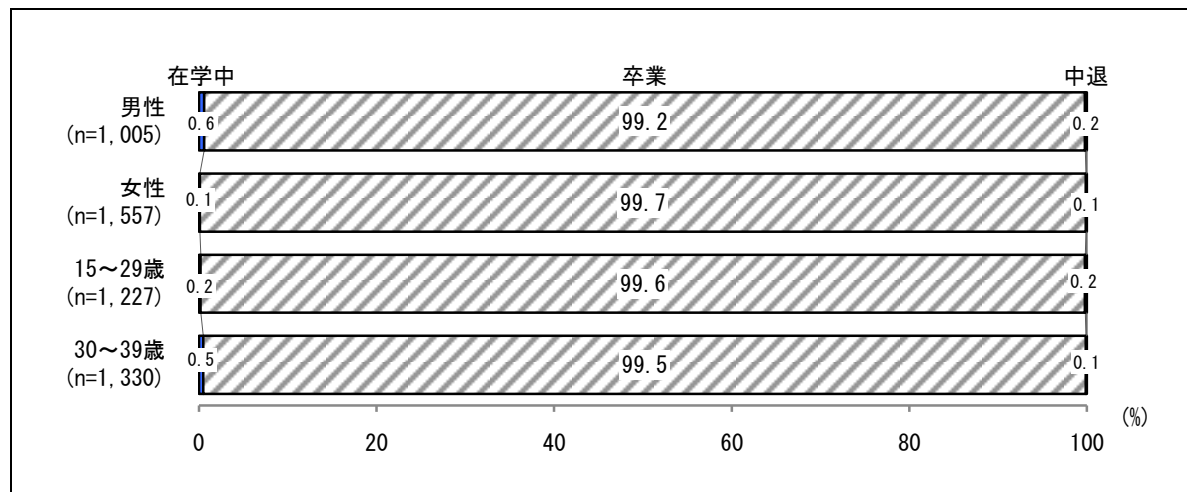


※無回答を除いた集計

■ 中学校の経験について、性別でみても、大きな差はみられない。

■ 年齢別でみても、大きな差はみられない。

・ 性別・年齢別 中学校の経験

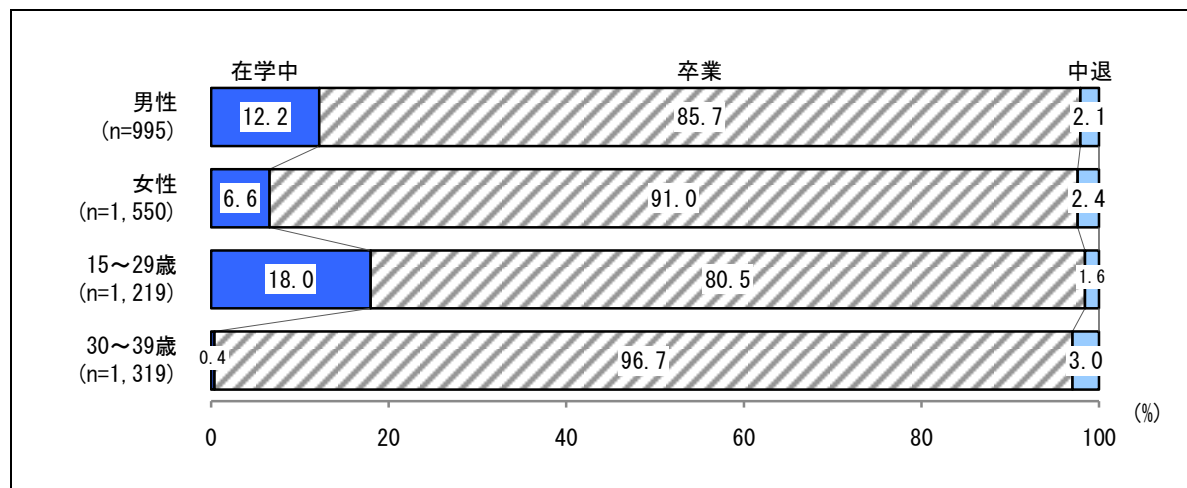


※無回答を除いた集計

■ 高等学校の経験について、性別でみると、「卒業」は男性 (85.7%) より女性 (91.0%) のほうが5.3ポイント高くなっている。

■ 年齢別でみると、「卒業」は15～29歳 (80.5%) より30～39歳 (96.7%) のほうが16.2ポイント高くなっている。

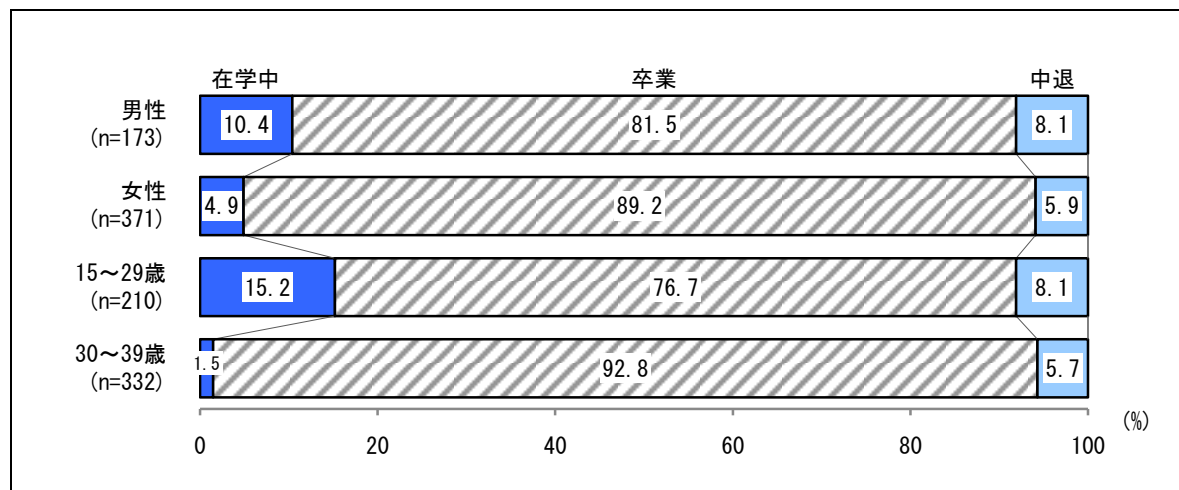
・ 性別・年齢別 高等学校の経験



※無回答を除いた集計

- 専門学校・専修学校の経験について、性別でみると、「卒業」は男性（81.5%）より女性（89.2%）のほうが7.7ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「卒業」は15～29歳（76.7%）より30～39歳（92.8%）のほうが16.1ポイント高くなっている。

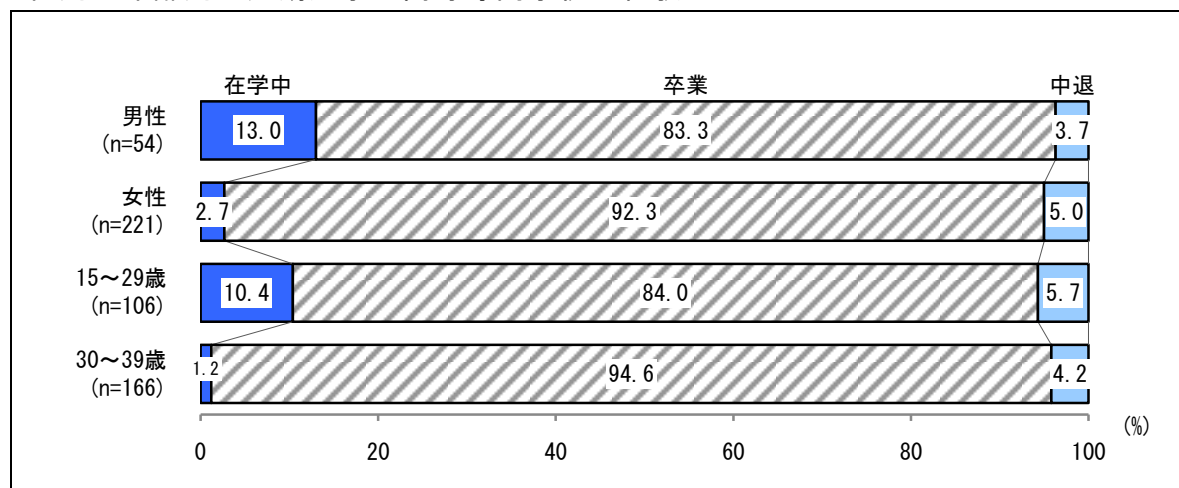
・ 性別・年齢別 専門学校・専修学校の経験



※無回答を除いた集計

- 短期大学・高等専門学校経験について、性別でみると、「卒業」は男性（83.3%）より女性（92.3%）のほうが9.0ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「卒業」は15～29歳（84.0%）より30～39歳（94.6%）のほうが10.6ポイント高くなっている。

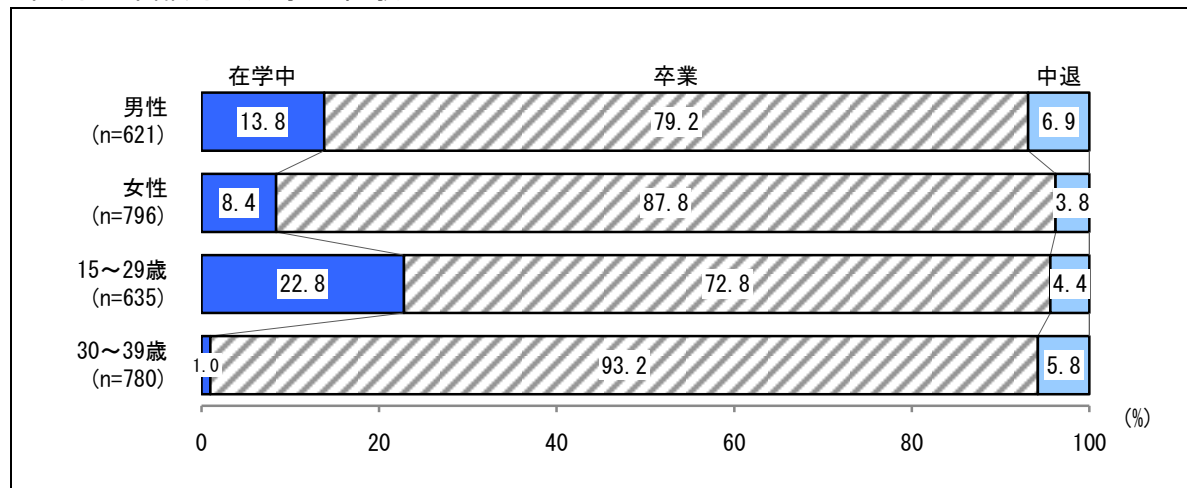
・ 性別・年齢別 短期大学・高等専門学校の経験



※無回答を除いた集計

- 大学の経験について、性別で見ると、「卒業」は男性（79.2％）より女性（87.8％）のほうが8.6ポイント高くなっている。
- 年齢別で見ると、「卒業」は15～29歳（72.8％）より30～39歳（93.2％）のほうが20.4ポイント高くなっている。

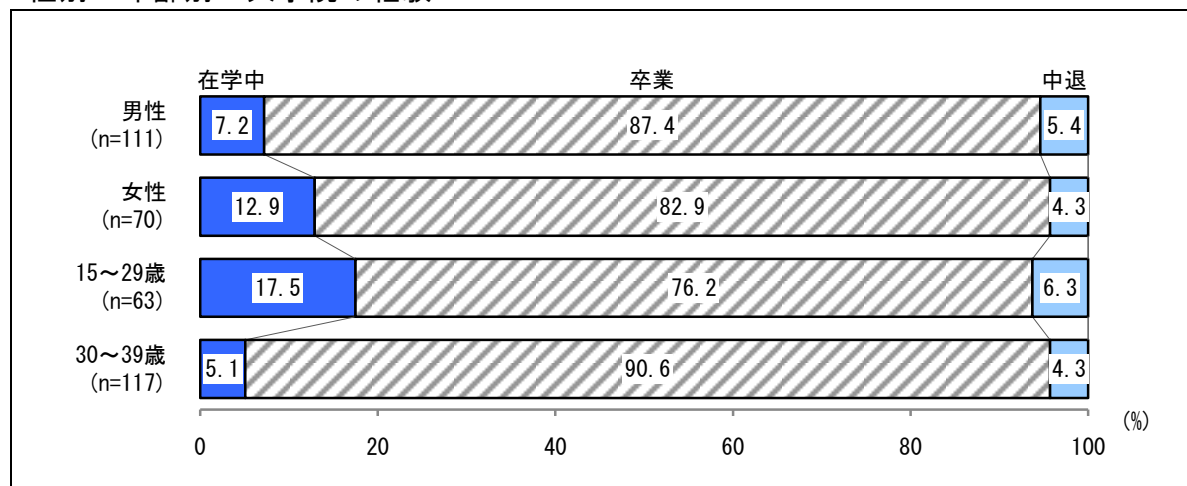
・性別・年齢別 大学の経験



※無回答を除いた集計

- 大学院の経験について、性別で見ると、「卒業」は女性（82.9％）より男性（87.4％）のほうが4.5ポイント高くなっている。
- 年齢別で見ると、「卒業」は15～29歳（76.2％）より30～39歳（90.6％）のほうが14.4ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 大学院の経験



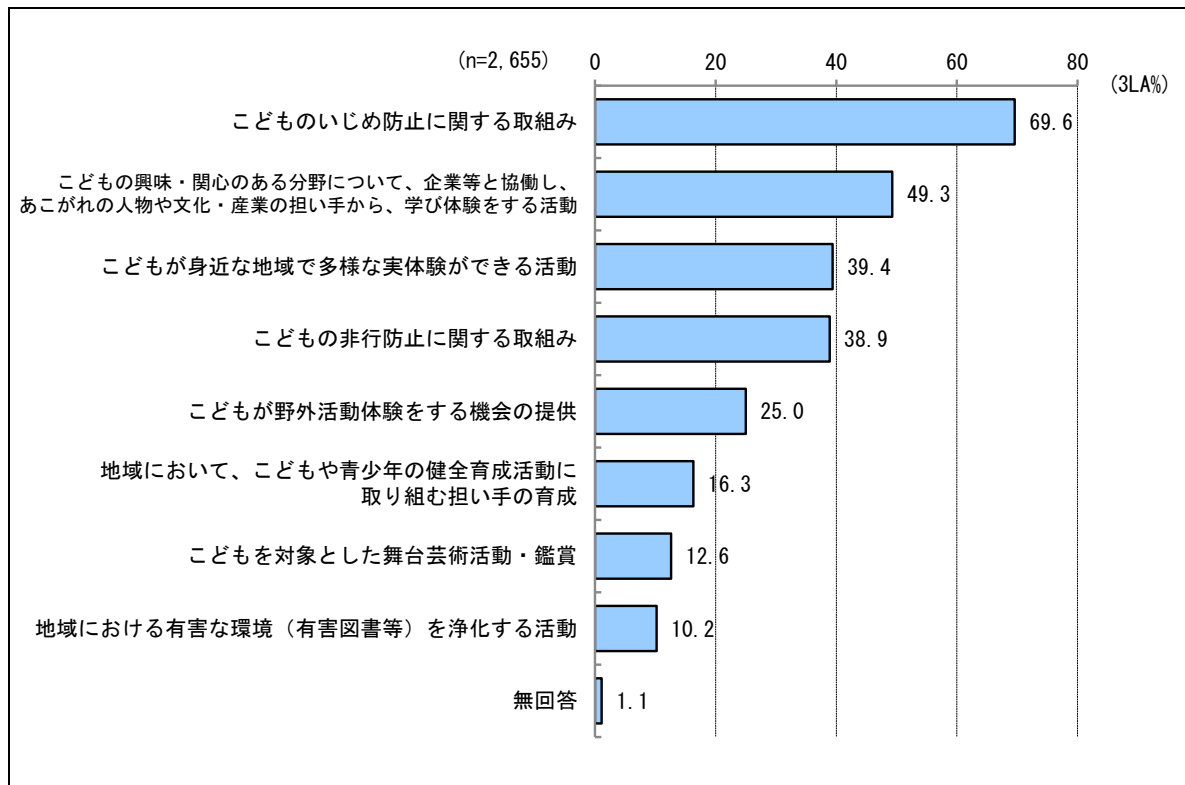
※無回答を除いた集計

XI. こどもの健全育成のために優先して実施すべき施策

問45 こどもの健全育成のために、大阪市が実施している次の施策のうち、優先して実施すべきと思う施策をお答えください。
(優先度の高いものから上位3つまでに○)

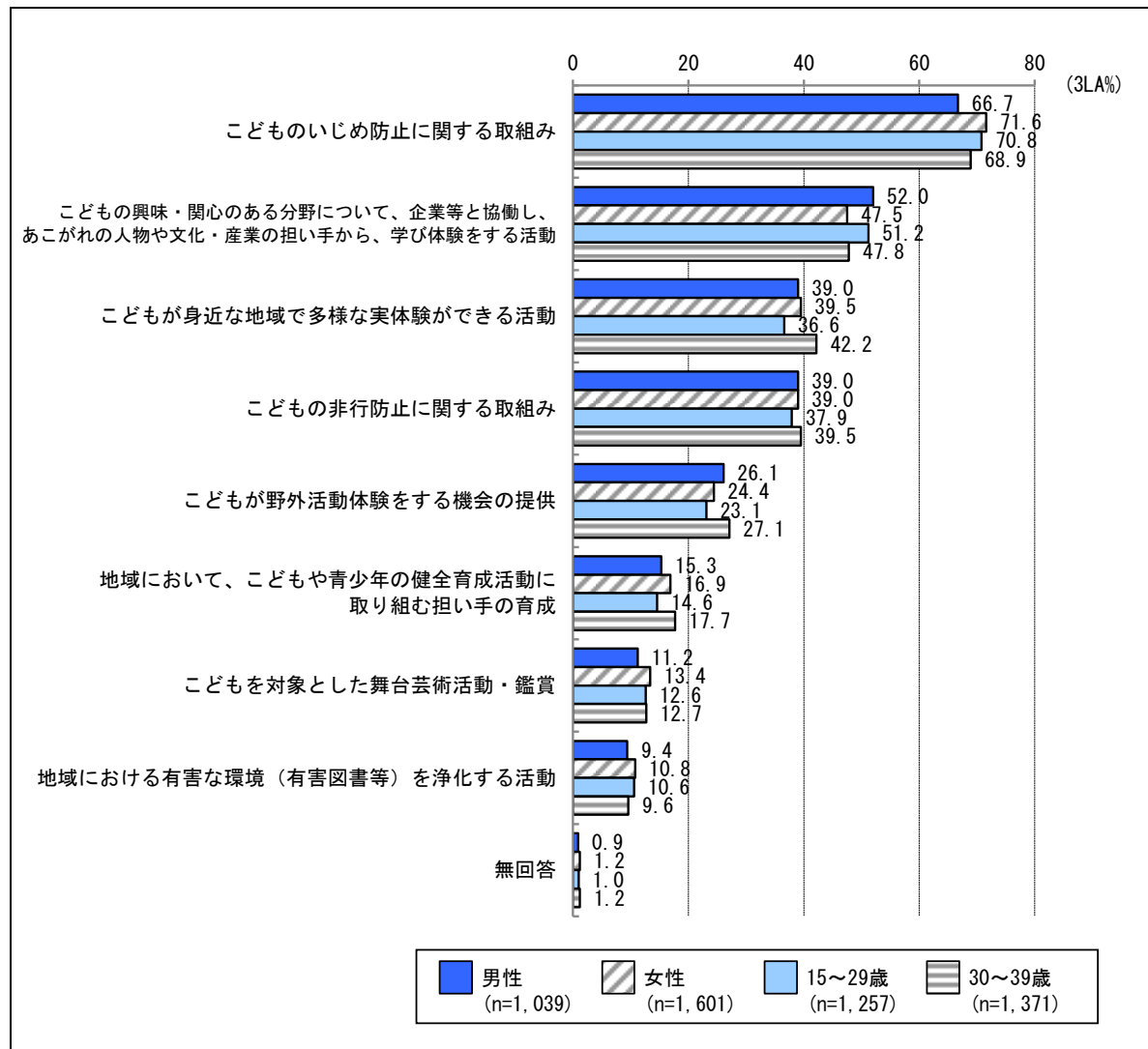
■ こどもの健全育成のために優先して実施すべき施策については、「こどものいじめ防止に関する取組み」が69.6%で最も多く、次いで「こどもの興味・関心のある分野について、企業等と協働し、あこがれの人物や文化・産業の担い手から、学び体験をする活動」が49.3%、「こどもが身近な地域で多様な実体験ができる活動」が39.4%、「こどもの非行防止に関する取組み」が38.9%となっている。

・ こどもの健全育成のために優先して実施すべき施策



- 性別でみると、「こどものいじめ防止に関する取組み」は男性（66.7%）より女性（71.6%）のほうが4.9ポイント高くなっている。
- 年齢別でみると、「こどもが身近な地域で多様な実体験ができる活動」は15～29歳（36.6%）より30～39歳（42.2%）のほうが5.6ポイント高くなっている。

・性別・年齢別 こどもの健全育成のために優先して実施すべき施策



大阪市こども・子育て支援に関するニーズ調査
報 告 書

発行 大阪市こども青少年局企画部企画課
〒530-8201 大阪市北区中之島 1 丁目 3 番20号
電話 06-6208-8337 FAX 06-6202-7020
